



北海道博物館要覧 2019

北海道博物館要覧

2019



ご あ い さ つ

平成 27(2015)年 4 月に開館しました「北海道博物館」は、北海道開拓記念館(1971 年開館)と北海道立アイヌ民族文化研究センター(1994 年開所)という 2 つの道立施設を統合して新たに開設された博物館であり、2 つの道立施設がそれぞれなりに築き上げてきた伝統や優れた業績を受け継ぎ、名実共に北海道を代表する「総合博物館」をめざしています。

開館に当たりまして、博物館をとりまく社会状況の変化、北海道の地域的特性などを踏まえ、北海道博物館が果たすべき 4 つの社会的使命を明文化し、道民と共に歩み、愛される博物館として「道民参画型博物館」をめざすとともに、北海道の「中核的博物館」として地域の博物館などとの連携を図り、地域活性化に貢献することをめざしています。また、北海道博物館は、約 30 名の学芸員・研究職員を擁する「研究博物館」でもあり、多様な専門的・総合的研究の成果を活かして北海道の未来への貢献を図っています。さらには、アイヌの歴史や有形・無形の文化に関する専門的研究組織を有する世界に誇るべき総合博物館として、アイヌ文化の振興に寄与するとともに、多文化共生社会の実現に貢献します。



北海道博物館長

石 森 秀 三

総合展示は「北東アジアのなかの北海道」と「自然と人のかかわり」をコンセプトとし、北海道の自然・歴史・文化を物語る 5 つのテーマで構成しています。プロローグ「北と南の出会い」に始まり、「北海道 120 万年物語」、「アイヌ文化の世界」、「北海道らしさの秘密」、「わたしたちの時代へ」、「生き物たちの北海道」へと続き、北海道の自然・歴史・文化について共に考え、語り合える場として、数多くの皆様方にご利用いただいております。幸い、旧北海道開拓記念館の末期には年間入館者数が 5 万人程度でしたが、北海道博物館の初年度には約 15 万人、2018 年度におきましても約 10 万人の入館者をお迎えすることができました。

また、北海道博物館としての特別展も、2015 年度の開館記念特別展「夷酋列像：蝦夷地イメージをめぐる人・物・世界」を皮切りに、2016 年度は「ジオパークへ行こう！ー恐竜、アンモナイト、火山、地球の不思議を探る旅ー」、2017 年度は「プレイボール！ー北海道と野球をめぐる物語ー」、2018 年度は「幕末維新を生きた旅の巨人 松浦武四郎ー見る、集める、伝えるー」を開催し、幅広い層の方々に観覧いただくとともに、北海道の地域振興や北海道 150 年事業に貢献するなど、北海道の中核的博物館としての役割を着実に果たして参りました。また、2019 年度は「アイヌ語地名と北海道」を開催し、北海道遺産にも選定されているアイヌ語地名をはじめ、地名をとおして北海道を見つめ直す機会を創出したところです。

現在、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、世界情勢は混沌とした状況下にあります。社会・経済への影響は底知れなく、博物館運営においても多大な困難が生じています。そのようななか、北海道博物館では、2020 年 3 月 4 日より、博物館ならではの学習コンテンツを発信するサイト「おうちミュージアム」を公開しました。その後、全国の博物館等からこのサイトへの参加協力をいただき、そのネットワークと利用者は日に日に増大するなど、博物館の世界においても新たな事業展開が萌芽しつつあります。折しも、北海道博物館は開館から 5 年が経過しました。この節目を機に、館員一同気持ちを新たにこの難局を乗り越え、道民が豊かな生活をいち早く取り戻していけるように貢献していく所存であります。今後とも何卒宜しくご指導、ご鞭撻、ご支援を賜われますように、心よりお願い申し上げます。

目 次

ごあいさつ	1
目次	2
I 北海道博物館の役割と施設概要	
1 館の沿革	6
統合した2つの施設	
2 北海道博物館の使命	9
3 北海道博物館の愛称「森のちゃれんが」とロゴマーク	9
愛称	
ロゴマーク	
4 施設概要	10
館の位置と環境	
建物の基本構想と設計	
施設の概要	
5 総合展示室	14
プロローグ 北と南の出会い	
第1テーマ 北海道120万年物語	
第2テーマ アイヌ文化の世界	
第3テーマ 北海道らしさの秘密	
第4テーマ わたしたちの時代へ	
第5テーマ 生き物たちの北海道	
6 特別展示室	18
7 館内の施設	19
8 周辺の施設	21
II 北海道博物館の活動(2019年度)	
1 調査研究	22
道費による研究プロジェクト(海外交流を含む)	
科研費ほか外部資金	
研究成果の発信と公開	
2 資料の収集・保存・活用	32
当館の資料	
資料の収集	
資料目録	
資料の収蔵と保存管理	
資料情報の管理	
資料の活用	
3 展示	36
総合展示室	
特別展示室	
ちゃれんがサテライト	
休憩ラウンジ	

4	教育普及・来館者サービス	44
	総合展示室	
	グループレクチャー	
	はっけん広場	
	イベント	
5	学習・活動支援	54
	学校教育との連携	
	おうちミュージアム	
	博物館実習・インターンシップの受入	
	レファレンス対応	
	図書室	
6	博物館ネットワーク	59
	博物館ネットワーク(北海道博物館協会など外部組織との連携)	
	北のミュージアム活性化実行委員会	
	周辺施設とのネットワーク	
	外部イベントへの参画	
7	地域交流・社会貢献	64
	道民参加型組織	
	道民協働・発信事業の展開	
	他機関等との協力・連携	
	当館職員が委嘱を受けた各種委員等	
8	広報	69
	報道機関等への対応	
	学術的な情報や知見の提供	
	広報誌の発行(森のちゃれんがニュース)	
	ホームページ	
	ソーシャルメディア	
	出版活動	
	『ビジュアル北海道博物館』	
9	アイヌ民族文化研究センターの活動	76
	アイヌ文化巡回展	
	資料の公開	
	アイヌ文化紹介小冊子の発行	
	ホームページによる情報提供	
	学習・伝承活動の支援	
10	北海道開拓の村整備事業	80
11	館長、学芸・研究職員の紹介	81
III 北海道博物館の運営		
1	施設及び周辺環境の整備	95
	関係機関との連携	
	施設管理	
	博物館資源の活用	
	ほっかいどう歴史・文化・自然「体感」交流空間構想	
	野幌森林公園周辺に出没したヒグマに係る対応	

2 北海道立総合博物館協議会	101
北海道立総合博物館協議会	
北海道立総合博物館協議会アイヌ民族文化研究センター専門部会	
3 評価制度	103
概要	
内部評価	
外部評価	
4 利用者調査	106
5 職員の資質向上	109
6 組織・職員名簿	111
7 予算	114
8 利用者数	117
IV 資料	
北海道博物館基本的運営方針ー北海道博物館の目指す方向ー	119
北海道博物館中期目標・計画(第1期) 平成27年度～平成31年度	121
北海道博物館の主な実績(平成27年度～令和元年度)	125
条例・規則など	127
利用案内	137

I 北海道博物館の役割と施設概要

1 館の沿革

平成4(1992)年の常設展示の改訂から十数年が過ぎた開拓記念館では、研究の進展や、昭和46(1971)年の開館から経年による施設の老朽化、博物館をとりまく社会情勢の変化や多様化社会への対応など、博物館機能の充実が大きな課題となっていました。平成19(2007)年4月には、知事公約に掲げられた開拓記念館のリニューアルを含んだ「北海道ミュージアム」の設置構想の検討が道庁内で始まりました。平成20(2008)年5月に知事は、「北海道における博物館のあり方と北海道開拓記念館の役割」について北海道文化審議会に諮問しました。

一方、国会では、平成20(2008)年6月に「アイヌ民族を先住民とすることを求める決議」が採択され、その後政府が設置した「アイヌ政策のあり方に関する有識者懇談会」の報告書において、アイヌ文化に係る政策の提言がなされました。これらのことから、アイヌ文化をはじめとする北海道固有の歴史や文化に対する関心が高まり、開拓記念館はさらなる研究の推進や、最新の研究成果に基づく展示や学習の機会、情報発信の充実などの具体的な取組が求められました。

平成22(2010)年9月に道は北海道文化審議会の答申を受けて、「北海道博物館基本計画」(以下、「基本計画」という。)を策定しました。「基本計画」には、「博物館としての基本的な機能の充実」、「北海道における総合的な博物館」、「道内博物館の中核となる施設」の3つの基本方針を柱とする北海道博物館を設置することが明記され、さらに「アイヌ文化を保存・伝承し未来に活かす博物館」として、アイヌ民族文化研究センターとの統合により、アイヌ文化に関する調査研究などの機能の充実を図ることが示されました。

平成23(2011)年には、「北海道博物館」の開設に向けた取組が道の特定重点事業として予算化されて、「北海道博物館リニューアルプラン」策定など開設に向けた各事業が実施されました。

平成27(2015)年4月1日には、開拓記念館とアイヌ民族文化研究センターの2つの道立施設を統合し、新たに北海道の自然・歴史・文化を広く扱う総合博物館として「北海道博物館」が開設されました。開館に先立ち、愛称「森のちゃれんが」(道民公募)と、ロゴマーク(民間企業等からの公募)が決められました。

平成20(2008)年	5月	知事が北海道文化審議会に対し「北海道における博物館のあり方と開拓記念館の役割」について諮問
平成21(2009)年	8月	北海道文化審議会が「北海道における博物館のあり方と開拓記念館の役割」について答申
	11月	環境生活部生活局道民活動文化振興課に「北海道ミュージアム(仮称)基本計画検討委員会」設置
平成22(2010)年	5月	「北海道博物館基本計画(仮称)」素案に対するパブリックコメント募集(5月18日～6月17日)
	9月	パブリックコメントの意見の概要及び道の考え方を公表後、「北海道博物館基本計画」策定
平成23(2011)年	4月	「北海道博物館」設置に向けた取組を推進するため、「北海道博物館設置推進事業」を北海道の特定重点事業として予算化
	7月	外部の専門的立場の方々から指導・助言を受けることを目的とした「北海道博物館設置プラン検討委員会」を開拓記念館が設置
平成24(2012)年	3月	北海道博物館設置プラン検討委員会の「北海道博物館リニューアル検討報告書」を北海道環境生活部長へ提出
	6月	リニューアルプランを踏まえた、バリアフリー化や消火設備の改良など、来館者の安全性・利便性を図るため、展示改修基本計画を含んだ施設改修実施設計を実施(～平成25年3月)
平成25(2013)年	7月	常設展示場展示改修実施設計を実施(～平成26年3月)
	12月	施設改修工事修正実施設計を実施(～平成26年3月)
平成26(2014)年	7月	常設展示室等展示改修工事施工(～平成27年3月)
	9月	「北海道博物館」のロゴマークを作成するにあたり「北海道と民間企業等との協働」に関する期間限定型事業提案募集(～10月)
	10月	「北海道立総合博物館条例」公布
		「北海道博物館基本的運営方針―北海道博物館の目指す方向―」を決定
	11月	「北海道博物館」の愛称募集(～12月12日)
	12月	札幌市立大学デザイン学部からの提案を受け、同大学との協働により「北海道博物館」のロゴマークを作成(～1月)
平成27(2015)年	1月	「北海道博物館」の愛称「森のちゃれんが」決定
	2月	ロゴマーク決定
	3月	「北海道博物館」のホームページ開設

平成 28(2016)年	4月	北海道博物館設置(条例・規則施行)、総務部に総括、企画の2グループ、学芸部に博物館基盤、道民サービス、社会貢献の3グループ、研究部に自然研究、歴史研究、生活文化研究、博物館研究の4グループ、アイヌ民族文化研究センター内にアイヌ文化研究グループを置く 開館記念式典挙行(17日)、開館(18日)
	7月	「北海道博物館赤れんがサテライト」リニューアルオープン
	8月	平成27年度第1回北海道立総合博物館協議会開催(記念ホール)
	9月	開館記念特別展「夷酋列像 蝦夷地イメージをめぐる人・物・世界」開催(～11月) 累計来館者数が10万人を達成(20日)
	11月	平成27年度第1回北海道立総合博物館協議会アイヌ民族文化研究センター専門部会開催(記念ホール) 北海道・アルバータ州姉妹提携35周年記念事業「Across Borders: 石川直樹写真展」開催
平成 29(2017)年	2月	「北東アジアの中の北海道」研究プロジェクト」ロシア・サハリン州 サハリン州郷土博物館と調印
	3月	「北方文化共同研究事業」カナダ・アルバータ州 ロイヤル・アルバータ博物館と調印 平成27年度第2回北海道立総合博物館協議会開催(本庁別館)
	7月	第2回特別展「ジオパークへ行こう! 一恐竜、アンモナイト、火山、地球の不思議を探す旅」開催(～9月)
	8月	平成28年度第1回北海道立総合博物館協議会開催(記念ホール) 累計来館者数20万人を達成(11日)
		平成28年度北海道立総合博物館協議会アイヌ民族文化研究センター専門部会開催(ホテルポールスター札幌)
平成 30(2018)年	3月	平成28年度第2回北海道立総合博物館協議会開催(本庁別館)
	7月	第3回特別展「プレイボール! 一北海道と野球をめぐる物語」開催(～9月)
	8月	累計来館者数30万人を達成(25日)
	9月	平成29年度第1回北海道立総合博物館協議会開催(講堂)
	11月	平成29年度北海道立総合博物館協議会アイヌ民族文化研究センター専門部会開催(講堂)
平成 31(2019)年	3月	平成29年度第2回北海道立総合博物館協議会開催(講堂)
	6月	平成30年度第1回北海道立総合博物館協議会開催(講堂)
	7月	第4回特別展「幕末維新を生きた旅の巨人 松浦武四郎一見る・集める・伝える」開催(～9月)
	7月	平成30年度北海道立総合博物館協議会アイヌ民族文化研究センター専門部会開催(講堂)
	8月	「北方文化共同研究事業」カナダ・アルバータ州 ロイヤル・アルバータ博物館と調印 累計来館者数40万人を達成(14日)
令和元(2019)年	9月	平成30年台風21号および北海道胆振東部地震の影響により臨時休館(6～8日)
	12月	ほっかいどう歴史・文化・自然「体感」交流空間構想 策定
	3月	平成30年度第2回北海道立総合博物館協議会開催(講堂)
令和2(2020)年	7月	第5回特別展「アイヌ語地名と北海道」開催(～9月)
	9月	令和元年度第1回北海道立総合博物館協議会開催(講堂)
	10月	累計来館者数50万人を達成(22日)
	11月	令和元年度北海道立総合博物館協議会アイヌ民族文化研究センター専門部会開催(講堂)
	2月	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため臨時休館(2月29日～3月31日)
	3月	令和元年度第2回北海道立総合博物館協議会開催(講堂)

統合した2つの施設

(1)北海道開拓記念館

北海道開拓記念館は、北海道百年記念事業の1つとして、「北海道の生い立ち、開拓の足跡を示す資料を収集、保存し、展示して北海道の歴史と未来への課題や可能性の認識に役立てるとともに、今後、道内におけるこの種の施設のセンターとしての役割を果たし、北海道の開発に寄与せしめる」（「北海道開拓記念館構想」（昭和42（1967）年））ことを目的に、昭和46（1971）年に総合的な歴史博物館として設置されました。

昭和37(1962)年		百年記念事業について知事と民間有識者との懇談会において、総合博物館の設置が話題になる
昭和39(1964)年	9月	道政モニターにおいて、百年記念事業のうち、開拓遺物や文化財などを永久に保存するため、郷土館(博物館、記念館)の設置への賛成が96%に達する
昭和41(1966)年	2月	記念建造物等設置検討会を開催し、記念地域・記念塔・記念館について有識者の意見を聴取する
	3月	「北海道百年記念事業実施方針」と事業実施の「準備計画」が決定され、北海道開拓記念館の建設が明文化される
	4月	北海道企画部に北海道百年記念事業準備室を設置する
昭和42(1967)年	5月	北海道百年記念事業事務局設置、業務課に記念館係を置く
	9月	「北海道開拓記念館開設協議会」を設置する(以下、開設協議会と略す)
	11月	第1回開設協議会を開催し、「開拓記念館構想試案」の検討を行い、「構想」の決定をみる
昭和43(1968)年	11月	北海道百年記念事業事務局を廃止し、道総務部に北海道百年記念施設建設事務所を設置する
		第2回開設協議会を開催する
昭和44(1969)年	11月	学芸職員を中心に「北海道開拓記念館業務計画案」を作成する
	12月	開設協議会を開催し、建設の設計変更、企画運営専門部会設置、業務計画案、展示計画試案等について協議を行う
昭和45(1970)年	4月	北海道開拓記念館開設準備事務所が設置され、北海道百年記念施設建設事務所から独立する。展示係、資料収集係、資料管理係が置かれ、学芸研究職員が増員される
	7月	開設協議会を開催し、昭和45年度事務所機構、館の英名、展示計画について協議を行う
	9月	開拓記念館第1期建築工事竣工及び展示工事開始
	11月	開拓記念館第2期建築工事が竣工
昭和46(1971)年	3月	「北海道開拓記念館条例」公布
		開設協議会最終会議を開催する(現地視察)
	4月	北海道開拓記念館が開設(1日)
		北海道開拓記念館開館式を挙行(14日)

(2)北海道立アイヌ民族文化研究センター

昭和58（1983）年4月以降、北海道知事を勤めた横路孝弘氏は、その三期目（平成3～7年）の知事公約のなかで、「アイヌ民族文化研究センター設置構想」を盛り込み、当選を果たした平成3（1991）年4月以降、具体的な検討に着手しました。

この公約の背景には、アイヌ語やアイヌの習俗・技術等の生活文化を知る古老が高齢化し、伝承が難しくなる一方で、国内にアイヌ文化を専門的に研究する機関がない状況だったことや、研究に必要な資料（音声テープ、文献等）が散在し、資料の散逸やテープの劣化等も懸念されていた状況がありました。

その後、庁内の検討及び関係者からの意見聴取等を経て、道は「アイヌ文化はアイヌ民族が北海道で育んできた貴重な文化であり、今日の北海道の文化に多くの影響を与えてきた重要な資産であることから、アイヌ文化の研究を振興し、アイヌ文化の継承、発展を図る」ことを目的に、平成6（1994）年6月にアイヌ文化の総合的・体系的な研究を推進する専門的研究機関として、アイヌ民族文化研究センターを設置しました。

平成3(1991)年	3月	現職の横路孝弘知事が公約「新しい北海道の創造－素晴らしき人と大地とともに－」の中で「アイヌ民族文化研究センター」の設置を掲げて、再選
	7月	「アイヌ民族文化研究センター構想検討会議」を設置する(～平成4年9月)
	10月	「アイヌ文化の保存・研究」についての知事懇談会を開催する(2回)(～平成5年9月)
	12月	アイヌ文化研究者等からアイヌ語に関する要望書が知事に提出される
平成4(1992)年	4月	道内外のアイヌ文化研究者等から意見聴取を行う(～8月)
平成5(1993)年	1月	「アイヌ民族文化の研究方策懇話会」を開催する(2回)(～2月)
	5月	「アイヌ民族文化研究センター検討会議」を設置する(～10月)
平成6(1994)年	3月	「北海道立アイヌ民族文化研究センター条例」公布
	6月	北海道立アイヌ民族文化研究センター開所

2 北海道博物館の使命

平成 22（2010）年 9 月に北海道が策定した「北海道博物館基本計画」を踏まえ、博物館をとりまく社会情勢の変化、北海道の地域的特性、北海道の中核的博物館としての役割などを総合的に見極め、北海道博物館が果たすべき社会的使命を定めました。

- 北海道のすべての人、生き物、大地と海が生み出し、残し託してくれた、北海道ならではの自然・歴史・文化に関わる遺産を、わたしたちの大切な宝ものとして未来へとつなぎ、語り伝えることをとおして、道民が北海道を知り、誇りを確認する場であり続けます。
- 野幌森林公園という豊かな自然環境のなか、訪れた方々に北海道の自然・歴史・文化を総合的に体感していただくとともに、知的発見、癒やしとくつろぎ、世代を超えた語り合いや出会いを、おもてなしの心で提供し、道民に愛される博物館であり続けます。
- 北海道の中核的博物館として、道内の博物館等との連携により、北海道再発見のための知のネットワークを築き上げるとともに、北海道の自然・歴史・文化に関する身近な相談窓口として、道民の「知りたい」という気持ちに応えます。
- 北海道の自然・歴史・文化に関する総合的な研究機関として、北海道の国際化・文化力の向上や、持続可能な調和社会の構築をめざして、積極的なビジョンの立案・提言に努め、道民の豊かな暮らしづくりと北海道の未来づくりに貢献します。

3 北海道博物館の愛称「森のちゃれんが」とロゴマーク

愛称

北海道博物館がより道民の身近な存在として親しみをもっていただけるよう、同館の愛称を道民からの公募により定めることにしました。短期間でしたが、小さなお子さまからお年寄りまで、多くの方がたから応募がありました。

応募作品のなかから、有識者や利用者代表による選考を経て、札幌市の高校生の作品「森のちゃれんが」が、北海道博物館の愛称に選ばれました。

この愛称には、野幌の森の緑に囲まれた美しいれんが造りの博物館を、道庁の赤れんが庁舎とともに世界に発信したいとの思いがこめられています。また、新しく生まれ変わりチャレンジしていく博物館というイメージをも、感じ取ることができます。

ロゴマーク

北海道博物館のロゴマークは、北海道と民間企業などとのタイアップ事業として、札幌市立大学のご協力を得て、作成しました。

札幌市立大学デザイン学部武田ゼミの学生たち 9 名がチームを組み、まずは北海道博物館の視察を行い、新しく生まれ変わる博物館のイメージを膨らませました。そして、ロゴマーク案を 20 案作成し、そのなかから 11 案を学生自らが厳選し、有識者や利用者代表による選考委員会に提出しました。

選考の結果、愛称として決まった「森のちゃれんが」にちなみ博物館の建物をモチーフとし、配色はれんが色に統一したこのデザインが、北海道博物館のロゴマークとして選ばれました。



4 施設概要

館の位置と環境

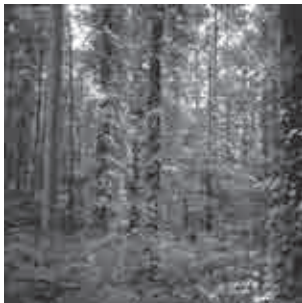
北海道博物館は、札幌市の中心部から東方約 15 kmの地点にある道立自然公園野幌森林公園の中にあります。この公園は、昭和 43（1968）年 5 月に北海道百年を記念して、自然公園法に基づく自然公園として指定されたものです。札幌市、江別市及び北広島市の 3 市にまたがる公園の区域は、標高 20～90mのなだらかな丘陵地に広がる森林を主とし、2,053ha の面積を有し、大都市の近郊にある自然性の高い平地林としては世界的にも例が少ない貴重なものです。

公園の主体をなす国有林約 1,600ha は、昭和の森・野幌自然休養林として石狩森林管理署が遊歩道を整備し、管理しています。公園内の遊歩道の総延長は 30 km以上に及び、散策、自然観察や冬の歩くスキーなどに利用されています。国有林の西側に接する道有地の一部は記念施設地区となっており、北海道博物館のほか、野外博物館としての北海道開拓の村や北海道百年記念塔などを集中的に設置しています。また、平成 13（2001）年 4 月には大沢口に、公園利用者の中核施設として、自然ふれあい交流館が設置されました。

公園に接する付近一帯には、道立図書館、道立文書館、道立埋蔵文化財センターや大学、高等学校などがあり、札幌市と江別市の文教地区ともなっています。

野幌森林公園は、一般には野幌原始林として知られていますが、公園区域内の天然林には、風害の処理のための伐採や補植など、何らかの人手が加えられており、実際に人手の加わっていない「原始林」はありません（国指定特別天然記念物「野幌原始林」は、公園区域から離れた北広島市内の国有林内にあります）。それでも公園区域内の天然林には、温帯林から亜寒帯林への移行帯に位置する森林の様子が比較的に残されていて、ミズナラ、カツラ、シナノキなどの温帯性の広葉樹林、トドマツを主体とする亜寒帯性の針葉樹林、これらの樹種が入り交じった針広混交林からなる、多様な林相が見られます。人工林も全体の 40%ほどを占めるようになっていて、明治の末から林業試験場によって試験植栽されたストロブマツやトウヒなど、60 種を超える外来樹種が見られ、大径木も多くあります。

公園内には、キツネ、タヌキ、ユキウサギ、エゾリス、エゾモモンガ、ヒメネズミなどの小・中哺乳動物が生息しています。また、天然記念物のクマゲラを始め、ウグイス、オオルリ、キビタキ、シマエナガ、シジュウカラ、アカゲラなど、およそ 140 種の野鳥が記録されています。



建物の基本構想と設計

本館の建物は、昭和 45（1970）年 11 月に北海道開拓記念館として建設された建物です。北海道開拓記念館の建物の設計は、この建物自体が永く後世に残る記念建造物となるようにとの町村金吾北海道知事（当時）の要望により、その建設計画を北海道と縁の深い佐藤武夫博士が主宰していた佐藤武夫設計事務所に委託し、野幌産出の赤れんが（約 75 万本）を豪壮に用いた芸術性の高い建物が完成しました。

また、開拓記念館の開館当初の博物館としての性格、機能、展示構想などは、当時北海道史編纂を行っていた大飼哲夫（開拓記念館初代館長）、高倉新一郎（同第 2 代館長）が中心となり、展示室の空間計画を飯田勝幸（北海道大学工学部建築工学科助教授（当時））、展示ディスプレイ・デザインを北海道出身のデザイナーである栗谷川健一の「北海道デザイン研究所（当時）」（その後、北海道造形デザイン専門学校となり平成 27 年 3 月閉校）が担当しました。この建築家・学者・展示の三者連携による博物館づくりの思想は、メキシコの国立人類学博物館をモデルにしたものでした。なお、昭和 48（1973）年に本館は日本建築学会賞を受賞しました。

施設の概要

北海道博物館は、地下2階、地上2階一部中2階建て、その延面積は12,947㎡です。これを部門別にみると、管理部門14.6%、展示部門28.8%、教育普及部門8.3%、研究部門3.2%、資料管理部門20.8%、共用部門24.3%となります。構造は、鉄筋コンクリート、一部鉄骨造であり、外装は、主として江別市の野幌産のれんが積みにアルミ電解発色材の柱を配しており、内部も、グランドホール、ホール、講堂、記念ホール、休憩ラウンジなどの主要な室の壁はれんが積みとなっています。

主要室の配置は、1階には玄関、グランドホール、記念ホール、館長室、事務室等の管理諸室と総合展示室を配し、2階には総合展示室、特別展示室、中2階は休憩ラウンジを配しています。中地下1階には、約200人収容の講堂、はっけん広場等の教育普及の諸室のほか、書庫、図書室、第4・5収蔵庫、研究室を配しています。地下1階には、第1・2・3収蔵庫と資料搬入搬出のための作業諸室を設け、特に第1収蔵庫は恒温恒湿の管理ができ、重要資料の収蔵にあてています。そのほか冷暖房機械室、給排水ポンプ室、受変電室などを配しています。

1 敷地面積……………16,258㎡

2 建築面積……………4,018㎡

3 建築延床面積……………12,947㎡

4 主要室の床面積(端数整理)

事務室……………	314㎡
館長室……………	37㎡
副館長室……………	28㎡
応接室……………	24㎡
会議室……………	37㎡
機械室……………	1,446㎡
展示室 総合展示室……………	3,011㎡
特別展示室……………	665㎡
準備室1……………	20㎡
準備室2……………	36㎡
講堂……………	363㎡
記念ホール……………	270㎡
はっけん広場……………	140㎡
はっけん準備室……………	44㎡
第1書庫……………	148㎡
第2書庫……………	75㎡
図書室……………	86㎡
研究室1(アイヌ民族文化研究センター)……………	56㎡
研究室2……………	39㎡
研究室3……………	42㎡
研究室4……………	42㎡
研究室5……………	39㎡
研究室6……………	18㎡
研究室7……………	40㎡
研究室8, 9……………	124㎡
外来研究室……………	30㎡
電子顕微鏡室……………	16㎡
収蔵庫 第1収蔵庫……………	415㎡
第2収蔵庫……………	475㎡
第3収蔵庫……………	1,096㎡
第4・5収蔵庫……………	406㎡
書庫……………	74㎡
資料受入整理室……………	65㎡
保存処理室……………	44㎡
資料情報室……………	44㎡
休憩ラウンジ……………	391㎡
グランドホール……………	264㎡
廊下・階段等……………	2,490㎡

5 外部仕上げ

屋 根	アスファルト防水層、コンクリート金こて仕上げ
底	軒先アルミ板折曲加工、電解発色仕上げ
壁	煉瓦フランス積貼、紋様入
独 立 柱	キャストアルミ、電解発色仕上げ
南 面 デ ッ キ	袖壁花崗岩(小叩き)ばり、上部床花崗岩(円盤摺)敷き

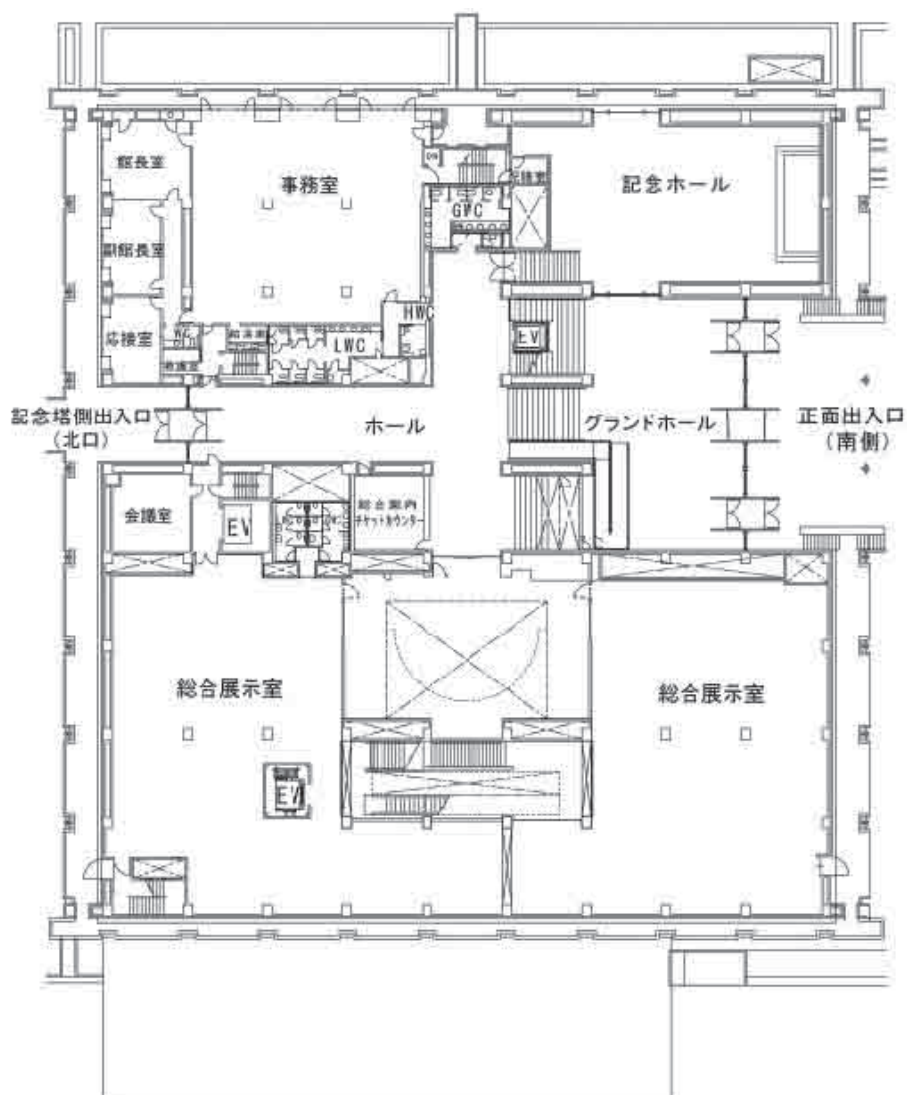
6 内装仕上げ

室 名	床	壁	天 井
グランドホール	花崗岩(円盤摺)敷き、ボーダー水みがき仕上げ、一部大理石モザイク紋様ばり	れんがフランス積み(一部紋様入り)	エポキシ系マット塗料仕上げ、梁型アクリルクリヤ仕上げ
記 念 ホール	カーペット敷	同上	エポキシ系マット塗料仕上げ、梁型アクリルクリヤ仕上げ
講 堂	モザイクパーケットブロック張	れんが表手積(黄色)、一部透積、裏面グラスウール㊦20mm張	岩綿吸音板張
館 長 室	カーペット敷	合板練付C.L	同上
副 館 長 室	同上	同上	同上
応 接 室	同上	同上	特別織り布張
研 究 室	ビニール系アスベストタイル	キャンバス貼M.P塗装	岩綿吸音板張
総 合 展 示 室	モザイクパーケットブロック、ワックスみがき	発泡合成樹脂板打込モルタル塗	岩綿吸音板
は っ け ん 広 場	モザイクパーケットブロック	モルタル金こて仕上げ目地切、キャンバス張	同上
収 蔵 庫	リノリウム張	モルタル金こて仕上げEPおよびフレキシブルボード目透張V.P	コンクリート打ち止め、リシン吹き付けおよびフレキシブルボード目透V.P
休 憩 ラ ウ ン ジ	モザイクパーケットブロック、ワックスみがき	れんがフランス積み(黄色)	合板練付C.L
休憩ラウンジ前ロビー	同上	同上	リシン吹付

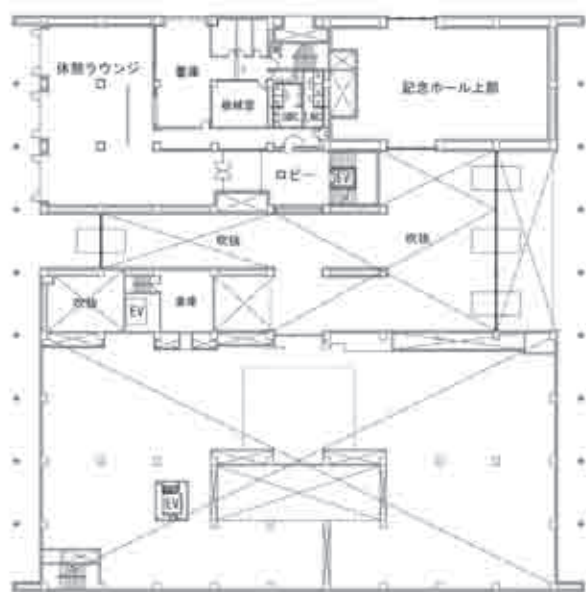
7 付帯設備

空 気 調 節 設 備	室内条件 収蔵庫・展示室＝室温夏季25度・相対湿度55±5%、冬季22度・55±5%、一般部分＝室温夏季25度・相対湿度55±5%、冬季22度・55±5% 冷熱源 吸収式冷凍機1基、冷房能力108万8,760kcal/時 空調系統 単一ダクト方式＝総合展示室・特別展示室・講堂・事務室・ホール・記念ホール・収蔵庫・休憩スペース
電 気 設 備	変電・自家発電・舞台照明・動力・昇降機・放送・音響・その他
衛 生 設 備	給水＝全館水道水使用、給湯・排水・プロパンガス
消 火 設 備	ハロンガス消火・炭酸ガス消火・スプリンクラー・屋内消火栓

1 階 平 面 図



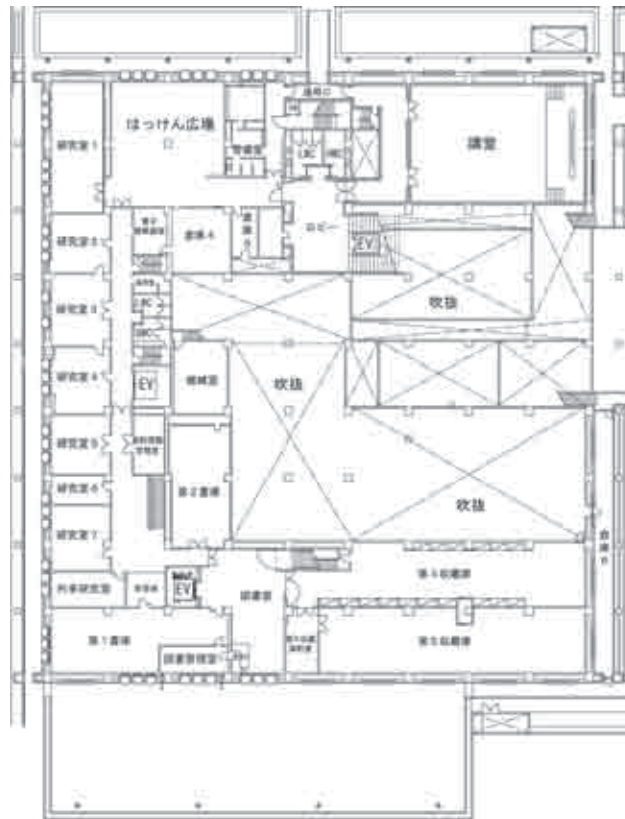
中 2 階 平 面 図



2 階 平 面 図



中 地 下 1 階 平 面 図



地 下 1 階 平 面 図

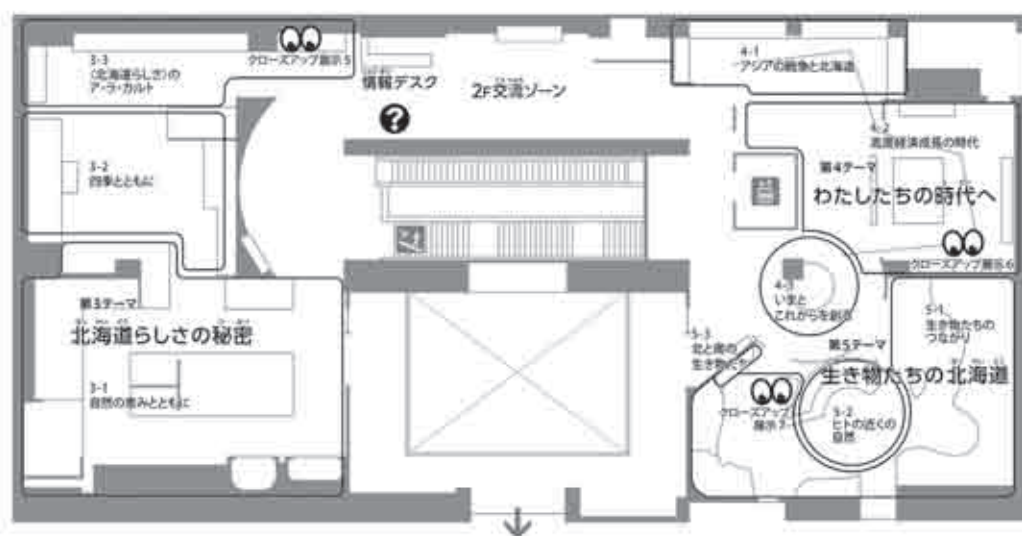


5 総合展示室

総合展示は、1・2階の3,011 m²の面積で展開され、「北東アジアのなかの北海道」、「自然と人とのかかわり」をコンセプトに、幅広い世代が楽しめる展示を設けるとともに、来館者の関心で自由にテーマを選んで観覧できるように、北海道の自然・歴史・文化を5つのテーマにわけて展示しています。1階は歴史と文化を主題とした第1テーマ「北海道120万年物語」と第2テーマ「アイヌ文化の世界」で構成しています。2階は文化、歴史、自然を主題とした第3テーマ「北海道らしさの秘密」、第4テーマ「わたしたちの時代へ」、第5テーマ「生き物たちの北海道」で構成しています。その他に、五感を刺激する展示や、時期によって展示内容を変える「クローズアップ展示」などもあります。

総合展示室内の各階にある交流ゾーン内には、博物館のスタッフが常駐する情報デスクを設け、来館者の質問等にお答えしています。またこの交流ゾーンで学芸員が総合展示の見どころなどを紹介するミュージアムトーク（一部の祝日のみ）を開催しています。

2F



1F



プロローグ 北と南の出会い

北海道を日本の北端ととらえるイメージの転換を図り、さまざまな方向から多様な生き物や人・モノ・文化が往来した地であることを語る展示にしています。



第1テーマ 北海道 120 万年物語

北海道という大地の始まり（約 120 万年前）から、さまざまな文化とその担い手の時代をへて、多くの移民がやってくるまで（明治中頃まで）の歴史を展示しています。



第2テーマ アイヌ文化の世界

北海道の先住民族であるアイヌ民族の、伝統的な生活文化、伝承されてきた〈ことば〉の世界、近現代の歴史および現在の姿を展示しています。



第3テーマ 北海道らしさの秘密

多様な人びとが築いてきた近現代の北海道。そこにあらわれる〈北海道らしさ〉のわけを、「産業」と「暮らし」の視点から展示しています。



第4テーマ わたしたちの時代へ

北海道が、戦争と開発・高度経済成長という大きな変化を経験する時代を、さまざまな立場や考え方を視野に入れ、社会の動きと人びとの意識・時代との関わりから展示しています。



第5テーマ 生き物たちの北海道

北海道の多様な生き物たち。ヒトとの関わりもおろまぜながら、それを支える「つながり」を生き物の視点から展示しています。



6 特別展示室

特別展示室は、総合展示室の2階出口を進んだ左側に位置しています。面積665㎡、固定ケースや移動・組立て可能なケース、パネルなどが設備されています。この展示室では、特別展や企画テーマ展などを開催します。

特 別 展 総合展示で扱っている北海道の自然・歴史・文化の内容をさらに深めた展示を企画するものです。年に1回開催し、観覧料は有料です。

企 画 テ ー マ 展 当館収蔵資料を中心とする企画展示で、年に数回、開催します。研究成果等に関わる特定のテーマを掘り下げたり広く捉えたりする展示などを実施しています。観覧料は無料です。



7 館内の施設

はっけん広場

北海道の自然・歴史・文化を楽しく学ぶことができる部屋です。「毛皮にさわろう」「なつかしのオモチャで遊ぼう」などの「はっけんキット」から好きなものを選び、自然の不思議や昔の人の知恵など、それまで知らなかった何かを「発見」することができます。土曜・日曜日や祝日・振替休日などには、「はっけんイベント」を開催しています。



図書室

図書室には当館の出版物のほか、一般図書や雑誌、他の博物館の展示図録などがあり、来館者が閲覧できるようになっています。

来館者のさまざまな質問、より専門的な調査や当館資料の利用についての相談に応じるレファレンスサービスも行っています。



記念ホール

記念ホールは当館の象徴として計画され、各種の式典に使用されています。床には赤いカーペットが敷かれ、正面には、北海道の風物を織り込んだタペストリー（壁掛）が掛けられています。入口の左側にあたる、正面と向き合った壁の一面には、北海道の産業や生活に重要な役割を果たしてきた馬の功績を称え、その供養をする意味で、大小約 1,600 個の蹄鉄が壁面に打ちつけられています。



講堂

講堂は、グランドホールから階段を下りた中地下 1 階に位置しています。約 120 人の収容が可能で、当館主催の講座・講演会など、各種の行事に利用されています。また、学校団体などのグループレクチャーや昼食会場などとしても活用されています。



休憩ラウンジ

休憩ラウンジは中 2 階に位置し、入口付近には自動販売機を設置しています。約 100 名の利用が可能で、来館中の休憩や飲食などにご利用いただいています。なお、休憩ラウンジで食事は提供していません。



ミュージアム・カフェ

ミュージアム・カフェは、グランドホール内に設けられ、コーヒーなどの飲み物や、パン・ドーナツなどの軽食を楽しむことができます（約 40 席）。また、オリジナルグッズやお土産、当館の出版物などを販売し、ミュージアムショップの役割も担っています。



8 周辺の施設

北海道開拓の村

北海道開拓の村は、明治から昭和初期にかけて建築された北海道各地の歴史的建造物を移築復元・再現した野外博物館です。貴重な文化遺産を保存し、後世に伝えるとともに、開拓当時の人びとのくらしを体験的に理解してもらうことを目的として、昭和58（1983）年に開村しました。市街地群、漁村群、農村群、山村群の4つのエリアに52棟の歴史的建造物が建ち、街並や景観が再現され、全体が展示空間になっています。

夏には、「馬車鉄道」が市街のメインストリートを走り、冬には「馬そり」が村内を回ります。季節の移り変わりを知らせる村祭りや年中行事、農作業などの生活体験イベントを行っています。体験学習棟では、伝統玩具づくり、お手玉やおはじき、コマなどの昔の遊びを体験することができます。また、ボランティアによる手フット印刷の実演やわら細工の実演、建造物の解説・ガイドツアーなども行っています。



野幌森林公園自然ふれあい交流館

平成13（2001）年にオープンした「野幌森林公園自然ふれあい交流館」は、道立自然公園野幌森林公園のビジターセンターです。館内では、公園内の自然のつながりをジオラマやイラスト・写真などでわかりやすく紹介しており、野幌森林公園のなりたちや植生、森にすむ生き物のことを知ることができます。

館内では、絵本や図鑑、専門図書など約2,500冊を自由に読むことができ、専門のスタッフに質問することもできます。公園を散策する前に立ち寄れば、樹木の見分け方や花・昆虫の種類などがわかるようになります。

また、月に1回自然観察会を開催しているほか、子どもからお年寄りの方まで楽しく体験できる「もりの工作コーナー」、親子自然観察会、親子工作教室、『もりの講演会』など、自然をテーマにした各種イベントを開催しています。このほか、顕微鏡コーナーや鳥の声が聴けるスカントーク、積み木などの木製遊具などもあり、館内でも公園内の自然を学習できます。



Ⅱ 北海道博物館の活動

1 調査研究

当館では、日本列島の北辺にあって、北東アジアとの係わりが深い北海道の自然・歴史・文化の地域性や歴史的特徴を明らかにするため、専門研究の推進及び諸分野との共同研究を図りながら、5つの研究プロジェクトを行っています。その成果は館の各種刊行物、展示、教育普及などの諸活動に生かされ、館活動の基礎となっています。

道費による研究プロジェクト(海外交流を含む)

(1) 道民・地域との協働・連携による地域情報集積プロジェクト

道民と協働・連携し、北海道の自然・歴史・文化に関わる基礎的な調査研究を行うプロジェクトです(2019年度、5課題)。

研究課題	期間	研究グループ	
野幌森林公園の生物インベントリー調査(第二次)	2019～23年度(5年間)	自然研究グループ 博物館研究グループ	◎水島未記、表溪太 堀繁久
北海道における漂着生物についての基礎的情報の集積と博物館での活用	2019～23年度(5年間)	自然研究グループ 博物館研究グループ	◎水島未記、表溪太、圓谷昂史 堀繁久
北海道及びサハリン(樺太)の「風景」に関する基礎的研究	2019～22年度(4年間)	研究部長 歴史研究グループ	右代啓視、 ◎三浦泰之、山田伸一、鈴木琢也、東俊佑 田中祐未
戦前・戦中・戦後における道民生活の変遷に関する聞き書き調査	2015～19年度(5年間)	生活文化研究グループ	池田貴夫、山際秀紀、◎会田理人、青柳かつら 尾曲香織、舟山直治
モノ、コト、ヒトをつなぐ博物館資料の活用と公開に関する調査研究	2018～22年度(5年間)	博物館研究グループ	◎堀繁久、杉山智昭、櫻井万里子、鈴木あすみ 鈴木明世、村上孝一

※「◎」は代表者

(2) 北海道の自然・歴史・文化総合研究プロジェクト

道内の地域博物館等と連携し、北海道の自然・歴史・文化に関して、特定の事項を明らかにしたり、未解決の学問的課題を明らかにしたりなど、より深く探求するための総合的な調査研究を行うプロジェクトです(2019年度、3課題)。

研究課題	期間	研究グループ	
石狩低地帯北部地域を中心とした新生代の古環境復元	2015～19年度(5年間)	自然研究グループ	添田雄二、◎圓谷昂史
北方四島の考古・歴史学的総合研究	2019～22年度(4年間)	研究部長 歴史研究グループ	◎右代啓視 鈴木琢也
北海道の離島における自然・歴史・文化に関する研究	2019～23年度(5年間)	自然研究グループ 歴史研究グループ 生活文化研究グループ 博物館研究グループ アイヌ文化研究グループ	圓谷昂史、表溪太 田中祐未 ◎尾曲香織 鈴木あすみ、鈴木明世 亀丸由紀子

※「◎」は代表者

(3) 北東アジアのなかの北海道研究プロジェクト

「北東アジアのなかの北海道」という視野で、道との友好協定地域との研究交流事業を含んだ国際共同研究を、研究グループを横断して総合的に行うプロジェクトです。(2019年度、2課題)。

研究課題	提携先	期 間	研究グループ
北海道とサハリン 共通性と特性	ロシア・サハリン州 サハリン州郷土博物館	2015～19年度 (5年間)	自然研究グループ 表溪太、圓谷昂史
			歴史研究グループ 三浦泰之、山田伸一、東俊佑
			生活文化研究グループ 山際秀紀、会田理人、尾曲香織、舟山直治
			博物館研究グループ 堀繁久、鈴木あすみ、鈴木明世
			アイヌ民族文化研究センター ◎小川正人、大谷洋一、遠藤志保、大坂拓
寒冷地の自然と適応	カナダ・アルバータ州 ロイヤル・アルバータ博物館	2018～22年度 (5年間)	自然研究グループ ◎表溪太、圓谷昂史
			生活文化研究グループ 池田貴夫、青柳かつら、尾曲香織
			博物館研究グループ 鈴木明世
			アイヌ文化研究グループ 甲地利恵、田村雅史、亀丸由紀子

※「◎」は代表者

2019年度の海外博物館との共同研究調査

派遣者(派遣先)	期 間	主な調査内容
圓谷昂史、亀丸由紀子 (カナダ・ロイヤル・アルバータ博物館)	5月10日～24日 (14日間)	・アルバータ州における先住民族と博物館の関係と展示 ・恐竜化石を中心とした自然環境の教育と展示
表溪太、鈴木明世 (ロシア・サハリン州郷土博物館)	10月14日～28日 (15日間)	・サハリン島における日本統治時代の建造物の変遷及び関連する遺構や資料 ・サハリン島から北海道を経由する渡り鳥と中継地の湿地、及びその土地利用状況

(4) アイヌ文化に関する資料・情報の集積プロジェクト

アイヌ文化に関する基礎的・総合的な調査研究を行うプロジェクトです(2019年度、4課題)。

研究課題	期 間	研究グループ
北方文化圏の中のアイヌ音楽	2017～21年度(5年間)	アイヌ民族文化研究センター 甲地利恵
アイヌ口承文芸「和人の散文説話」資料に関する調査研究	2012～19年度(8年間)	アイヌ民族文化研究センター 大谷洋一
道内アイヌ民具の所在情報の調査と集積 1 北海道南部	2016～19年度(4年間)	アイヌ民族文化研究センター 大坂拓
アイヌの耳飾・首飾等装身具に関する基礎的研究	2018～22年度(5年間)	アイヌ民族文化研究センター 亀丸由紀子

(5) アイヌ文化に関する総合的・学際的研究プロジェクト

アイヌ文化に関する専門的・総合的な調査研究を行うプロジェクトです(2019年度、4課題)。

研究課題	期 間	研究グループ
近現代におけるアイヌ民族による伝統文化の紹介・展示の歴史に関する調査研究	2016～19年度(4年間)	アイヌ民族文化研究センター 小川正人、大坂拓
教育と産業への取り組みを通してみるアイヌの近代	2016～19年度(4年間)	アイヌ民族文化研究センター 小川正人
アイヌ口承文芸における世界観に関する調査研究	2016～19年度(4年間)	アイヌ民族文化研究センター 大谷洋一、遠藤志保
アイヌ文化資料の内容分析(寄贈資料等)	2014～19年度(6年間)	アイヌ民族文化研究センター 全員

公開研究会

当館の研究プロジェクトにかかる成果報告や共同調査などの場として、さまざまな形で公開研究会を開催しています。

科研費ほか外部資金

1. 2019年度の科学研究費補助金による調査研究(当館職員が研究代表者になっている課題)(13課題)

研究部長

継続 基盤研究(B)一般	2018～21年度	北方四島と千島列島における人類活動史の考古学的研究	右代啓視
--------------	-----------	---------------------------	------

自然研究グループ

新規	基盤研究(C)一般	2019～22 年度	リモートセンシングおよび GIS によるニブフの植物資源採取における空間利用の解析	水島未記
新規	基盤研究(B)一般	2019～22 年度	巨大噴火・津波の痕跡を軸とした17世紀アイヌ文化と環境に関する学際的研究	添田雄二
新規	若手研究	2019～22 年度	貝類をモデルとした海洋環境教育プログラムの開発	圓谷昂史

歴史研究グループ

継続	基盤研究(C)一般	2016～19 年度	近代の北海道と周辺地域における生物の人為的移入に関する研究	山田伸一
継続	基盤研究(C)一般	2016～20 年度	蝦夷地のアイヌ有力者が入手した外来交易品と勘定システムの成立に関する研究	東俊佑

生活文化研究グループ

継続	基盤研究(C)一般	2016～20 年度	北海道における海女出稼ぎ漁と磯まわり漁業の関係史研究	会田理人
継続	基盤研究(C)一般	2017～21 年度	北海道地方で特徴的かつ広域的に広がった季節行事の生成と波及に関する研究	池田貴夫
継続	基盤研究(C)一般	2018～22 年度	少子高齢社会のウェルビーイング創成型地域学習コンテンツの開発	青柳かづら

博物館研究グループ

継続	基盤研究(C)一般	2017～19 年度	X 線 CT を核としたアイヌ民族資料の保存修復に関する研究	杉山智昭
新規	若手研究	2019～21 年度	明治期北海道移住者による農家建築の成立・変容にみる母村文化の影響に関する研究	鈴木明世

アイヌ民族文化研究センター・アイヌ文化研究グループ

継続	基盤研究(C)一般	2018～22 年度	アイヌ音楽の旋律分析研究、及び北方諸民族の音楽との比較研究に向けた基礎的調査	甲地利恵
継続	若手研究	2018～22 年度	考古学的分析手法を導入した博物館収蔵アイヌ民具資料の基礎的研究	大坂拓

2. 2019 年度の科学研究費補助金による研究課題への研究分担者としての参加（8 課題）

研究部長

新規	基盤研究(B)	2019～22 年度	古代末期防衛的集落の実態解明と、中世移行期日本北方世界を含む北東アジア史の再構築(研究代表者:法政大学 小口雅史)	右代啓視
----	---------	------------	---	------

自然研究グループ

新規	基盤研究(B)	2019～23 年度	自然史標本の汎用化と収蔵展示技法の体系構築(代表者:兵庫県立大学 三橋 弘宗)	水島未記
継続	基盤研究(B)	2018～20 年度	狩猟採集文化と農耕文化の接触による社会の変容と地域的多様性に関する学際的研究(代表者:青野友哉)	添田雄二

歴史研究グループ

継続	基盤研究(B)	2017～19 年度	好古家ネットワークの形成と近代博物館創設に関する学際的研究 (研究代表者:國學院大學 内川隆志)	三浦泰之
継続	基盤研究(B)	2018～20 年度	官衙機構の動態からみた古代日本における境域の特質 (研究代表者:国立歴史民俗博物館 林部 均)	鈴木琢也
新規	基盤研究(B)	2019～22 年度	古代末期防衛的集落の実態解明と、中世移行期日本北方世界を含む北東アジア史の再構築(研究代表者:法政大学 小口雅史)	鈴木琢也
新規	スタート支援	2019～20 年度	地理情報システムを用いた、北海道に現存する船絵馬の保存と活用に向けた試み	田中祐未

博物館研究グループ

新規	挑戦的研究 (萌芽)	2019～21 年度	自然史系文化財を社会の中で維持・保全できるか? 次世代ネットワーク管理の模索 (研究代表者:大阪市博物館機構 佐久間 大輔)	堀 繁久
継続	基盤研究(B)	2016～19 年度	寒冷地域における遺跡や石造文化財の保存・修復に関する研究 (研究代表者:東北芸術工科大学 石崎武志)	杉山智昭

3. 2019 年度の科学研究費補助金以外の共同研究への参加（1 課題）

歴史研究グループ

新規	公益財団法人サントリー文化財団助成による研究	2019～20 年度	函館市石崎八幡神社伝来の奉納絵馬群(含むガラス絵馬)の悉皆調査及び総合的研究ー地域文化財の記録・保存・活用に向けて (研究代表者:北海道大学 鈴木幸人)	田中祐未
----	------------------------	------------	---	------

研究成果の発信と公開

学芸・研究職員の個別研究課題、分野別研究、科学研究費補助金などによる調査研究の成果を広く社会に公開するため、当館では研究紀要や報告書を作成し、北海道の自然・歴史・文化および博物館学に関する論文、研究ノート、資料紹介を掲載することで、研究成果の発信と公開に努めています。また、専門書や学術雑誌への論文等の寄稿や、他機関主催の講座・講演会などへの職員の講師派遣、研究会や学会での発表も行っています。

(1) 館出版物への執筆

2019 年度の館出版物への執筆(20 件) (下線は当館職員)

『北海道博物館研究紀要』第5号

種 別	著 者 名	タ イ ト ル	ペー ジ
研究ノート	東 俊佑	「土人給料勘定」のしくみ(Ⅲ)ー北蝦夷地ウシヨロ場所経営帳簿『北蝦夷地用』の分析ー	1～62
調 査 報 告	水島未記・野幌森林公園植物調査の会	野幌森林公園地域の種子植物相(2)ー過去の植物相調査記録の統合とAPGによる再整理ー	63～126
調 査 報 告	堀繁久・徳田龍弘・澄川大輔・喜田和孝	札幌市北ノ沢地区周辺で確認された国内外来種アズマヒキガエルの食性について	127～142
調 査 報 告	圓谷昂史	2015～2019 年における北海道余市湾沿岸へのアオイガイの漂着	143～148
調 査 報 告	右代啓視・鈴木琢也・東俊佑・猪熊樹人ほか	北方四島における考古・歴史学の総合研究(I)	149～168
調 査 報 告	田中祐未	寿都町の絵馬	169～190
調 査 報 告	舟山直治・池田貴夫	泉山了谷銘の湯川焼花瓶について	191～202
調 査 報 告	青柳かつら	少子高齢社会のウェルビーイング創成型地域学習コンテンツの開発(Ⅱ)ー北海道内老人デイサービスセンターにおけるレクリエーションと博物館利用に関するアンケートの解析からー	203～222
調 査 報 告	尾曲香織・舟山直治	厚沢部町における食と儀礼ーかだっこ餅を中心としてー	223～234
博物館活動報告	表溪太・杉村直樹	2019 年に野幌森林公園に出没したヒグマについて	235～246
博物館活動報告	杉山智昭	令和元年度 北海道博物館資料保存修復報告	247～256
研究ノート	山田伸一	明治期の野幌丘陵におけるヒグマとオオカミの記録	264～257 (19)～(26)
研究ノート	山田伸一	一九一〇～四〇年代の千島・樺太・北海道の島々へのキツネの移入	282～265 (1)～(18)

(※ ()内の数字は縦書きページのページ数)

『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第5号

種 別	著 者 名	タ イ ト ル	ペー ジ
論 文	遠藤志保	アイヌ英雄叙事詩における風景描写ー鍋沢元蔵のテキストからー	1～22
論 文	大坂 拓	北海道アイヌの葬送用広紐に関する基礎的検討ー製作技術の地域差と日高東部地域における東方系・西方系出自集団との関係ー	23～45
論 文	大坂 拓	渡島半島のアイヌ社会と民具資料収集者の視野ー旧開拓使函館支庁管轄地域を中心としてー	47～79
論 文	亀丸由紀子	アイヌ民族の耳飾りに関する基礎的研究ー国内博物館等収蔵資料を中心としてー	81～160
資 料 紹 介	大坂拓・亀丸由紀子・鈴木あすみ	久保寺逸彦旧蔵アイヌ民具資料ほかー2019 年度新収蔵資料の紹介ー	161～190
資 料 紹 介	大坂拓・小川正人	アイヌ文化展示施設「エカシケナル」関連の新資料ー2019 年新収蔵資料の紹介ー	191～222
資 料 紹 介	亀丸由紀子	アイヌの衣服資料(鞆皮衣・木綿衣)についてー北海道博物館所蔵アイヌ民具資料整理報告 1ー	223～280

特別展図録、企画テーマ展パンフレットの発行

図録	第5回特別展 アイス語地名と北海道
企画テーマ展	第14回企画テーマ展 現代の作り手によるアイヌ刺繍作品 北の手仕事 2019
パンフレット	第15回企画テーマ展 エゾシカ
	第16回企画テーマ展 北海道神宮

(2) 学会誌等、館出版物以外の出版物への執筆

2019年度の学会誌等、館外出版物への執筆(12件)

【研究部長(3件)】

執筆者	タイトル	出典	出版社・発行者	ページ
右代啓視、鈴木琢也	2019年北方四島学術調査—国後島ヤンベツ・小田富の遺跡群—	季刊考古学 No.150	雄山閣	161-164
右代啓視	北方四島の歴史・文化を探る	文化財情報 Vol.378	北海道文化財保護協会	6
右代啓視	カムチャツカ地方総合博物館所蔵の草皮遺物—ガ ルガン I 遺跡出土資料を中心に—	北方寒冷地域における織 布技術と布の機能	日本学術振興会科学研究 費助成事業基盤研究(B) 研究成果報告(研究代表 者:佐々木史郎)	111-118

【自然研究グループ(2件)】

執筆者	タイトル	出典	出版社・発行者	ページ
OMOTE, Keita, HUDON, Jocelyn, MIZUSHIMA, Miki	Do Fruits Bearing the Red Carotenoid Rhodoxanthin Affect Avian Plumage Coloration in Japan?	Ornithological Science 19(1)	Ornithological Society of Japan	99~106
表溪太	ヒグマを通して自然を学ぶ	ヒグマ学への招待(増田隆 一編)	北海道大学出版会	331-351

【歴史研究グループ(5件)】

執筆者	タイトル	出典	出版社・発行者	ページ
三浦泰之	「見る」、「集める」、「伝える」の三つのキーワードで ひもとく松浦武四郎の生涯	ユリイカ 2019年8月臨 時増刊号 総特集＝松浦 武四郎	青土社	73~81
三浦泰之	松浦武四郎記念館所蔵「蝦夷屏風」に貼り交ぜの領 収証類について(7) — 安政5年(1858)分(3)	松浦武四郎研究会会誌 第75号	松浦武四郎研究会	18~20
三浦泰之	近世後期の尾張名古屋博物館について—近代日 本の「博物館」前史の一断面	内川隆志編『好古家ネット ワークの形成と近代博物 館創設に関する学際的研 究 III』	近代博物館形成史研究会	30~58
東俊佑	アイヌの交易世界と松前藩	歴史地理教育 第901号	歴史教育者協議会	24~29
東俊佑	日本における前近代サハリン・樺太史研究の動向: 1264-1867	北方人文研究 第13号	北海道大学大学院文学研 究院北方研究教育センタ ー	61~97

【博物館研究グループ(2件)】

執筆者	タイトル	出典	出版社・発行者	ページ
杉山智昭	博物館における「木材」の保存	ウッドイエージ 68号	一般社団法人北海道林産 技術普及協会	1~3

杉山智昭・鳥越俊行ほか	X線CTによるアイヌ民族資料の調査～保存修復から技術伝承まで～	日本文化財科学会公開講演会シリーズ「文化遺産と科学」文化財継承と3D技術II	日本文化財科学会	5～12
-------------	---------------------------------	--	----------	------

(3) 学会、研究会での発表

2019年度の学会、研究会での発表(11件)

【歴史研究グループ(2件)】

発表者	タイトル	研究会・学会名	期 日	会 場
三浦泰之	近世後期の尾張名古屋博物館について	研究報告会「好古家ネットワークの形成と近代博物館創設に関する学際的研究」	3月7日	國學院大學
鈴木琢也	北海道島における本州須恵器の流通ー5世紀～11世紀ー	東洋陶磁学会第47回大会	7月20日	江別市野幌公民館

【生活文化研究グループ(1件)】

発表者	タイトル	研究会・学会名	期 日	会 場
青柳かづら・山下俊介	少子高齢社会の地域学習コンテンツの開発:名寄市智恵子の事例	第131回日本森林学会大会	3月29日	名古屋大学

【博物館研究グループ(2件)】

発表者	タイトル	研究会・学会名	期 日	会 場
杉山智昭	アイヌの民具の保存・活用における現状と課題	東北芸術工科大学文化財保存修復研究センター専門家会議「文化遺産の保存活用に関する現状と課題」	1月19日	東北芸術工科大学文化財保存修復研究センター(山形県山形市)
鈴木明世	「野外博物館 北海道開拓の村」に保存・展示される建造物の図面整理状況についての現状報告	2019年度日本建築学会大会(北陸)	9月6日	金沢工業大学 扇が丘キャンパス

【アイヌ民族文化研究センター・アイヌ文化研究グループ(6件)】

発表者	タイトル	研究会・学会名	期 日	会 場
小川正人	アイヌ民族の近現代史をどうとらえるかー「社会事業史」とのかかわりを考えるためにー	社会事業史学会第47回大会	5月11日	北星学園大学(札幌市)
小川正人	千島アイヌの教育史 その1ー色丹島への強制移住(1884)を中心にー	教育史学会第63回大会	9月28日	静岡大学
甲地利恵	再考・アイヌの神謡の旋律構造についてー「iwakahore」の旋律分析を中心にー	北海道民族学会2019年度第2回研究会	10月19日	旭川市博物館
遠藤志保	アイヌ語・アイヌ口承文芸アーカイブの現状と課題(シンポジウム「危機言語の口承文芸ー沖縄・甘み・アイヌの伝承と記録」における報告)	日本口承文芸学会	6月2日	沖縄国際大学(沖縄県宜野湾市)
亀丸由紀子	図書館・博物館協力と先住民	むすびめの会 2019年4月例会	4月6日	日本図書館協会(東京都中央区)
亀丸由紀子	先住民に関する図書館と博物館の目指すべき関係性の提案	IFLA2019アテネ大会 先住民分科会セッション 252	8月29日	ギリシャ・アテネ市

(4) 招待講演(講座・講演会)等への職員派遣

2019年度の招待講演(講座・講演会)等への職員派遣(67件)

【研究部長(8件)】

氏 名	種 別	内容・タイトルなど	行事名など	主催または依頼先	期 間
右代啓視	講 師	北方の人類活動史II	高齢者市民講座	札幌市社会教育協会	6月11日

右代啓視	講	師	アイヌ文化のチャンを考える	平成 31 年度アイヌ文化普及啓 発セミナー	公益財団法人アイヌ民族 文化財団	7 月 26 日、8 月 29 日
右代啓視	講	師	北方四島の歴史と文化	北方四島交流事業	北方四島交流協会	7 月 31 日
右代啓視	講	師	日本列島北部の先史美術と岩面刻 画	A.S.L.V.E.先史美術学国際会議	A.S.L.V.E.先史学センタ ー	9 月 7 日
右代啓視	講	師	北海道の歴史	令和元年度（2019 年度）北海道 職員研修	北海道（総務部人事課）	11 月 1 日、11 月 22 日
右代啓視	講	師	北方の人類活動史Ⅲ	高齢者市民講座	札幌市社会教育協会	10 月 11 日
右代啓視	講	師	北海道の人類活動史から見たアイ ヌ文化	課題研究ミーティング	札幌聖心女子学院	12 月 4 日
右代啓視	講	師	北方の人類活動史Ⅳ	高齢者市民講座	札幌市社会教育協会	2 月 20 日

【自然研究グループ(15 件)】

氏 名	種 別	内容・タイトルなど	行事名など	主催または依頼先	期 間
水島未記	講 師	サハリンの植物と先住民の人びと	石狩市民図書館 講演会	石狩市環境保全課	6 月 8 日
添田雄二	講 師	近未来に北海道と日本を必ず襲う 超巨大地震・津波	平成 31 年度ボランティア活動 団体連絡会主催「第 1 回講演会」	由仁町ボランティア活動 団体連絡会	5 月 30 日
添田雄二	講 師	忠類ナウマンゾウの発見 50 周年 新たな成果に向けて」	忠類小中合同 PTA 研修会	忠類中学校 PTA 会	10 月 28 日
添田雄二	講 師	発掘調査成果報告会	忠類ナウマン象化石骨発見 50 周年記念事業	幕別町教育委員会	2 月 19 日～20 日
表 湊太	講 師	実験！生き物たちと地球のつながり	令和元年度（2019 年度）消費生 活講座	公益社団法人札幌消費者 協会	7 月 15 日
表 湊太	講 師	「動物の足跡からわかること」、「し か笛づくり」	令和元年度（2019 年度）おくし りチャレンジスクール「アイヌ 文化を学ぼう」	奥尻町教育委員会	2 月 16 日
圓谷昂史	講 師	博物館学概論	エコミュージアム普及推進事業 「まちを好きになる市民大学」	北広島市教育委員会	6 月 8 日
圓谷昂史	講 師	ビーチコーミングを通してみる北 海道の海	中学校理科教育実技研修会	石狩教育研究センター	8 月 5 日
圓谷昂史	講 師	海洋プラスチック問題について	令和元年度環境測定分析に関す る研修会	北海道環境計量証明事業 協議会	10 月 25 日
圓谷昂史	講 師	石狩湾の漂着物をしらべよう！	2019 年度 交流研究会	NPO 法人 環境り・ふれ んず	11 月 11 日
圓谷昂史	講 師	海岸漂着物と環境教育、あるいは地 球温暖化防止	「教職実践演習」における博物 館実習	北海道教育大学札幌校	11 月 28 日
圓谷昂史	講 師	「漂着物からわかること」「漂着物の 観察や分類」	北海道の漂着物と環境問題に関 する講話	古平町立古平中学校	1 月 22 日
圓谷昂史	講 師	マイクロプラスチックを含む北海 道の海岸漂着物の現状と課題	JEAS 北海道支部 令和元年度 第 2 回公開技術セミナー	一般社団法人日本環境ア セスメント協会 北海道 支部	1 月 24 日
圓谷昂史	講 師	「これからの社会をつくるみなさ んへ～地球環境問題と社会参画～」 と題した講話において、特に海岸漂 着物中心に	3 年生の社会科の授業	札幌市立山鼻中学校	2 月 5 日
圓谷昂史	講 師	漂着物から見える海洋教育	古平町教育研究会研究発表大会 「教育講演会」	古平町教育研究会	2 月 14 日

【歴史研究グループ(19 件)】

氏 名 種 別	内容・タイトルなど	行事名など	主催または依頼先	期 間
三浦泰之 講 師	北海道の歴史ー明治以降を中心にー	QC サークル全国大会(小・中・高・大・社会福祉活動)ー札幌ー	一般財団法人日本科学技術連盟	5 月 24 日
三浦泰之 講 師	“北海道の名付け親” 幕末維新を生きた旅の巨人 松浦武四郎	「北海道みんなの日」記念 ランチタイムセミナー	北海道 (総合政策部)	7 月 17 日
三浦泰之 講 師	151 年目を迎えた「北海道」の歩み	北海道製菓メーカー 三団体交流会	北海道菓業会	8 月 1 日
三浦泰之 講 師	北海道開拓と土族移住 ～北海道 150 年、伊達 150 年に寄せて～	だて市民カレッジ	伊達市教育委員会・だて市民カレッジ企画運営委員会	8 月 27 日
三浦泰之 講 師	北海道開拓と土族移住～岩出山伊達主従の当別移住とその時代～	当別町歴史講演会	当別町教育委員会	8 月 31 日
三浦泰之 講 師	北海道の歴史	令和元年度(2019 年度)北海道職員研修に係る講師派遣	北海道 (総務部人事課)	9 月 6 日
三浦泰之 講 師	北海道の歴史	大麻東小学校 4 年生 特別講演	江別市立大麻東小学校	9 月 19 日
三浦泰之 講 師	資料貸借の実際～カルテ作成・注意点～	令和元年度学芸職員部会研修会	北海道博物館協会学芸職員部会	9 月 26 日
三浦泰之 講 師	幕末維新を生きた旅の巨人 松浦武四郎の生涯	第 23 回へき地・離島救急医療学会学術集会ランチョンセミナー	札幌東徳洲会病院	9 月 28 日
三浦泰之 講 師	松浦武四郎記念館主任学芸員の山本命氏との対談	第 20 回北海道法人会女性部会全道大会札幌大会	一般社団法人北海道法人会連合会 女性部会連絡協議会	10 月 18 日
三浦泰之 講 師	ミュージアム学芸員の企画展制作〈立案・運営・評価〉スキル養成深化プログラム 実践研究「地域研究与展覧会企画①」	学芸員リカレント教育プログラム	国立大学法人北海道大学 大学院文学研究院	10 月 21 日
三浦泰之 講 師	北海道の歴史	令和元年度 高文連石狩支部図書局(委員会) 研究大会	高文連石狩支部図書専門部	11 月 6 日
三浦泰之 講 師	大麻地区の歴史と昔の道具	大麻東小学校 3 年生 特別講演	江別市立大麻東小学校	12 月 11 日
山田伸一 講 師	開拓使のアイヌ施策	札幌市民カレッジ(ちえりあ学習ボランティア企画講座)	札幌市生涯学習センター	6 月 12 日
山田伸一 講 師	北海道の歴史	令和元年度(2019 年度)北海道職員研修に係る講師派遣	北海道 (総務部人事課)	9 月 6 日
鈴木琢也 講 師	北海道の歴史	令和元年度(2019 年度)北海道職員研修に係る講師派遣	北海道 (総務部人事課)	9 月 6 日
鈴木琢也 講 師	講演会「日本の先史美術」の講師	フランスのシャラント県セール町「先史学の土曜日」	A.S.L.V.E. 先史学センター	9 月 7 日
東 俊佑 講 師	北海道の歴史	令和元年度(2019 年度)北海道職員研修に係る講師派遣	北海道 (総務部人事課)	9 月 6 日
東 俊佑 講 師	江戸時代のアイヌと和人の交流・交易	北海道開拓の村ボランティア「研修交流会」	北海道開拓の村ボランティアの会	11 月 4 日

【生活文化研究グループ(12 件)】

氏 名 種 別	内容・タイトルなど	行事名など	主催または依頼先	期 間
池田貴夫 講 師	積雪寒冷地の生活と諸問題	リハビリテーション科学部第 3 学年	北海道医療大学 リハビリテーション科学部	5 月 23 日
池田貴夫 講 師	なにこれ!? 北海道学	北海道教育旅行説明会(盛岡・仙台・山形・大宮)	一般社団法人北海道体験観光推進協議会	7 月 29 日～8 月 1 日

池田貴夫	講 師	なにこれ!? 北海道学	北海道教育旅行説明会（福岡）	一般社団法人北海道体験 観光推進協議会	11月6日
池田貴夫	講 師	北海道の自然・歴史・文化一特に冬 期間の人びとの暮らしについてー	2019 年度北海道教育旅行活性 化事業（東京都立忍岡高等学校）	一般社団法人北海道体験 観光推進協議会	11月18日
池田貴夫	講 師	なにこれ!? 北海道学	北海道教育旅行説明会（大阪）	一般社団法人北海道体験 観光推進協議会	12月12日
池田貴夫	アドバイザー	AT ガイディングカリキュラム「歴 史・文化編」の検討	北海道アドベンチャートラベル 受入推進事業に係る「AT ガイド 育成カリキュラム策定会議」	一般社団法人北海道体験 観光推進協議会	12月26日
池田貴夫	講 師	AT ガイディングに必要な「文化的 交流」とは～なにこれ!? 北海道学	北海道アドベンチャートラベル ミーティング（帯広・釧路・札 幌・旭川）	一般社団法人北海道体験 観光推進協議会	1月9日～10日、 1月14日～15日
会田理人	講 師	北海道漁業史ー歴史から見えるコ ト・わかるコトー	海洋水産学特別講義	東京農業大学生物産業学 部海洋水産学科	10月31日
会田理人	コメンテーター	北海道における文化財防災を考え る	令和元年度防災ネットワーク推 進事業研修会	独立行政法人国立文化財 機構 東京文化財研究所	12月19日
青柳かつら	講 師	3 年「農家の仕事」、4 年「私たちの 県」	3・4 年生社会科授業支援派遣	名寄市智恵文小学校	5月16日
青柳かつら	講 師	5 学年理科「川と災害」	5 年生社会科授業支援派遣	名寄市智恵文小学校	11月7日
舟山直治	講 師	1966 年の映像資料からみた「札幌 まつり」	利用講座 映像によみがえる北 海道	北海道立図書館	2月22日

【博物館研究グループ(3 件)】

氏 名 種 別	内容・タイトルなど	行事名など	主催または依頼先	期 間
堀 繁久	講 師 北海道の高山の自然 ー昆虫ー	2019 年度「自然保護大学」「北海 道の高山の自然」ー植物・地形・ 昆虫ー	一般社団法人北海道自然 保護協会	11月2日
鈴木あすみ	講 師 不登校の子供を対象とした標本づ くりなどのプログラムの提供	あとれむミュージアム	NPO 法人みなば	2月21日
鈴木明世	講 師 ①特別展「アイヌ語地名と北海道」 の展示内容についての解説、②関連 講座「地図で遊ぼう！」における教 育効果（アイヌ語地名について）	北海道地図株式会社社内研修会	北海道地図株式会社	12月13日

【アイヌ民族文化研究センター・アイヌ文化研究グループ(10 件)】

氏 名 種 別	内容・タイトルなど	行事名など	主催または依頼先	期 間
小川正人	講 師 (北海道の観光・展示・文化振興 等のセールスプロモーションにお いてアイヌ文化の取り上げる際の 基本的な考え方や注意点等)	SP 研究会例会におけるアイヌ 文化に関するレクチャー	SP（セールスプロモーシ ョン）研究会	10月29日
小川正人	講 師 特別展の開催目的・趣旨ならびに 展示会概要の紹介	北海道博物館特別展関連セミナ ー『アイヌ語地名と北海道ー地 名をとおして北海道を見つめな おすー』の共催と講師派遣	北海学園大学	7月22日
小川正人	講 師 「アイヌ民族の歴史と文化」～北 海道博物館の展示と取組の紹介を 通して～	令和元年度江別市教職員夏期セ ミナー	江別市教育研究所	7月30日

小川正人	講 師	函館からみるアイヌ文化と北海道 ～民族共生象徴空間の開設をひか えて～	令和元年度麻薬・覚醒剤乱用防 止運動北海道大会	保健福祉部地域医療推進 局	11月7日
大谷洋一	講 師	演習「絵本のなかのアイヌ語を、 どのように読むといいか ～アイ ヌ語の発音の基礎～」	令和元年度（2019年度）全道図 書館専門研修（子ども読書／地 域支援）	北海道図書館振興協議会	1月17日
遠藤志保	講 師	①特別展「アイヌ語地名と北海道」 の展示内容についての解説、②関 連講座「地図で遊ぼう！」におけ る教育効果（アイヌ語地名につい て）	北海道地図株式会社社内研修会	北海道地図株式会社	12月13日
遠藤志保	講 師	読み聞かせのためのアイヌ語・ア イヌ文化入門 「どのような作品 があるか」	令和元年度（2019年度）全道図 書館専門研修（子ども読書／地 域支援）	北海道図書館振興協議会	1月17日
大坂 拓	講 師	民具研究の視点から見たアイヌ民 族の自然利用	ボランティア・レンジャー(自然 解説員)レベルアップ講習会	北海道ボランティア・レ ンジャー協議会	2月22日
亀丸由紀子	報 告 者	IFLA2019 年アテネ大会先住民部 会会議「図書館・博物館協力和先 住民アイヌ」(仮題)	国際図書館連盟 (IFLA) アテネ 大会	日本図書館協会多文化サ ービス委員会	8月24日～30日
亀丸由紀子	報 告 者	報告「図書館・博物館協力和先住 民アイヌ」	IFLA2019 アテネ大会先住民文 科会への国内報告会	日本図書館協会多文化サ ービス委員会・むすびめ の会（図書館と多様な文 化・言語的背景をもつ 人々をむすぶ会）	9月23日

2 資料の収集・保存・活用

当館では、北海道ならではの自然・歴史・文化に関する遺産を永く保存し、活用するため、資料の収集から受入・登録、保存管理から利活用までを、各担当者が連携しながら行っています。また、資料を良好な状態で未来につなぎ伝えるため、収蔵庫の環境整備に努めています。そのなかで、文化財保護法にもとづく公開承認施設（国宝・重要文化財等の公開に適した施設・設備・体制を備えた施設）として文化庁より承認を受けました（平成27（2015）年8月10日～平成32（2020）年8月9日まで）。

当館の資料

平成27（2015）年の北海道博物館の設置に伴い、北海道開拓記念館と北海道立アイヌ民族文化研究センターが所蔵していた資料は当館資料へと管理換が行われ、180,418 件の資料を有する博物館として開館しました。そのうち約 3,000 件が、総合展示に供されています。当館の資料収集は、道民からの日常的な電話連絡等による寄贈が大部分を占めています。

北海道開拓記念館資料	北海道立アイヌ民族文化研究センター資料
北海道開拓記念館の資料収集は、昭和41（1966）年からスタートした北海道百年記念事業のなかで、昭和43（1968）年～昭和45（1970）年の3ヵ年、開設準備のひとつとして着手されました。この時期の資料収集は、道内各地に委嘱した開拓記念館資料調査協力員166名から提供された情報と協力をもとに、嘱託の調査収集委員と準備事務所職員が当たりました。この時期に収集された資料のうち、昭和46（1971）年4月の開館までに整理・受入された資料は約15,000件でした。開館後の資料収集は開拓記念館の学芸員によって進められ、管理換、購入、寄贈、製作、採集、寄託資料として収集されました。閉館時（平成26（2014）年度末）の資料数は166,146件でした。	北海道立アイヌ民族文化研究センターの資料収集は、購入、複写、寄贈を受けること及び伝承者・体験者等からの採録等により進められました。開所当初の平成6（1994）年には、アイヌ語地名の研究者であった故・山田秀三氏の研究資料を「山田秀三文庫」として受贈し、平成9（1997）年には、アイヌ語・アイヌ口承文芸の研究者であった故・久保寺逸彦氏の研究資料を「久保寺逸彦文庫」として受贈しました。これらのコレクションが道立アイヌ民族文化研究センターの資料の基礎となり、閉館時（平成26（2014）年度末）の資料数は33,319件でした。

資料収集方針

当館の資料収集は、北海道の生成、自然、歴史、文化に意義を持つものを対象としています。具体的には以下のような性格を持つ資料を収集の対象としています。

- 1) 北海道の地学に関する資料（岩石、鉱物、化石、土壌など）
- 2) 北海道の生物に関する資料（動物、昆虫、植物、菌類及び生物と人間の関わりに関する資料など）
- 3) 北海道の先史文化および人類史に関する資料（土器、石器、骨角器、金属器、木製品など）
- 4) アイヌ民族を中心とする北方諸民族の文化の特徴、地域差、時代差、歴史等に関する資料（民具、言語、口承文芸、芸能、信仰、伝統的生活様式、歴史等に関する有形・無形の資料）
- 5) 北海道に住んだ人びとの生活に関する資料（衣・食・住など日常生活、儀礼、信仰、芸能など）
- 6) 北海道の産業に関する資料（農業、漁業、林業、鉱業、工業など）
- 7) 北海道の歴史に関する資料（文書、絵画、地図、写真、記録映画など）
- 8) 上記のものに関連する無形文化資料（伝承、技術など）

資料審査会

館資料の適切な収集、保存、活用について協議するため、館内の内部組織として館長を会長とする資料審査会を設置しています。資料審査会は、資料収集方針に関することや資料の受入の選定など、協議を要する案件が生じた時点で、案件に関係する館内のグループからの要請にもとづき開催しています。令和元（2019）年度は11回開催しました。

2019 年度資料審査会の構成（2020 年 3 月末現在）

会 長	石 森 秀 三	館 長
	中 村 亘	アイヌ民族文化担当副館長
	齊 藤 文 俊	副館長
	小 川 正 人	学芸副館長 兼アイヌ民族文化研究センター長 兼学芸部長
	川 田 宣 人	総務部長 兼総務部総括グループ主幹
	右 代 啓 視	研究部長
	池 田 貴 夫	総務部企画グループ学芸主幹 兼研究部生活文化研究グループ学芸主幹
	堀 繁 久	学芸部博物館基盤グループ学芸主幹 兼研究部博物館研究グループ学芸主幹
	三 浦 泰 之	学芸部道民サービスグループ学芸主幹 兼研究部歴史研究グループ学芸主幹
	水 島 未 記	学芸部社会貢献グループ学芸主幹 兼研究部自然研究グループ学芸主幹
	甲 地 利 恵	アイヌ文化研究グループ研究主幹 兼学芸部社会貢献グループ研究主幹
	杉 山 智 昭	学芸部博物館基盤グループ学芸主査 兼研究部博物館研究グループ学芸主査
	鈴 木 あ す み	学芸部博物館基盤グループ学芸員 兼博物館研究グループ学芸員

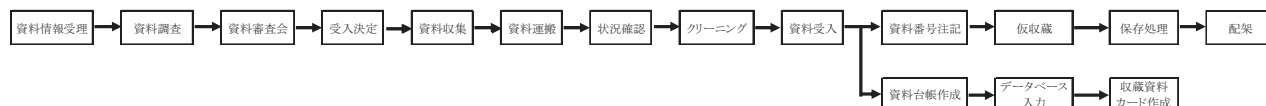
資料の収集

資料の受入・登録

資料は、受入手順に従って収集・登録し、収蔵庫に配架・保存します。

収蔵資料には収蔵番号が付され、「北海道博物館資料分類表」にもとづき、総集、記録、地学、生物、考古、民族、生活、産業、文書、美術の 10 の項目のいずれかに分類されます。受け入れた資料の情報は、全分野共通の資料台帳に登録するとともに資料データベースに入力して管理されます。

資料受入の手順



2019 年度の資料収集

資料情報件数	36 件	調査収集件数	21 件
--------	------	--------	------

2019 年度分類別・受入区分別資料件数

分 類	2018 年度 までの累計	管 理 換	購 入	寄 贈	製 作	採 集	寄 託	登録抹消	累計(件)
0 総 集	3,047			0					3,047
1 記 録	11,085			26					11,111
2 地 学	7,430			1					7,431
3 生 物	7,914			23		10			7,947
4 考 古	1,717			0					1,717
5 民 族	5,991			63	1	84		-4	6,135
6 生 活	36,119			281					36,400
7 産 業	21,385			45					21,430
8 文 書	88,147			266					88,413
9 美 術	755			25					780
合 計	183,590			730	1	94		-4	184,411

2019 年度地域別寄贈収集資料件数(730 件)

地 域	札幌市	江別市	その他道内	道外	計
資 料 件 数	675	11	40	4	730

資料目録

まとまった資料群については、資料群の概要や特徴などに関する解説を付けて紹介する『北海道博物館資料目録』を作成・発行しています。令和元(2019)年度現在の刊行済みの資料目録は次のとおりです。

※第1集は『北海道博物館一括資料目録』として刊行しましたが、第2号から『北海道博物館資料目録』と名称を変更しました。

(北海道行政情報センター(011-204-5222)で有償頒布している他、北海道博物館ホームページから PDF ファイルが無料ダウンロードできます)

北海道博物館資料目録

No.	タイトル	発行年月日
第1集	弥永コレクション	平成29(2017)年10月20日
第2号	フラージュ・コレクション	令和2(2020)年3月

資料の収蔵と保存管理

受入・登録された資料は清掃され、分野別・形態別に割当てた5室の収蔵庫に収蔵します。大型資料は木製棚に、小型資料は木・紙・プラスチック製の整理箱等に納め、木製棚又はスチール棚に配架しています。収納棚等は資料の性質、形態に合わせ出納が容易に行われるように配慮しています。

資料保存の環境を維持するため、当館では温湿度管理、定期清掃などといった、薬剤だけに頼らない方法による総合的有害生物防除管理(IPM)に取り組んでいます。具体的には、収蔵庫内の温度を夏季25℃・冬季22℃、湿度を55±5%に保持するほか、二酸化炭素バッグによる資料の殺虫処理、捕虫トラップの回収・設置・調査、落下菌による環境調査などを実施しています。また、情報の一元化を図り、総合的な温湿度管理を実施していくため、無線タイプのデータロガーシステムも導入しています。

そのほか、当館の施設管理を行う指定管理者と収蔵環境等に関する連絡会議を毎月行い、情報の共有を図っています。

資料保存に関する取り組み(2019 年度)

資料収蔵環境管理等に関する連絡会議の開催数 12 回

IPMに関わる作業の総実施回数 ※下記の⑥を除く 411 回

IPM の実施内容	回数
① 捕虫トラップ(展示場と収蔵庫における設置・回収と調査)	12 回実施
② 収蔵庫内の微生物汚染を確認するための落下菌調査	1 回実施
③ 特別展示室と収蔵庫の空気質調査	2 回実施
④ 担当職員による収蔵庫清掃	12 回実施
⑤ 全職員による展示室、収蔵庫の資料チェックとクリーニングを兼ねた大掃除	1 回(3 日間)実施
⑥ 新展示ケースなどの「からし」(接着剤等に含まれる有害物質の除去)作業	恒常的に実施
⑦ 収蔵庫搬入前の資料に対する、殺虫バッグによる二酸化炭素殺虫処理	11 回実施
⑧ 収蔵庫内巡回(庫内点検、ロガー目視、害虫の除去)	362 回実施
⑨ その他、収蔵環境の環境維持作用・調査(除湿機稼働、隙間のシーリング、地震などの異常時対応)	10 回実施

資料情報の管理

収蔵された資料は、1 点ごとに写真を撮影し、資料の年代、地域、形状、由来などの基礎情報をデータベースに入力し、北海道博物館収蔵資料カード（以下、収蔵資料カード）を作成します。このデータベースと収蔵資料カードは、個々の資料の第一次情報となり、企画展示の計画作りや利用者からのレファレンス対応など、当館の博物館活動の原点となるものです。

作成された収蔵資料カードは収蔵番号順に資料情報室に収められ、資料のデータベースは北海道博物館情報システムとして資料管理や利活用を図るため、随時データの追加入力を行っています。

また、他機関や研究者の利用の便宜を図るとともに、利用者の知的興味に応じていくため、収蔵資料目録などを作成するとともに、資料情報の一部を当館のホームページで公開しています。

2019 年度の資料情報の管理(2020 年 3 月末現在)

北海道博物館収蔵資料情報システムに 搭載している資料件数	204,170 件 (※登録未済した資料も含む)
うち 2019 年度新規搭載件数	935 件
2019 年度データ更新件数	1,303 件
ホームページ上(収蔵資料検索システム)で公開している件数	10,789 件



収蔵資料検索システム画面
(北海道博物館ホームページ)

資料の活用

館の収蔵資料は総合展示や特別展などに展示されるほか、博物館関係者、一般利用者や研究者等の調査・研究を目的とした利用（特別観覧）にも供されます。また、博物館や学校等の機関への資料の貸し出しや、館資料の写真や複写等の印刷物やホームページ等への利用の受付（模写品等使用）も行っています。

2019 年度資料利用件数

	資料の貸出		特別観覧		模写品等使用(北海道博物館)		模写品等使用(開拓の村)	
	利用件数	資料点数	利用件数	資料点数	利用件数	資料点数	利用件数	資料点数
博物館関係*	17	329	22	405	22	86	9	18
報道機関	0	0	12	0	27	58	3	34
官公庁	1	1	3	492	3	8	1	4
出版社	0	0	0	0	23	53	6	12
その他	2	110	31	331	19	105	22	39
計	20	440	68	1228	94	310	41	107

*教育委員会・学校含む

3 展示

当館の展示活動は、総合展示室、特別展示室、北海道庁旧本庁舎（通称「赤れんが庁舎」（札幌市中央区））で行われています。各展示は、それぞれの機能を果たしながらも互いに有機的に結びついており、さまざまな人びとが繰り返し訪れ、親しまれる博物館をめざし、北海道ならではの自然・歴史・文化に関わる資料を最大限に活かす展示を展開しています。また、期間を限って、特別展や企画テーマ展、などの企画展示を年に数回開催しています。

展示場や展示資料の保守点検・管理を日常的に実施するとともに、年に1回、2日間にわたって大掃除を行っています。

総合展示室

総合展示は、1階と2階を合わせて3,011 m²の広さがあります。北海道博物館の収蔵資料の中から約2,000点の実物資料を厳選し、さらに模型、ジオラマ、映像装置など、さまざまなメディアを使った展示を行っています。また、来るたびに違う、飽きない展示を演出するため、展示の定期的な入替を行っています。

2019年度の総合展示の入替件数(クローズアップ展示コーナーを除く)(68件)

テーマの場所	小テーマ名	入替日	資料番号	資料名(※入れ替え後の資料)
プロローグ(3件)	ナウマンゾウ	4月12日	61789	ナウマンゾウ右上腕骨
		12月19日	61783	ナウマンゾウ左上顎第三大臼歯
			—	ナウマンゾウ恥骨
第1テーマ(47件)	大地のなりたち	4月12日	125788	ステラーダイカイギュウ下顎骨
			125789	ステラーダイカイギュウ上腕骨
			151142	ステラーダイカイギュウ上腕骨(幼体)
			125791	ステラーダイカイギュウ肋骨
			125796	ヒゲクジラ肋骨
		8月16日	125798	セイウチの下顎骨
			131758	キタオットセイ橈骨
		12月21日	184713	ユキノカサガイ
			184715	コシタカサルアワビ
			184717	マキアゲエビス
			184722	エゾチドリガイ
			184723	エゾフネガイ
			184727	オホーツクイトカケ
			184728	エゾイトカケ
			184739	サワネイソニナ
			184742	ヒダリマキイグチ
			184746	カガニヨリマンジ
			184751	サルボウガイ
			184759	エゾキンチャクガイ
			184760	コシバニシキガイ
			184761	ダイシャカニシキガイ
			184762	ホタテガイ
			184765	マガキ
			184767	オオマルフミガイ
			184769	ミヨウガダニフミガイ
			184770	オンマフミガイ
			184773	アラスカシラオガイ
			184786	アサリ

第1テーマ	日の本・唐子・渡党	12月21日	31375 31374	松前旧事記 御由緒書之類
	蝦夷地の産物コレクション	12月21日	126439 126484	盃・天目台 椀
	シャクシャインの戦い	12月21日	31402	蝦夷蜂起物語
	ロシアの進出とアイヌ民族	12月21日	166538 71924 54396 44496 30628	夷酋列像(複製)(うち8点) 蝦夷草紙 蝦夷語箋 蝦夷記録 蝦夷図
	アイヌ民族と場所請負制	12月21日	184543 152952 153979 153532 153533 184541 —	〔蝦夷人割合代銭書上〕 御運上金上納通 アイヌ人別帳 夏フムシヤ取扱書 秋味フムシヤ網御祝儀日記 申年アツケン御場所仕入物書上帳 樹皮衣
	アイヌ民族と北海道開拓	8月16日	11476 11465	アトシ 盆
第2テーマ(12件)	食べる	12月21日	184806	マギリ
	着る	8月16日	33047	木綿衣
		12月21日	33044 11490	木綿衣 かんじき
	祈る	12月21日	126440 126443 124715 145755 11247 32816	盃・天目台 盃・天目台 盃 天目台 タマサイ タマサイ
	いろいろな物語	12月21日	177253 177839	〔二谷国松文書(七)〕 〔アイヌの物語について〕
第3テーマ(6件)	四季を感じる	6月13日	—	イラスト「七夕」
		8月12日	—	イラスト「十五夜」
		9月19日	—	イラスト「収穫」
		12月4日	—	イラスト「もちつき」
		1月4日	—	イラスト「冬のあそび」
		2月24日	—	イラスト「ニシン漁」

クローズアップ展示

普段の総合展示だけでは十分に紹介しきれない話題や、北海道博物館が所蔵する資料などを、テーマを決めて定期的に入れ替えて紹介する展示コーナーで、総合展示室内に7か所設けています。

2019年度のクローズアップ展示(23件)

第1テーマ(8件)

場 所	タ イ ト ル	展 示 期 間	主 担 当
クローズアップ展示1	『蝦夷風俗十二ヶ月屏風』を読む(1)	4月13日(土)～6月7日(金)	東 俊 佑
	古地図・絵図からさぐるアイヌ語地名*	6月8日(土)～10月11日(金)	東 俊 佑
	『蝦夷風俗十二ヶ月屏風』を読む(2)	10月12日(土)～12月18日(水)	東 俊 佑
	北のシルクロード:サンタン交易と蝦夷錦	12月21日(土)～2020年4月10日(金)	東 俊 佑

クローズアップ展示 2	松浦武四郎の蝦夷日誌を読む	4月13日(土)～6月7日(金)	三浦 泰之
	松浦武四郎の地区からさぐるアイヌ語地名※	6月8日(土)～10月11日(金)	三浦 泰之
	新撰組の元幹部隊士 永倉新八	10月12日(土)～12月18日(水)	三浦 泰之
	新しく仲間入りした歴史資料たち	12月21日(土)～2020年4月10日(金)	三浦 泰之

※第5回特別展「アイヌ語地名と北海道」関連

第2テーマ(6件)

場 所	タ イ ト ル	展 示 期 間	主 担 当
クローズアップ展示 3	祈りの造形―死者を悼む(2) 死者用の靴	4月13日(土)～8月16日(金)	大坂 拓
	アイヌ語地名研究者・山田秀三の葉書から※	8月17日(土)～12月18日(水)	小川 正人
	関東におけるアイヌ文化の活動	12月21日(土)～2020年4月10日(金)	田村 雅史
クローズアップ展示 4	サハリン(樺太)アイヌの近現代史	4月13日(土)～8月16日(金)	小川 正人
	アイヌ語地名研究者・山田秀三の、アイヌ文化の記録や保存への関わり※	8月17日(土)～12月18日(水)	小川 正人
	モノから見るアイヌ文化―耳飾りのいろいろ	12月21日(土)～2020年4月10日(金)	亀丸由紀子

※第5回特別展「アイヌ語地名と北海道」関連

第3テーマ(3件)

場 所	タ イ ト ル	展 示 期 間	主 担 当
クローズアップ展示 5	道産子のブラジル移住 100 周年	4月13日(土)～8月16日(金)	山際 秀紀
	岩手県から北海道へ渡った神楽	8月17日(土)～12月18日(水)	舟山 直治
	看板あれこれ	12月21日(土)～2020年4月10日(金)	会田 理人

第4テーマ(3件)

場 所	タ イ ト ル	展 示 期 間	主 担 当
クローズアップ展示 6	おままごとの世界	4月13日(土)～8月16日(金)	尾曲 香織
	たくぎん(北海道拓殖銀行)	8月17日(土)～12月18日(水)	会田 理人
	「すまい」を彩るタイル	12月21日(土)～2020年4月10日(金)	村上 孝一

第5テーマ(3件)

場 所	タ イ ト ル	展 示 期 間	主 担 当
クローズアップ展示 7	昆虫から見る生物多様性	4月13日(土)～8月16日(金)	堀 繁久
	北海道の地名にちなむ植物※	8月17日(土)～12月18日(水)	水島 未記
	北海道にいるのいないの? モグラの仲間	12月21日(土)～2020年4月10日(金)	鈴木あすみ

※第5回特別展「アイヌ語地名と北海道」関連

2019 年度の展示のようす



アイヌ語地名研究者・山田秀三の葉書から(第2テーマ)

アイヌ語地名研究の第一人者・山田秀三の地名研究以外の側面のひとつとして、山田自身による、年賀状や地名の現地調査先で描いた絵まがきを紹介しました。



「すまい」を彩るタイル(第4テーマ)

様々な機能を持ちつつ、装飾としても住宅に彩りを与えてきた、北海道における建築用材としてのタイルについて紹介しました。

来館者参加型展示

さまざまな北海道の自然・歴史・文化を楽しみながら学び、ともに考えるきっかけにいただける展示を目指して、総合展示室内に来館者が展示物に触れることのできるハンズオン展示や、展示に加わるなどの能動的な体験ができるスペースを設けています。

アイヌ文化 Q & A(第2テーマ)

展示をご覧になったあとに、「アイヌ文化の、ここがもっと知りたい」といったことがあれば、用紙に書いていただき、質問などにお答えするコーナーです。



総合展示 2 階出口付近の参加型展示

北海道をめぐる話題について、一緒に考え、より深く知るきっかけにいただけるように、ある話題についての来館者の声を掲示しているコーナーです。2019 年度は特別展「アイヌ語地名と北海道」にちなみ、「北海道の『とっておきの地名』」というテーマで実施しました。



特別展示室

特別展

総合展示で扱っている北海道の自然・歴史・文化についてさらに内容を深めた展示、あるいは総合展示の内容を補う特定の分野や主題で企画するもので、外部からの資料借用なども積極的に行い、これらを通して、さまざまな外部機関との連携も図る等、特別展示室で実施する展示会としてはもっとも規模の大きなものと位置づけています。基本的に毎年 1 回開催しています。

2019 年度の特別展(1 回)

名 称	アイヌ語地名と北海道		
会 期(開催日数)	2019 年 7 月 6 日(土)～9 月 23 日(月・祝) (休館日を除く 69 日間) [前期] 7 月 6 日(土)～8 月 25 日(日) / [後期] 8 月 27 日(火)～9 月 23 日(月・祝)		
観 覧 者 数	26,947 人(第 3 会場を含む)	展 示 構 成	小川正人(チーフ)、池田貴夫、東俊佑、遠藤志保、鈴木明世、大谷洋一、田中祐未、鈴木あすみ、佐々木利和
観 覧 料	特別展観覧料：一般 1,000 円(850 円)、大学生・高校生 350 円(250 円) 特別展示・総合展示観覧セット券：一般 1,300 円(1,200 円)、大学生・高校生 450 円(400 円) ※() 内は 10 人以上の団体料金 ※ 第 2 会場(総合展示「クローズアップ展示」に「アイヌ語地名」関連コーナーを特設)と第 3 会場(記念ホールに「白老のアイヌ語地名」関連コーナーを特設)は無料		
内 容	北海道の地名は、その多くがアイヌ語に由来します。このことは、アイヌ民族が北海道に先住してきたことの何よりの証です。江戸時代の古地図や古文書などになるされた地名、アイヌ語に由来する地名研究の第一人者である山田秀三の調査記録、近現代をへて現在に至る北海道の地名の特色などを紹介しながら、(地名)をとおして北海道を見つめ直す機会としました。		
関 連 普 及 行 事	<ul style="list-style-type: none"> ・講演会 連続講座「アイヌ語地名と北海道」(児島恭子氏、佐々木利和、石井正己氏、谷本晃久氏、高木崇世氏、佐藤知己氏、切替英雄氏、中川裕氏、和田哲氏) ・特別フォーラム ふるさとの〈地名〉をみつめて(関根健司氏、郷右近好古氏) ・ワークショップ 地図を楽しもう! A・B (協力：北海道地図株式会社スタッフ) ・展示解説セミナー(「地名にまつわる〈アイヌの伝承〉をみる」、「江戸時代の古地図・古文書とアイヌ語地名」、「北海道の地名うんちく話～ふるさとに帰省された皆様に」、「地名の『ル』、そしてわがルベシベ」、「山田秀三のアイヌ語地名研究」) ・特別イベント 北海道地名クイズ王決定戦 ・はっけんイベント アイヌ民族のゴザ編み機でコースターをつくろう ・開拓の村内 関連パネル展示 アイヌ語地名研究者・山田秀三とたどる 村の建物ゆかりの地名 		

主	催	北海道博物館
共	催	一般財団法人北海道歴史文化財団
協	力	NPO 法人北海道遺産協議会
後	援	北海道アイヌ協会、朝日新聞北海道支社、北海道新聞社、毎日新聞北海道支社、読売新聞北海道支社、NHK 札幌放送局、HBC 北海道放送、STV 札幌テレビ放送、HTB 北海道テレビ、UHB 北海道文化放送、TVh テレビ北海道、STV ラジオ、AIR-G'エフエム北海道、FM ノースウェーブ



企画テーマ展

当館収蔵資料を中心とする企画展示で、年に数回、開催します。総合展示とは別に、各研究グループ等での研究成果や北海道の自然・歴史・文化に関わる特定のテーマを掘り下げたり広く捉えたりする展示や、当館のコレクション紹介、新着資料紹介等、数多くの館蔵資料を紹介する展示などを実施しています。観覧は無料です。

2019 年度の企画テーマ展(3 回)

名 称	第 14 回企画テーマ展 北の手仕事 2019		
会期(開催日数)	2019 年 4 月 27 日 (土) ～6 月 9 日 (日) (休館日を除く 39 日間)		
観 覧 者 数	10,865 人	展示構成	北の手仕事 2019 実行委員会、大坂拓、亀丸由紀子、小川正人
内 容	人々を惹き付けるアイヌの民族衣装。その美と技は、今も学び受け継がれ、広がり続けています。北海道各地の現代の作り手による作品を、作者のメッセージも添えて紹介しました。		
関連普及行事	<ul style="list-style-type: none"> ・ミュージアムトーク「北の手仕事」の美 ―文化継承活動の精華を見る ・自然観察会 アイヌの人びとが利用した植物 ・講演会 アイヌの手仕事―衣文化をさぐる 		
共 催	北の手仕事 2019 実行委員会		



名 称	第 15 回企画テーマ展 エゾシカ		
会期(開催日数)	2019 年 10 月 12 日 (土) ～12 月 15 日 (日) (休館日を除く 56 日間)		
観 覧 者 数	9,839 人	展示構成	水島末記 (チーフ)、山田伸一、表溪太、鈴木あすみ
内 容	エゾシカのあれこれをわかりやすく紹介し、北海道の野生動物と人との関係について考えます。		
関連普及行事	<ul style="list-style-type: none"> ・シンポジウム「いま、あらためてエゾシカ問題を考える」 ・文化の日講演会「植物を食べるシカ、シカに食べられる植物」 ・自然観察会「紅葉の森で動物を探そう！」 ・特別イベント「エゾシカまつり」 ・ミュージアムカレッジ「開拓使の頃のエゾシカと人」 ・エゾシカスタンプラリー 		



協 力	北海道環境生活部生物多様性保全課、北海道石狩振興局保健環境部環境生活課 自然環境係、地方独立行政法人北海道立総合研究機構環境科学研究センター、 酪農学園大学、一般社団法人エゾシカ協会、一般社団法人北海道消費者協会、 生活協同組合コープさっぽろ、ファームエイジ株式会社、サージミヤワキ株式 会社
-----	--

名 称	第16回企画テーマ展 北海道神宮		
会期(開催日数)	2020年2月8日(土)～4月5日(日) (新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、2月29日～3月31日まで臨時休館。 開催日数は、休館日を除く23日間)		
観 覧 者 数	3,826人※	展示構成	舟山直治(チーフ)、尾曲香織、右代啓視、三浦泰之、 亀丸由紀子、鈴木明世
内 容	北海道神宮が創始150年を迎えたこの年度に、札幌神社の成り立ち、そして昭和39(1964)年に北海道神宮と改称してから今日までの境内や祭りの移り変わりについて、北海道神宮より北海道博物館に寄託されている資料などをもとにたどってみました。 (※総観覧者数のうち、2019年度内の観覧者実績は2,786人)		
連 携 行 事	北海道立図書館利用講座 映像によみがえる北海道「1966年の映像資料からみた『札幌まつり』」		
協 力	北海道神宮、センチュリーロイヤルホテル		



蔵出し展

館蔵資料の分類展示、コレクション紹介を中心に開催するものです。展示構成や物語性を設定するのではなく、ふだん収蔵庫にある資料を披露することに重点を置く展示会です。観覧は無料です。

2019年度の蔵出し展(1回)

名 称	蔵出し展 模型でみる札幌建築物語		
会期(開催日数)	2020年2月8日(土)～4月5日(日) (新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、2月29日～3月31日まで臨時休館。 開催日数は、23日間)		
観 覧 者 数	3,148人※	展示構成	鈴木明世(チーフ)、村上孝一
内 容	北海道博物館には、100点以上の建築模型が収蔵されています。今回の展示では、その中から、明治以降、北海道の中心都市として発展してきた札幌のまちを彩っていた建物たちを紹介しました。 (※総観覧者数のうち、2019年度内の観覧者実績は2,315人)		
関連普及行事	—		



その他の展示会

2019 年度の その他の展示会

令和元（2019）年度は、ニュージーランドマオリ工芸学校日本巡回展を当館を会場として開催しました。また、前年度に引き続き、道内市町村等の協力のもと、「アイヌ文化巡回展」を開催しました。

名 称	ニュージーランド マオリ工芸学校日本巡回展 「TUKU IHO 受け継がれるレガシー」
会期（開催日数）	2019年4月27日（土）～5月14日（火）（休館日を除く16日間）
観 覧 者 数	7,738人
場 所	北海道博物館特別展示室
内 容	世界の国々を巡回する、ニュージーランドの先住民・マオリの工芸展です。マオリ工芸学校の教師と生徒による、彫刻や織物などの工芸作品の展示と、カパ・ハカ（パフォーミング・アート）公演や芸術のワークショップイベントを通して、マオリの芸術と文化を紹介しました。
関 連 普 及 行 事	・パフォーミング・アート（カパ・ハカ）公演 ・ワークショップ（石工・木彫製作の実演）
主 催	テブイア、ニュージーランドマオリ美術工芸学校
協 力	一般財団法人北海道歴史文化財団



名 称	第6回 アイヌ文化巡回展 アイヌ語地名を歩く ～山田秀三の地名研究から～ 2019 白老
会 期	2019年9月17日（火）～9月26日（木）
観 覧 者 数	802人
場 所	白老町中央公民館・白老コミュニティセンター（白老郡白老町）
内 容	アイヌ語地名研究の第一人者である、故・山田秀三氏の資料から、白老町を中心とする地域の地名調査の資料と著作などを紹介しました。
関 連 普 及 行 事	—
共 催	仙台藩白老元陣屋資料館



名 称	第7回 アイヌ文化巡回展 アイヌ語地名を歩く ～山田秀三の地名研究から～ 2019 新ひだか
会 期	2019年9月22日（日）～9月23日（月・祝）
観 覧 者 数	250人
場 所	新ひだか町公民館・コミュニティセンター（日高郡新ひだか町）
内 容	アイヌ語地名研究の第一人者である、故・山田秀三氏の資料から、新ひだか町を中心とする地域の地名調査の資料と著作などを紹介しました。
関 連 普 及 行 事	—
共 催	—



名 称	第8回 アイヌ文化巡回展 アイヌ語地名を歩く ～山田秀三の地名研究から～ 2020 白老
会 期	2020年1月4日（土）～1月19日（日）
観 覧 者 数	201人
場 所	仙台藩白老元陣屋資料館（白老郡白老町）
内 容	アイヌ語地名研究の第一人者である、故・山田秀三氏の資料から、白老町を中心とする地域の地名調査の資料と著作などを紹介しました。
関 連 普 及 行 事	—
共 催	仙台藩白老元陣屋資料館



赤れんがサテライト

北海道博物館赤れんがサテライトは、北海道庁旧本庁舎（赤れんが庁舎）にある北海道博物館のサテライトスペースです。北海道博物館の見どころを、選りすぐりの資料で紹介するほか、展示会（特別展、企画テーマ展）の案内や、道内のさまざまな博物館の活動を紹介していました。赤れんが庁舎の改修工事に伴って、2019（令和元）年9月30日をもって閉室しました。

観覧者数: 412,666 人(2019 年度累計)



北海道博物館赤れんがサテライト(2016 年 7 月撮影)



ポケット学芸員による多言語解説(2016 年 7 月撮影)

休憩ラウンジ

来館中の休憩や飲食などにご利用いただいている休憩ラウンジ（利用可能人数 約 100 名）において、道民参加型の展示や北方領土コーナーを設置しています。



道民参加型展示

2019 年度は北海道化石会の協力で「アンモナイト」の展示を実施していました。



北方領土コーナー

北方領土問題に関する広報コーナーとして、北海道総務部北方領土対策本部の協力によりパネル等を設置しています。

4 教育普及・来館者サービス

当館の来館者サービスは、さまざまな人びとが繰り返し訪れ、親しまれる「わかりやすく、おもしろく、ためになる」博物館を目指し、調査研究の成果を活用しながら北海道の自然・歴史・文化をより深く知ることができるよう利用者の視点に立って展開しています。来館者サービスは総合展示室、講堂、はっけん広場で実施しており、展示見学のオプションとして講堂で行う「グループレクチャー」やはっけん広場で行う「はっけんプログラム」など、小・中学生などの団体利用向けの事業（事前申込）も実施しています。

総合展示室

総合展示室内では来館者がわかりやすく、おもしろく観覧することができるよう、当館職員と交流ができる「学芸員ハローデスク」の設置や気軽に参加できるイベントなどを行っています。また、入口に館内行事や施設の案内用のデジタルサイネージを設置しているほか、展示場内での Wi-Fi 網を整備し、多言語解説に対応したスマートフォン用展示解説アプリ「ポケット学芸員」の活用の利便性を高めました。

情報デスク

総合展示や展示資料の詳しい内容を知りたいという来館者の質問に速やかに回答するための情報窓口として、総合展示室内の1階と2階の交流ゾーンに設置しています。



ハイライトツアー

総合展示第1～5テーマの展示のみどころを1時間程度で説明する展示解説を行っています。（毎日14：00～15：00）



学芸員ハローデスク

1階と2階の交流ゾーンにある情報デスクでは、学芸員が研究活動などの通常業務を行いながら、北海道の自然・歴史・文化に関して、より専門的に知りたいという来館者の質問・疑問にお答えしています。（祝日のみ）



ミュージアムトーク

学芸員が総合展示のみどころや最新の研究などについて解説を行うイベントです。（一部の祝日のみ）



ちゃれんがラリー

子どもが総合展示の内容を楽しく学ぶことができるよう、展示室内に関する簡単な問題に答えながら、スタンプを集めるクイズラリーを実施しています。(毎日実施)



ハンズオン

普段は触ることのできない資料に特別に触ることができるコーナーを開設して、学芸員が道具の使い方などを実演するイベントを実施しています。(一部の祝日のみ)



ポケット学芸員

当館では、スマートフォン用の展示解説アプリ「ポケット学芸員」を導入しています。総合展示など約 350 項目の解説を、日本語、英語、中国語(繁体・簡体)、韓国語、ロシア語の 6 言語で見ることができます。アプリは無料でインストールできます。



音声ガイド(展示解説器)

総合展示の内容を各国語(日本語、英語、中国語(繁体・簡体)、韓国語、ロシア語)で簡単に説明する機器を総合案内で貸し出しています(1回 280 円)。



2019 年度 総合展示室におけるサービス・イベント参加者数(9,114 名)

	質問・レファレンス等			音声ガイド 貸出件数	行事・イベント					合計
	1 階	2 階	合計		ハンズオン	ミュージアム トーク	ハイライト ツアー	ちゃれんが ラリー	合計	
4 月	175	233	408	70	0	0	98	73	171	649
5 月	315	347	662	74	969	95	83	85	1,232	1,968
6 月	237	281	518	97	0	0	70	33	103	718
7 月	200	425	625	124	0	0	106	41	147	896
8 月	335	495	830	112	0	0	195	102	297	1,239
9 月	277	443	720	73	0	0	108	56	164	957
10 月	281	280	561	69	0	50	101	76	227	857
11 月	203	220	423	30	172	58	98	74	402	855
12 月	92	112	204	31	0	0	59	22	81	316
1 月	104	110	214	40	0	0	45	20	65	319
2 月	112	112	224	55	0	0	40	21	61	340
3 月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	2,331	3,058	5,389	775	1,141	203	1,003	603	2,950	9,114

※ 2020 年 2 月 29 日～3 月 31 日は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策により臨時休館
 ※ 2020 年 2 月 23 日～ 28 日は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策によりハイライトツアーを中止

2019 年度 ハンズオン内訳(6 件、1,141 名)

開催日	行事名	場所	参加者数
5 月 3 日	体感！リンリン黒電話	総合展示室 2 階 第 4 テーマ	229 名
5 月 4 日	昔の改札を通ってみよう	総合展示室 2 階 交流ゾーン	351 名
5 月 5 日	ペンギン形(おきあがりこぼし)にハイタッチ！	総合展示室 2 階 交流ゾーン	244 名
5 月 6 日	縄文土器にさわってみよう	総合展示室 1 階 第 1 テーマ	73 名
	体感！リンリン黒電話	総合展示室 2 階 第 4 テーマ	72 名
11 月 23 日	エゾシカにさわってみよう	特別展示室	172 名

2019 年度 ミュージアムトーク内訳(9 件、203 名)

開催日	行事名	担当	場所	参加者数
5 月 3 日	アイヌの伝統的な家の中をのぞいてみよう！	亀丸由紀子	総合展示室 1 階 第 2 テーマ	22 名
5 月 4 日	「標本」ってなんだろう？ 博物館の色々な標本たち	鈴木あすみ	総合展示室 2 階 第 5 テーマ	19 名
	野幌丘陵で発見されたステラー大カイギュウ化石	添田雄二	総合展示室 1 階 第 1 テーマ	24 名
5 月 5 日	北海道の住まいのうつりかわり	鈴木明世	総合展示室 2 階 第 4 テーマ	14 名
5 月 6 日	「北の手仕事」の美—文化継承活動の精華を見る	大坂 拓	特別展示室	16 名
10 月 14 日	開拓使とエゾシカ	山田伸一	特別展示室	19 名
10 月 22 日	飛び出し注意看板	鈴木あすみ	特別展示室	31 名
11 月 4 日	食べて減らす？ 美味しいエゾシカの話	水島未記	特別展示室	27 名
11 月 23 日	馬と鹿のお話	表 溪太	特別展示室	31 名

グループレクチャー

学校団体等や一般団体を対象としたプログラムです。総合展示の見どころや、北海道の自然・歴史・文化に関する話題について、当館の学芸員が映像などを使いながら、20～25分程度で解説を行っています（事前申込）。

できる限り多くの来館者の目的や要望に応じるため、グループレクチャーは社会科見学や現地学習、修学旅行などの利用に対応した「総合展示ダイジェスト」と、特定のテーマにもとづく授業の一環としても利用できるような「北海道の自然・歴史・文化に関する各種のテーマ」を設定して、実施しています。

2019年度グループレクチャー利用者数(115件、8,479名)

	件数	人数	メニュー別実施回数									
			① 総合 展示ダイ ジェスト	②北海道 の生き物	③北海道 の化石	④アイヌ 文化の 世界	⑤北海道 の歴史	⑥北海道 のくらし	⑦北海道 の産業	⑧博物 館・学芸 員の仕事	⑨北海道 博物館の あらし	⑩その他
4月	1	57	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5月	10	768	3	1	0	2	2	1	0	0	0	1
6月	15	1,381	5	0	0	10	0	0	0	0	0	0
7月	12	882	8	0	1	3	0	0	0	0	0	0
8月	12	862	1	0	0	5	0	3	1	0	0	2
9月	35	2,651	5	1	1	20	1	2	1	0	0	4
10月	21	1,448	11	0	0	8	2	0	0	0	0	0
11月	5	188	2	1	0	0	0	0	1	1	0	0
12月	3	56	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0
1月	1	186	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
2月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	115	8,479	38	3	2	50	5	6	3	1	0	7

※ 2020年2月29日～3月31日は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策により臨時休館

はっけん広場

はっけん広場は、「目で感じよう、ココロでふれよう、手ではっけんしよう」をキャッチフレーズに、子どもから大人までホンモノに触れて何かを発見できる場となるよう設置しています。化石に触る、アイヌ民族の文化を体験するなどの「はっけんキット」を配置しているほか、期間とテーマを定めて年間数回、気軽に参加できる「はっけんイベント」を開催しています。

また、はっけん広場に常駐している解説員は、来館者の希望に応じて道具の使い方や技術のレクチャーを行っています。2019（令和元）年度の利用者数は17,122名でした。

はっけんプログラム

学校団体等を対象としたプログラムです。当館のスタッフ（解説員）の進行のもと、参加者が実際のアンモナイトに触って観察したり、アイヌ民族の衣装を着る体験をとおしてそれらの特徴を学んだり、はっけんできるプログラムを実施しています（事前申込）。

2019年度はっけんプログラム(108件、6,558名)

	件数	人数	プログラム別実施回数						
			クラス数	①ヒグマ	②アンモナイト	③アイヌ文化	④縄文文化のくらし	⑤昭和のくらし	その他
4月	1	7	1	0	0	1	0	0	0
5月	5	211	8	0	0	2	6	0	0
6月	13	672	23	0	2	11	3	6	1
7月	5	217	8	0	1	4	0	2	1
8月	17	951	33	0	0	22	5	6	0
9月	47	3,111	97	0	0	83	5	9	0
10月	15	1,203	35	1	0	20	2	12	0
11月	4	140	5	1	0	3	1	0	0
12月	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1月	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2月	1	46	2	0	0	0	0	2	0
3月	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	108	6,558	212	2	3	146	22	37	2

※ 2020年2月29日～3月31日は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策により臨時休館

はっけんイベント

一般来館者を対象として、土曜・日曜日や祝日・振替休日を中心に、簡単なものづくりの体験ができるイベントを実施しています。

2019年度はっけんイベント参加者数(1,920名)

行事名	開催日	開催日数	参加者数
ポップアップカードでつくる春の森林公園	4月6日(土)～5月26日(日)の土曜日・日曜日・祝日・振替休日	22日間	233名
くるくるピクチャー大作戦！	6月1日(土)～7月21日(日)の土曜日・日曜日・祝日 7月25日(木)～31日(水)の開館日	23日間	308名
アイヌ民族のゴザ編み機でコースターをつくろう	8月1日(木)～18日(日)の開館日 8月24日(土)～9月29日(日)の土曜日・日曜日・祝日	30日間	550名
つくって鳴らそうシカ笛♪	10月5日(土)～11月24日(日)の土曜日・日曜日・祝日・振替休日	19日間	483名
しめ縄づくり	11月30日(土)～12月18日(水)の開館日毎日	16日間	176名
ワラでミニほうきをつくろう！	1月4日(土)～19日(日)の開館日毎日 1月25日(土)～2月11日(火・祝)土曜日・日曜日・祝日	21日間	161名
指織りで毛糸のプレスレットをつくろう	2月15日(土)～2月23日(日)の土曜日・日曜日	4日間	9名



くるくるピクチャー大作戦！



指織りで毛糸のプレスレットをつくろう

はっけんキット

来館者が自由に手に取って遊んだり体験したりする中で、自然の不思議や昔の知恵など、これまで気がつかなかったり、知らなかったりする何かを〈はっけん〉してもらうことを目的に、体験型教材「はっけんキット」を開発・改良しています。2019（令和元）年度のはっけんキットの使用者数は8,583名でした。



はっけんキット の いろいろ



2019 年度に新規開発した はっけんキット「はめこみ地図記号」

はっけんキット一覧（2020 年 3 月 31 日現在）

【生き物に関するもの】

- ・毛皮にさわろう① ヒグマ
- ・毛皮にさわろう② エゾシカ
- ・毛皮にさわろう③ アザラシ

【地学に関するもの】

- ・北海道の砂を観察しよう
- ・アンモナイト化石を観察する

【アイヌ文化に関するもの】

- ・ムックリを鳴らそう
- ・いろいろな繊維にさわってみよう
- ・着物を着てみよう(小さな着物)
- ・着物を着てみよう(大きな着物)
- ・刺繍を観察しよう
- ・アイヌ語かるたに挑戦！
- ・アイヌパズルに挑戦！
- ・背負い縄(タラ)で荷物を運んでみよう
- ・背負い袋(サラニブ)を背負ってみよう
- ・サケ皮靴(模型)を組み立てよう
- ・木罫りを観察しよう

【歴史に関するもの】

- ・縄文人のおしゃれ
- ・土器文様のいろいろ
- ・鹿の角でつくった釣り針

【生活文化に関するもの】

- ・昔の衣服を着る①-1「冬の女性の装いをしてみよう 角巻 雪下駄」
- ・昔の衣服を着る①-2「冬の女性の装いをしてみよう お高祖ずきん 番傘」
- ・昔の衣服を着る②「お店屋さんになってみよう」
- ・昔の衣服を着る③「漁師さんになってみよう」
- ・昔の衣服を着る④「農家の人になってみよう」
- ・昔の衣服を着る⑤「戦時中のくらし」
- ・昔の道具ではかる①「杓でお米をはかってみよう」
- ・昔の道具ではかる②「さおばかりで おいもを はかろう」
- ・包んで しぼって①「わらで卵を包んでみよう」
- ・包んで しぼって②「経木でアサリを包んでみよう」
- ・包んで しぼって③「風呂敷を使ってみよう」
- ・赤ちゃんのお世話①「おんぶをしてみよう」
- ・赤ちゃんのお世話②「おむつをあててみよう」
- ・いろんなくせんい「この布は何かからできているのかな？」
- ・ヒツジの毛にふれる「ふわふわの毛をとかしてみよう！」
- ・なつかしおもちゃで遊ぼう①「あやとり おはじき パッチ」
- ・なつかしおもちゃで遊ぼう②「お手玉 こま わなげ」
- ・なつかしおもちゃで遊ぼう③「竹わり けん玉 だるまおとし」
- ・パズルで脳をきたえよう！「万年ゲーム 清少納言知恵の板 ザイルトリック」
- ・みんなでカードゲームをしよう！「かるた 家族あわせ 鳥さし」
- ・みんなでボードゲームをしよう！「ダイヤモンドゲーム コピットゲーム 十六武蔵」
- ・すごろくで、もりあがろう！「蝦夷土産道中寿五六 札幌区実業家案内双六」
- ・地図記号、全部正解できるかな？ はめこみ地図記号

イベント

自発的に学習したり、博物館の多様な活動に興味を持ってもらうきっかけとなったりするような入門的なイベントから、より専門的な講座まで、北海道の自然・歴史・文化に関わるイベントや講演会などをさまざまな形態で開催しています。

体験型プログラム

大人から子どもまでを対象とした、「ちゃれんがワークショップ」「自然観察会」などの体験型のプログラムを行っています。

2019 年度の体験型プログラム(「ちゃれんがワークショップ」「自然観察会」)(12 件、359 名)

開催日	行事名	担当・講師	参加者数
4 月 13 日	自然観察会 エゾアカガエルのラブコールを聴こう	堀繁久・水島未記・表溪太・鈴木あすみ、自然ふれあい交流館スタッフ	44 名
5 月 18 日	自然観察会 アイヌのくびきが利用した植物	水島未記・堀繁久・表溪太・大坂拓	32 名
6 月 15 日ほか	ちゃれんがワークショップ 縄文土器をつくる(全 2 回) ※①6 月 15 日に「つくる」、②6 月 30 日に「焼く」を実施(各回参加者:①52 名、②52 名)	右代啓視・鈴木琢也	104 名
6 月 29 日	ちゃれんがワークショップ のこぎりでネームプレートをつくろう	青柳かづら・山際秀紀・池田貴夫・鈴木明世	18 名
7 月 21 日	ちゃれんがワークショップ 石器をつくる	本吉春雄氏(湧別川流域史研究会会長)、右代啓視・鈴木琢也	46 名
9 月 29 日	ちゃれんがワークショップ 大人のための「アイヌの楽器 まったく初めての体験」	甲地利恵	9 名
11 月 9 日	自然観察会 紅葉の森で動物を探そう!	表溪太・水島未記・鈴木あすみ・堀繁久、自然ふれあい交流館スタッフ	38 名
11 月 17 日	ちゃれんがワークショップ 稲わらで縄をつくって、巨人人間あやとりに挑戦!	池田貴夫・舟山直治	14 名
11 月 30 日	ちゃれんがワークショップ 鳥のつばさの標本をつくろう!	鈴木あすみ・表溪太	10 名
12 月 22 日	ちゃれんがワークショップ 博物館で新年祈願!? 日本の画材で絵馬づくり	田中祐未・三浦泰之・水島未記	24 名
2 月 8 日	ちゃれんがワークショップ 羊毛を紡ぐ①	尾曲香織・会田理人・池田貴夫	10 名
2 月 9 日	ちゃれんがワークショップ 羊毛を紡ぐ②	尾曲香織・会田理人・池田貴夫	10 名
2 月 29 日	自然観察会 雪の森で動物を探そう!	表溪太・水島未記・堀繁久、自然ふれあい交流館スタッフ	(中止)

子どもワークショップ

主に小学生・中学生とその家族を対象として、親子でものづくりや体験ができるプログラムを中心に実施しています。

2019 年度の子どもワークショップ(11 件、420 名)

開催日	行事名	担当・講師	参加者数
4 月 13 日	アイヌ音楽 うたおう・おどろう・ならそう・ひこう	甲地利恵	14 名
5 月 11 日	博物館を建てる「モノ」のオリジナル図鑑をつくろう!	鈴木明世・村上孝一	11 名
7 月 27 日	地図を楽しもう! A	鈴木明世・鈴木あすみ・遠藤志保・北海道地図株式会社スタッフ	64 名
8 月 3 日	地図を楽しもう! B	鈴木明世・鈴木あすみ・遠藤志保・北海道地図株式会社スタッフ	32 名
8 月 17 日	草原の主・トノサマバッタをさがそう	堀繁久・表溪太・水島未記・鈴木あすみ、自然ふれあい交流館スタッフ	49 名
8 月 18 日	ドライアイスであそぼう!	表溪太	61 名

9月14日	アンモナイトを解剖しよう	圓谷昂史	58名
10月6日	ガリ版でいんさつ屋さん！	会田理人・鈴木明世	15名
12月1日	文字であそぼう♪ 消しゴムはんこづくり	田中祐未・三浦泰之・水島未記	24名
12月7日	貝の化石で標本をつくろう！	圓谷昂史、畠誠氏(北広島エコミュージアムセンター知新の駅)	40名
1月25日	雪のなかで宝さがし	舟山直治・池田貴夫	52名

講座・講演会

北海道博物館のスタッフや、国内外のさまざまな分野の研究者による研究発表、展示会や所蔵資料に関する講座・講演会・シンポジウムなどを実施しています。

2019年度の講座・講演会(23件、2,048名)

開催日	種類	行事名	担当・講師	参加者数
4月7日	ミュージアムカレッジ	北蝦夷地ウシヨロ場所物語	東俊佑	68名
4月14日ほか	古文書講座	はじめての古文書講座(全3回)【入門編】 ※①4月14日、②5月12日、③6月9日に実施(各回参加者①68名、②65名、③52名)	東俊佑	185名
4月21日ほか	古文書講座	古文書に親しむ(全3回)【実践編】 ※①4月21日、②5月19日、③6月30日に実施(各回参加者①66名、②52名、③53名)	三浦泰之	171名
5月25日	講演会	アイヌの手仕事 ～衣文化をさぐる～	津田命子氏(アイヌ服飾研究家)	120名
6月2日	ミュージアムカレッジ	100年前の北海道と朝鮮半島	山田伸一	41名
6月23日	ミュージアムカレッジ	アイヌ語由来の標語・愛称を再考する	奥田統己(当館非常勤研究職員)	46名
7月6日	講演会	【連続講座「アイヌ語地名と北海道」】 「アイヌ語地名」とはなにか	児島恭子氏(札幌学院大学)	103名
7月7日	講演会	【連続講座「アイヌ語地名と北海道」】 今井八九郎 一人と業績一	佐々木利和(当館非常勤研究職員)	88名
7月13日	講演会	【連続講座「アイヌ語地名と北海道」】 菅江真澄がみた北海道・東北の地名	石井正己氏(東京学芸大学)	72名
7月20日	講演会	【連続講座「アイヌ語地名と北海道」】 蝦夷通詞とアイヌ語地名	谷本晃久氏(北海道大学)	82名
8月4日	講演会	【連続講座「アイヌ語地名と北海道」】 伊能忠敬と間宮林蔵の蝦夷地測量	高木崇世芝氏(北海道史研究協議会会員)	142名
8月25日	講演会	【連続講座「アイヌ語地名と北海道」】 アイヌ語研究からみた「アイヌ語地名」その1	佐藤知己氏(北海道大学)	155名
9月1日	講演会	【連続講座「アイヌ語地名と北海道」】 アイヌ語研究からみた「アイヌ語地名」その2	切替英雄氏(元北海学園大学)	99名
9月8日	講演会	【連続講座「アイヌ語地名と北海道」】 アイヌ語研究からみた「アイヌ語地名」その3	中川裕氏(千葉大学)	142名
9月15日	講演会	【連続講座「アイヌ語地名と北海道」】 古地図と歩く	和田哲氏 (あるた出版編集部・『O.tone』編集デスク)	92名
10月19日	シンポジウム	いま、あらためてエゾシカ問題を考える	横山真弓氏(兵庫県立大学)、宇野裕之氏(道立環境科学研究センター)、伊吾田宏正氏(酪農学園大学)	73名
11月3日	文化の日講演会	植物を食べるシカ、シカに食べられる植物	高槻紀氏(麻布大学いのちの博物館)	79名
11月10日	アイヌ語講座	アイヌ語 はじめの一步	遠藤志保	35名
11月24日	ミュージアムカレッジ	開拓使の頃のエゾシカと人	山田伸一	51名
12月8日	アイヌ語講座	アイヌの物語を聴いてみよう	大谷洋一	46名
12月15日	ミュージアムカレッジ	歴史の中の「声」を聴く:北海道アイヌ協会創設のころ	小川正人	47名

1月11日	アイヌ語講座	じっくり！「見て聞いてアイヌ文化の世界」	遠藤志保	40名
2月16日	ミュージアムカレッジ	渡島半島に暮らしたアイヌ民族の歴史と文化	大坂拓	71名
3月1日	ミュージアムカレッジ	じっくり見よう！アイヌの着物	亀丸由紀子・遠藤志保	(中止)
3月22日	ミュージアムカレッジ	択捉島紗那の学校と高城重吉	小川正人	(中止)

特別イベント

特別展の期間中や文化の日などにあわせて、外部講師も招きながら、講座、体験イベント、コンサートなどを開催しています。

2019年度の特別イベント(27件、7,244名)

開催日	行事名	担当・講師	場所	参加者数
4月27日	パフォーミングアート「カバ・ハカ」公演 ※ 午前・午後に1回ずつ実施(各回参加者 午前91名、午後117名)	ニュージーランド・マオリ芸術工芸学校	記念ホール	208名
4月28日	パフォーミングアート「カバ・ハカ」公演 ※ 午前・午後に1回ずつ実施(各回参加者 午前80名、午後145名)	ニュージーランド・マオリ芸術工芸学校	記念ホール	225名
4月29日	パフォーミングアート「カバ・ハカ」公演 ※ 午前・午後に1回ずつ実施(各回参加者 午前141名、午後155名)	ニュージーランド・マオリ芸術工芸学校	記念ホール	296名
4月30日	パフォーミングアート「カバ・ハカ」公演 ※ 午前・午後に1回ずつ実施(各回参加者 午前172名、午後156名)	ニュージーランド・マオリ芸術工芸学校	記念ホール	328名
5月1日	パフォーミングアート「カバ・ハカ」公演 ※ 午前・午後に1回ずつ実施(各回参加者 午前201名、午後174名)	ニュージーランド・マオリ芸術工芸学校	記念ホール	375名
5月2日	パフォーミングアート「カバ・ハカ」公演 ※ 午前・午後に1回ずつ実施(各回参加者 午前151名、午後165名)	ニュージーランド・マオリ芸術工芸学校	記念ホール	316名
5月3日	パフォーミングアート「カバ・ハカ」公演 ※ 午前・午後に1回ずつ実施(各回参加者 午前132名、午後168名)	ニュージーランド・マオリ芸術工芸学校	記念ホール	300名
5月4日	パフォーミングアート「カバ・ハカ」公演 ※ 午前・午後に1回ずつ実施(各回参加者 午前136名、午後246名)	ニュージーランド・マオリ芸術工芸学校	記念ホール	382名
5月5日	パフォーミングアート「カバ・ハカ」公演 ※ 午前・午後に1回ずつ実施(各回参加者 午前185名、午後190名)	ニュージーランド・マオリ芸術工芸学校	記念ホール	375名
5月6日	パフォーミングアート「カバ・ハカ」公演 ※ 午前・午後に1回ずつ実施(各回参加者 午前106名、午後130名)	ニュージーランド・マオリ芸術工芸学校	記念ホール	236名
5月8日	パフォーミングアート「カバ・ハカ」公演 ※ 午前・午後に1回ずつ実施(各回参加者 午前61名、午後51名)	ニュージーランド・マオリ芸術工芸学校	記念ホール	112名
5月9日	パフォーミングアート「カバ・ハカ」公演 ※ 午前・午後に1回ずつ実施(各回参加者 午前98名、午後58名)	ニュージーランド・マオリ芸術工芸学校	記念ホール	156名
5月10日	パフォーミングアート「カバ・ハカ」公演 ※ 午後のみ1回の実施	ニュージーランド・マオリ芸術工芸学校	記念ホール	125名
5月11日	パフォーミングアート「カバ・ハカ」公演 ※ 午前・午後に1回ずつ実施(各回参加者 午前248名、午後236名)	ニュージーランド・マオリ芸術工芸学校	記念ホール	484名
5月12日	パフォーミングアート「カバ・ハカ」公演 ※ 午前・午後に1回ずつ実施(各回参加者 午前267名、午後342名)	ニュージーランド・マオリ芸術工芸学校	記念ホール	609名
6月16日	海野和男の生きものの写真のスズメ	海野和男氏 (生きものの写真トリック実行委員長)	講堂	25名
7月14日	北海道ジオパークまつり2019	道内ジオパーク関係者	講堂	1,500名
7月15日	学芸員による特別展展示解説セミナー 「地名にまつわる〈アイヌの伝承〉をみる」	遠藤志保	講堂	49名
7月17日	特別フォーラム ふるさとの〈地名〉をみつめて	関根健司氏(平取町立二風谷アイヌ文化博物館)・郷右近好古氏(アイヌ料理の店「喫茶ボロン」店主)	講堂	48名

8月10日	北海道地名クイズ王決定戦 ※ 午前に「子どもクイズ大会」、午後に「決定戦」(各回参加者 午前 33 名、午後 53 名)	池田貴夫	講堂、グランドホール	86 名
8月11日	学芸員による特別展展示解説セミナー 「江戸時代の古地図・古文書とアイヌ語地名」	東俊佑	講堂	66 名
8月12日	学芸員による特別展展示解説セミナー 「北海道の地名うんちく話～ふるさとに帰省された皆様に」	池田貴夫	講堂	66 名
9月16日	学芸員による特別展展示解説セミナー 「地名の『ル』、そしてわがルベシベ」	大谷洋一	講堂	49 名
9月23日	学芸員による特別展展示解説セミナー 「山田秀三のアイヌ語地名研究」	小川正人	講堂	81 名
11月3日	ミュージアムコンサート アイヌ音楽ライブ	MAREWREW(マレウレウ)	記念ホール	294 名
11月16日	エゾシカまつり	24K、EZO LEATHER WORKS、 NPO法人西興部村猟区管理協会、 えぞほね団Sapporo、北海道環境生 活部生物多様性保全課、一般社団 法人北海道消費者協会、生活協同 組合コープさっぽろ、酪農学園大学 狩猟管理学研究室	講堂	410 名
1月18日 ほか	博物館のバックヤードを見てみよう ※ ①1月18日、②1月26日の各日午前・午後の2回ずつ実施(各回参加者①午前12名、 午後9名、②午前11名、午後11名)	杉山智昭・山際秀紀	収蔵庫など	43 名

その他のイベント

屋上スカイビュー特別開放

春季～秋季の祝日に限って屋上を開放しています。札幌の市街地の眺めや野幌の森の広がりを楽しんでいただけます。

2019 年度の屋上スカイビュー特別開放(8 回、1,683 名)

5月3日から9月23日までの祝日に実施しました。

開催日	参加者数
5月3日(憲法記念日)	242 名
5月4日(みどりの日)	363 名
5月5日(こどもの日)	260 名
5月6日(振替休日)	120 名
7月15日(海の日)	166 名
8月11日(山の日)	254 名
8月12日(振替休日)	228 名
9月16日(敬老の日)	50 名
9月23日(秋分の日)	(天候不良のため中止)

館外のイベント

巡回展等にあわせて、館外でも講座、イベント等を開催していますが、2019(令和元)年度の館外のイベントはありませんでした。

5 学習・活動支援

道民の「知りたい」気持ちに応えるとともに、博物館や北海道の自然・歴史・文化の理解促進のための人材育成事業の一環として、利用者をはじめ、地域の博物館や学校教育などさまざまな活動に対する支援を行っています。

学校教育との連携

北海道博物館では、学校教育との連携事業を重要な事業と位置づけています。そのため博物館を生涯学習や学校教育においてより効果的に活用していただくため、地域の博物館や学校などのニーズ把握に努めながら、事業を進めています。

教職員を対象とした研修

2019（令和元）年度には、前年度に引き続き、博物館を活用した学習活動への理解促進のため、道内の小・中学校および高等学校の教職員等を対象として、北海道博物館・北海道開拓の村の展示や教育プログラムについて解説する、「博物館教育プログラム研修会」を開催しました。

2019 年度博物館教育プログラム研修会(1 回、30 名)

開催日	2019 年 8 月 16 日(金)
参加者	30 名(北海道内の小学校教職員)
研修内容	研修 1 北海道博物館の利用方法 研修 2 アイヌ文化の学習と指導方法 研修 3 はっけんプログラムの実演 研修 4 北海道開拓の村の利用方法 研修 5 北海道の昔の道具やくらしの様子

『北海道博物館 学校利用ガイド』

小・中学校や高校などの学校団体が、現地学習や社会見学、修学旅行などで、北海道博物館を利用する際に必要な情報をまとめたガイドです。北海道博物館の概要のほか、博物館利用の手続きや博物館でできる教育プログラムなどについて記載しています。道内の学校に送付しているほか、当館のホームページ上からもご覧いただけます。



はっけんキットの貸出

北海道博物館では、北海道の自然・歴史・文化についての理解を深めてもらうため、北海道内の小学校、中学校、高等学校、幼稚園・保育園等の学校団体を対象として、学校の授業などで活用できる補助教材の貸出を行っています。2019（令和元）年度は1件の貸出を実施しました。

おうちミュージアム

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のために、道内小・中学校等で長期休校が実施された2020（令和2）年2月～3月、北海道博物館では、子どもたちが家庭で楽しみながら学ぶための素材として、インターネットでさまざまな学習コンテンツをダウンロードできるサイト「おうちミュージアム」を期間限定で、ホームページ上に公開しました。

また、この取組が、より多くの方に届くよう、「おうちミュージアム」の名称・ロゴマークならびにTwitterにおけるハッシュタグ（#おうちミュージアム）を道内外の博物館とも共有しました。



「おうちミュージアム」ロゴマーク

2019年度の「おうちミュージアム」公開期間

2020年3月4日（水）～3月31日（火）（※ 2020年6月現在 継続中）

2019年度の「おうちミュージアム」提供コンテンツ（北海道博物館）

No.	公開日	コンテンツ名
第1弾	3月4日	松浦武四郎のかいた絵にぬりえしよう！
第2弾	3月5日	ならべて楽しもう アイヌ語ブロック
第3弾	3月6日	つなげてみよう！北海道地名しりとり
第4弾	3月7日	夜に飛ぶ動物を飛ばそう
第5弾	3月8日	指織りプレスレットの作り方
第6弾	3月8日	アンモナイト折り紙を折ろう！
第7弾	3月10日	120年くらい前の札幌をすごろくで体験しよう！
第8弾	3月11日	北海道ふくわらい
第9弾	3月12日	むかしの教科書で工作をしてみよう！
第10弾	3月13日	おうちでアイヌの伝統料理を作ろう！
第11弾	3月14日	くるくるピクチャー大作戦！
第12弾	3月15日	ポップアップカードでつくる春の野幌森林公園
第13弾	3月17日	松浦武四郎がつくったすごろくであそぼう！
第14弾	3月18日	アイヌの遊び歌のアニメを見てみよう！
第15弾	3月19日	どんな漢字から、どんなひらがなができたのかな？
第16弾	3月20日	くずし字を読んでみよう（中学生・高校生向け）
第17弾	3月22日	アヒル笛で音のしくみを体験しよう
第18弾	3月25日	空き箱ではたおりをしよう！
第19弾	3月31日	いももちを作ろう！

2019年度の「おうちミュージアム」参加機関

北海道内外の33施設（2020年3月31日現在）

博物館実習・インターンシップの受入

博物館実習

博物館実習（館務実習）は、年に1回、8月に20名を上限として実施しています。10日間の日程で、博物館の活動および学芸員の業務のうち、できるだけ多くの面を経験できるようプログラムを組んでいます。令和元（2019）年度は8月20日（火）から8月30日（金）の休館日を除く10日間で実施しました。また、見学実習は随時受け入れています。

2019年度の博物館実習（館務実習）生の受入（17名）

大 学 名	学 部 ・ 学 科 名	学 年	人 数	専 攻
駿河台大学	現代文化学部	4年	1名	現代文化学
北海道大学大学院	文学院	修士1年	1名	人文学
駒澤大学	文学部	3年	1名	外国史学
一橋大学大学院	社会学研究科	修士2年	1名	社会学
北海道大学	文学部	2年	1名	文学研究科
筑波大学	情報学群	4年	1名	図書館学
北海道大学大学院	文学研究科	博士2年	1名	歴史地域文化学
北海道大学	理学院	修士1年	1名	自然史科学
佛教大学	歴史学部	4年	1名	歴史学
札幌大学大学院	文化学研究科	修士2年	1名	文化学
札幌大学	地域共創学群	4年	1名	歴史文化
札幌大学	地域共創学群	3年	2名	歴史文化
日本大学	生物資源科学部	4年	1名	動物資源科学科
琉球大学	理学部	4年	1名	海洋自然科学
札幌学院大学	人文学部	3年	1名	人間科学科
目白大学	社会学部	4年	1名	地域社会学

2019年度の博物館実習（館務実習）の様子



博物館実習の様子（資料の計測とクリーニング）



博物館実習の様子（自然観察会のための下見と準備）

2019年度の見学実習の受入（5件、53名）

実 施 日	大 学 名 等	学 部 ・ 講 座 名	人 数	内 容
5月17日	北海道大学	「博物館実習」履修学生	25名	概要説明、バックヤード見学、総合展示室観覧
6月29日	北翔大学	「博物館実習」履修学生	8名	概要説明、バックヤード見学、総合展示室観覧
8月16日	（各大学）	「北海道開拓の村」における博物館実習（館務実習）生	10名	概要説明、バックヤード見学、総合展示室観覧
10月25日	北海道大学	「博物館実習」履修学生	6名	概要説明、バックヤード見学、総合展示室観覧
12月25日	苫小牧駒澤大学	「博物館実習」履修学生	4名	概要説明、バックヤード見学、総合展示室観覧

インターンシップ

中学・高校、大学のカリキュラムの一環として行われるインターンシップや職場体験等についても、積極的に受け入れています。

2019年度のインターンシップの受入(5件、18名)

期 間	学 校 名	学 年	人 数	備 考
9月3日	北海道大学、札幌大学、東京農業大学		各1名	道環境生活部文化振興課による受入
9月11日	市立札幌清田高等学校	1年	7名	札幌市立高等学校「職場体験学習」による受入
9月18日	市立札幌新川高等学校	2年	5名	
10月16日	市立札幌手稲高等学校		2名	
11月27～28日	登別明日中等教育学校	高校1年	1名	宿泊学習にかかる職場体験

レファレンス対応

北海道の自然・歴史・文化に関する身近な相談の窓口として、質問や疑問、専門的な内容に関する相談に図書室や電話などで対応しています。こうしたレファレンス対応は、利用者との対話による情報交換の場となっています。専門的な内容を含む質問等はそれぞれの専門の学芸職員が対応していますが、内容によってはより正確な情報をお伝えするため、資料等を調べた後に回答しています。

2019年度のレファレンス等対応件数

写 真 提 供 件 数	94 件
レ フ ァ レ ン ス 件 数	426 件 (来館 180 件、非来館 246 件)
アンケート、その他の利用件数	31 件

図書室

図書室には閲覧スペース、図書カウンターを設置しています。閲覧スペースには、北海道の自然・歴史・文化に関する図書や各地の博物館の機関誌などを配架するとともに、当館で公開しているアイヌ文化関連の映像や音声などが視聴できるスペースや、企画展開催に合わせて、展示に関連する図書を配架するコーナーを設けています。

また、北海道の自然・歴史・文化に関する質問や図書に関する問い合わせ、博物館の資料への質問などにも対応しています。利用は無料です。

2019年度の図書室利用者

図 書 室 利 用 者	3,133 名
うち図書室のみの利用者	30 名



閲覧スペース



図書カウンター

図書室の蔵書

当館の刊行物のほか、職員が研究に用いる図書資料（専門書・一般書）を所蔵しています。道内外の博物館、大学などの機関や、個人からの寄贈等による刊行物も収集しており、書店では流通しない貴重な図書資料も多くあります。これらの図書資料は、主に2つの書庫で管理され、その一部を図書室内の閲覧スペースに配架し、一般の来館者に利用していただいています。

2019年度の図書資料数

区 分		数 量（冊）
2018年度総計		152,675
2019年度受入	単行本図書	463
	雑誌	269
	博物館関係出版物	1,291
	小計	2,023
2019年度除籍		0
総計		154,698

アイヌ関係資料の閲覧・視聴

閲覧スペースでは、アイヌ民族文化研究センターが公開している資料を閲覧することができます。閲覧・視聴できる資料は、旧北海道立アイヌ民族文化研究センターならびに、その機能を引き継いだ当館のアイヌ民族文化研究センターが、採録や寄贈により収集した資料（「山田秀三文庫」「久保寺逸彦文庫」「職員採録資料」）のうち、公開の手続きを終えた音声・映像・文書・写真資料です。



アイヌ民族文化研究センター資料公開スペース



アイヌ民族文化研究センター資料視聴スペース

6 博物館ネットワーク

北海道内の中核的な博物館として、道内の博物館や資料館などとの連携をととして、北海道の自然・歴史・文化の活用を実践し、道内博物館全体の水準の向上や活力の強化するためのネットワークづくりを構築していくことで、地域の活性化に貢献することを目的とした事業や活動を展開しています。

博物館ネットワーク(北海道博物館協会など外部組織との連携)

北海道の中核的な博物館としての役割を果たすための取組の1つとして、博物館同士のネットワークをより強固なものとするため、北海道博物館協会、日本博物館協会等、各種博物館団体と連携した活動を行っています。

北海道博物館協会

昭和36(1961)年に発足した道内博物館のネットワークであり、125館園が加盟しています(令和2(2020)年3月末現在)。北海道博物館大会、ミュージアム・マネジメント研修会の開催、各種刊行物の発行などの事業を展開し、道内の博物館活動の振興発展に寄与することを目的としています。当館では、前身の開拓記念館が1981(昭和56)年度から事務局の運営を担うとともに、協会の活動に関わっています。

令和元(2019)年度は、第58回北海道博物館大会が7月17日、18日に北見市において開催され、ミュージアム・マネジメント研修会は9月9日、10日にだて歴史の杜カルチャーセンター(伊達市)において開催されました。

2019年度 北海道博物館協会関係

北海道博物館協会 会長	石森 秀三
北海道博物館協会 事務局長	小川 正人
北海道博物館協会 事務局次長	山田 伸一
北海道博物館協会 事務局員	山際 秀紀
北海道博物館協会 事務局員	舟山 直治
北海道博物館協会 事務局員	池田 貴夫
北海道博物館協会 事務局員	尾曲 香織
北海道博物館協会道央地区博物館連絡協議会 監事	小川 正人

第58回北海道博物館大会(概要)

主 催	北海道博物館協会、日本博物館協会北海道支部、北見市教育委員会
共 催	網走管内博物館連絡協議会
後 援	北海道教育委員会、公益財団法人日本博物館協会
大会内容	7月17日 北海道博物館協会総会、ポスターセッション、博物館大会、開会式、表彰式、特別報告、研究大会、閉会式 (会場:北見芸術文化ホール) ※研究大会テーマ「出会いと学びを通じた学芸員の資質向上の展開 〜レガシー事業の総括」 18日 エクスカーション Aコース「史跡常呂遺跡を巡る」:ところ遺跡の森 Bコース「近代建築を中心にみる北見市の文化財」 :北網圏北見文化センター(屯田兵屋)、ピアソン記念館、ハッカ記念館・ハッカ蒸溜館

日本博物館協会

当館は博物館の全国組織である公益財団法人日本博物館協会とも連携し、また、同協会北海道支部の支部長館ともなっており、全国規模の組織と道内の博物館をつなぐ役割を果たしています。

2019年度の日本博物館協会関係への職員の委嘱

公益財団法人日本博物館協会 参与	石森 秀三
日本博物館協会 北海道支部長	石森 秀三

全国歴史民俗系博物館協議会

当館は歴史・民俗系博物館の全国ネットワーク組織である全国歴史民俗系博物館協議会に加盟し、北海道ブロックの幹事館として、全国と道内博物館をつなぐ中継館としての役割を担っています。

令和元(2019)年度は、7月11日～12日に全国歴史民俗系博物館協議会令和元年度年次集会(第8回)が、北海道博物館ならびに北海道開拓の村を会場として開催されました。

全国歴史民俗系博物館協議会令和元年度年次集会(第8回)(概要)

主 催	全国歴史民俗系博物館協議会
共 催	北海道博物館

協 力	北海道開拓の村
後 援	北海道教育委員会、北海道博物館協会、北海道文化財保護協会
内 容	<p>7月11日 総会・研究集会(会場:北海道博物館 講堂)</p> <p>研究集会テーマ「歴史・文化の継承」</p> <p>報告1「北方少数民族資料館ジャッカ・ドフニのこれまでとこれから」 (北海道立北方民族博物館 笹倉いり美氏)</p> <p>報告2「稚内市における樺太の記録継承」 (稚内市教育委員会 齊藤譲一氏)</p> <p>報告3「積雪地域における歴史的建造物の保存と継承」 (余市水産博物館 浅野徹昭氏)</p> <p>報告4「アイヌ民族博物館におけるアイヌ語アーカイブについて」 (公益財団法人アイヌ民族文化財団 安田益徳氏)</p> <p>報告5「資料の保存・継承と地域の記憶」 (まちづくり文化研究所 塚田敏信氏)</p> <p>12日 見学会(会場:北海道開拓の村)</p>

その他

「博物館ネットワークによる未来へのレガシー継承・発信事業」への参画

この事業は、兵庫県立人と自然の博物館を事務局館とした自然史レガシー継承・発信実行委員会が、文部科学省の公募型委託事業である「博物館ネットワークによる未来へのネットワーク継承・発信事業」を受託したものです。全国の自然史系博物館をネットワーク化し、自然史資料の収蔵から活用までの意義について広く発信することを目的としています。

主な事業内容は、①収蔵庫の再構築をテーマとした事例や技術の集積と事例集の作成、②自然史資料の価値を幅広い層に発信するための実験的な展示の実践、③小規模館が地域資源を元にして作り上げた優れたコンテンツによる巡回展の開催といった、3つのパートからなっています。

当館は、平成28(2016)年度から参加館として参画しています。令和元(2019)年度には、京都・野口家住宅 花洛庵にて企画展「JAPAN COLOR Where culture meets nature～日本文化を育んだ自然～」(2019年8月30日～9月16日)を実施したほか、公開シンポジウム「Where Culture Meets Nature ～日本文化を育んだ自然」(2020年2月24日)を京都国立博物館にて開催しました。

自然史レガシー継承・発信実行委員会

実行委員会	①事業実施組織
	博物館名
	北海道博物館
	栃木県立博物館
	国立科学博物館
	三重県総合博物館
	琵琶湖博物館
	伊丹市昆虫館
	大阪市立自然史博物館
	きしわだ自然資料館
	橿原市昆虫館
	北九州市立自然史・歴史博物館
	②事業推進担当館
	博物館名
	兵庫県立人と自然の博物館

北のミュージアム活性化実行委員会

野幌森林公園内の各施設(北海道博物館、北海道開拓の村、野幌森林公園自然ふれあい交流館)では、互いの堅固なネットワークづくりを基盤に北海道の中核的な文化拠点としての役割を果たすため、「北のミュージアム活性化実行委員会」を組織し、事務局を北海道博物館内に置いています。北海道博物館協会等の協力も得ながら、道内博物館等施設全体の水準の向上や活力の強化、および地域の振興に寄与することを目的とした活動を行っています。

2019年度の実績

平成31年度「地域と共働した博物館創造活動支援事業(博物館を中核とした文化クラスター形成事業)」の交付を受け、北海道内の博物館園において、特に視覚障がいのある利用者の「知りたい」気持ちに応えられる博物館としてのあるべき姿を、視覚に障がいのある利用者による意見・視点を反映しながら模索する機会とするような取り組みを進めました。

この事業では、道内の視覚支援学校ならびに視覚障がい者支援団体等と連携・協働しながら、主に道内博物館関係者を対象とした、視覚障がい者に対応した博物館サービスを考える研修会「視覚障がい者に対応した博物館づくりにむけて」を実施しました。この研修会をとおして、視覚障がい者に対応するための設備・対応など様々な面での注意

2019年度北のミュージアム活性化実行委員会

役 員			
役 職	氏 名	所 属	
会長	石森 秀三	北海道博物館	館長
副会長	西 吉樹	一般財団法人北海道歴史文化財団	法人本部長
委員	堀 繁久	北海道博物館	学芸部博物館基盤グループ学芸主幹
委員	三浦 泰之	北海道博物館	学芸部道民サービスグループ学芸主幹
委員	水島 未記	北海道博物館	学芸部社会貢献グループ学芸主幹
委員	中島 宏一	一般財団法人北海道歴史文化財団	事業本部長
委員	松井 則彰	一般財団法人北海道歴史文化財団	営業本部長

事 務 局			
役 職	氏 名	所 属	
事務局長	池田 貴夫	北海道博物館	総務部企画グループ学芸主幹
事務局員	細川 健裕	一般財団法人北海道歴史文化財団	事業本部主幹
事務局員	東 俊佑	北海道博物館	総務部企画グループ学芸主査
事務局員	会田 理人	北海道博物館	総務部企画グループ学芸主査
事務局員	遠藤 志保	北海道博物館	総務部企画グループ研究職員
事務局員	徳本 彩	北海道博物館	総務部総括グループ主任

事項等を学ぶとともに、博物館関係者と利用者との交流ならびに意見交換の場となりました。

研修会「視覚障がいに対応した博物館づくりにむけて」

日 時	2月13日	参加者数	40名
場 所	北海道博物館 講堂		
共 催	北海道博物館、一般財団法人北海道歴史文化財団	協 力	北海道博物館協会
<p>博物館関係者をはじめとして、社会教育・生涯教育施設職員、教育関係者を主な対象として、博物館を利用する際にバリアとなっていることは何か、必要とされている対応や接遇など、視覚障がい者に対応した博物館サービスを考える研修会を実施しました。</p> <p>研修会プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基調講演「視覚障がい者に対して博物館ができること、博物館に望むこと」 講師：鳥山由子氏【元筑波大学教授（視覚障害教育）】 ・実技研修「視覚障がい者を迎えるうえでの介助方法や情報の伝え方」 講師：千明和紀氏、鳥羽晶幸氏【北海道札幌視覚支援学校教諭】 ・自由見学「さわれる博物館キット」 北海道博物館や北海道開拓の村で製作した体験教材の自由見学・体験 			



周辺施設とのネットワーク

かるちやる net

平成22（2010）年2月、野幌森林公園周辺の札幌市厚別区と江別市の文化施設が集まり、相互の協力・連携を密にするための協議会として「かるちやる net」（文化施設連絡協議会）が発足しました。参加施設は10施設で当館が事務局を担当し、各施設の広報・PR活動や体験イベントなどを共同で開催しています。事業の実施に際しては、各施設における活動に加え、平成21（2009）年12月に北海道とイオン北海道株式会社の間で締結された包括連携協定（道の教育・文化施設の広報活動への協力・協働事業の実施）を活用し、より広い層へのPRを行っています。

<参加施設>

- ・札幌市青少年科学館
- ・サンピアザ水族館
- ・江別市セラミックアートセンター
- ・江別市郷土資料館
- ・北海道立図書館
- ・北海道立教育研究所
- ・北海道立埋蔵文化財センター
- ・野幌森林公園自然ふれあい交流館
- ・北海道開拓の村
- ・北海道博物館

2019年度の実施内容

(1) 「てくてく、べったん！かるちやるスタンプラリー」

日 時	①2019年4月20日～5月12日(春休みバージョン)	参加者数	①2,958名(シート配布数)
	②2019年7月20日～8月25日(夏休みバージョン)		②5,754名(シート配布数)
場 所	北海道立教育研究所を除く9館		
かるちやる net 加盟館で専用のシートを配布し、そこに特製のスタンプを押すスタンプラリーを実施しました。5館分のスタンプを集めると記念品を贈呈し、9館すべての館のスタンプを集めると、さらに記念品をもう1つ贈呈しました。			

(2) 「発見・体験 文化の秋～遊ぼう！学ぼう！あつべつ・えべつ」

日 時	2019 年 11 月 24 日	参加者数	921 名
場 所	サンピアザ光の広場(札幌市厚別区厚別中央2条5丁目)		
かるちやる net 参加施設とその活動内容について、パネルや資料などの展示や体験イベントを通じて紹介しました。当館は「オリジナル缶バッジをつくろう」を出展しました。			

【ワークショップ】

- ・体験！ デジタル宇宙旅行、スライムをつくろう！（札幌市青少年科学館）
- ・カニ釣りであそぼう！（サンピアザ水族館）
- ・オリジナル缶バッジをつくろう！（北海道博物館）
- ・砂絵をつくろう！（北海道立埋蔵文化財センター）
- ・紙インボをつくろう！（北海道開拓の村）

【常設コーナー】

- ・昔あそび体験、毛皮タッチング体験（北海道博物館）
- ・大型絵本、仕掛け絵本、木育コーナー（北海道立図書館）
- ・土器パズル（江別市郷土館）
- ・陶芸体験のさわれる見本作品の展示（江別市セラミックアートセンター）
- ・クイズラリー



イベントの様子

(3) 共通行事予定チラシの作成・発行

かるちやる通信として、各施設の行事予定表をまとめたチラシを数ヶ月に1度発行しました。

タイトル		発行
かるちやる通信	2019年4～6月号	2019年4月
かるちやる通信	2019年7～9月号	2019年6月
かるちやる通信	2019年10～12月号	2019年9月
かるちやる通信	2020年1～3月号	2019年12月

(4) 商業施設でのPR活動の実施

サンピアザ光の広場とイオン札幌平岡店にチラシラックを設置し、各施設のリーフレットやチラシ等を配布しました。

CISE ネットワーク

CISE ネットワークは、北海道大学総合博物館を中心に、札幌周辺地域の博物館・科学館・動物園・図書館等の教育施設が連携し、実物科学教育を推進することを目的としてつくられたネットワークです。教育プログラム、教材の開発・活用、イベントの主催、他組織主催イベントへの出展等の活動を行っています。当館は平成27（2015）年4月に北海道博物館が総合博物館として開館したことにより、自然史系・科学系の博物館等との連携を深めるため、平成27（2015）年度に正式メンバーとして加わりました。

生物多様性さっぽろ活動拠点ネットワーク

札幌市内の環境関連施設のネットワークです。札幌市が、市内にある動物園・水族館などの環境関連施設を生物多様性に関する活動拠点として位置づけ、各施設間での情報共有や連携を進めることを目的として設立したネットワークです。当館は平成27（2015）年度から参画しました。

・「いきものつながりクイズラリー2019」

日 時	2019年7月27日～9月1日	参加者数	245名(のべ回答数)
生物多様性に関する理解の向上と、「生物多様性さっぽろ活動拠点ネットワーク」のPRを図るために夏休み期間を中心に実施したクイズラリーです。参加賞のプレゼントのほか、全問正解者には「さっぽろいきもの博士認定証」をプレゼントしました。当館も参加し、第5テーマ「生き物たちの北海道」付近にクイズを設置しました。			

外部イベントへの参画

サイエンスパーク

子どもたちが科学技術を身近に体験・学習する機会を提供し、豊かな北海道の未来を創る科学技術の振興を図ることを目的に、北海道と独立行政法人北海道総合研究機構の共催で開催され、民間企業等も参加しているイベントです。当館の前身である北海道開拓記念館と北海道立アイヌ民族文化研究センターは毎年この事業に参画してきました。北海道博物館としても、この取組を引き継ぎ、体験活動を通じた北海道の自然・歴史・文化に関する知識の普及や事業のPR活動を行っています。

・サイエンスパーク2019

主 催	北海道、地方独立行政法人北海道総合研究機構
日 時	2019年7月30日
参加者数	336名
場 所	札幌駅前地下歩行空間
当館は、アンモナイトや貝殻のレプリカストラップ作りを体験してもらう「みんなで作ろう！レプリカストラップ」のブースを設置して、このイベントに参加しました。	



サイエンスパークの様子

カルチャーナイト

札幌市内の文化施設を夜間開放し、市民が地域の文化を楽しむイベントです。当館では、北海道の自然・歴史・文化に親しんでもらうことを目的に、赤れんが庁舎内「北海道博物館赤れんがサテライト」の夜間開放と解説活動を実施しました。

主 催	認定NPO 法人カルチャーナイト北海道(カルチャーナイト実行委員会)
日 時	2019年7月19日
参加者数	131名
場 所	北海道庁旧本庁舎(赤れんが庁舎)
「北海道博物館赤れんがサテライト」の夜間開放を実施しました。	



カルチャーナイトの様子

教員のための博物館の日 in 札幌

「教員のための博物館の日」は、国立科学博物館により始められた事業で、地域の学校の教員などに博物館利用のメリットや可能性を伝える事業です。

共 催	一般財団法人北海道歴史文化財団、道央地区博物館等連絡協議会、独立行政法人国立科学博物館、公益財団法人日本博物館協会
後 援	文部科学省、北海道教育委員会、札幌市教育委員会、北海道博物館協会
日 時	2019年8月2日
参加者数	67名(北海道内の学校教職員)
場 所	北海道博物館、北海道開拓の村
研修内容	研修1「北海道開拓の村の展示内容や利用方法」 研修2「北海道博物館の展示内容や利用方法」 研修3「北海道開拓の村 村内展示解説ツアー」 研修4「北海道博物館 総合展示室解説ツアー」



教員のための博物館の日 in 札幌の様子

7 地域交流・社会貢献

道民や市民団体等が学びの場、または学びの発表の場として博物館を活用する取組や、さまざまな博物館事業に参画しながら、主体的に活動する事業などを展開しています。

また、北海道とそれを取り巻く地域の自然・歴史・文化を学際的に調査研究する総合博物館として、研究成果を活かして広く社会に貢献するとともに、北海道の豊かな未来の実現にも貢献していくため、外部団体などの研修協力や各種委員の派遣などを行っています。

道民参加型組織

北海道開拓記念館では、来館者により良く利用していただくために、さまざまなアイディアや意見をお寄せいただくことを目的として、平成 17（2005）年度から「ミュージアム・メイト」制度を導入し（任期 2 年）、平成 26（2014）年度まで実施してきました。

北海道博物館の開設とともに、「ミュージアム・メイト」制度は終了しましたが、道民が博物館活動に参加していくあり方について継続して検討しており、平成 30（2018）年度には、組織の創設への試行的な取組として、当館の図書室における「図書室支援員制度」を実施しました。この制度は令和元（2019）年度も継続して実施しています。

図書室支援員制度

平成 30（2018）年 6 月から始めた、当館の図書室で蔵書の整理等をお手伝いいただくボランティア制度です。今年度は、2 名の「支援員」の方に、週 1 回程度の支援をいただきました。なお、平成 31（2019）年 4 月現在、支援員の新たな公募等は行っておりません。

道民協働・発信事業の展開

道民が発信者として博物館活動に参画する機会の 1 つとして、当館の展示の一部を道民や各種団体などと協働で作成する取組を進めています。

道民参加型展示コーナー

道民参加型事業の導入に向けて、北海道の自然・歴史・文化を題材として活動している団体や研究会が所蔵する資料を展示するコーナーを、当館の中 2 階にある休憩ラウンジ内に設置しています。

団 体 名	北海道化石会
資 料	アンモナイト化石 28 点(北海道化石会所蔵)
期 間	平成 28 年(2016)1 月 29 日～令和 2(2020)年 3 月 31 日(継続中)

今とこれからを創る

総合展示室 2 階にある第 4 テーマでは、北海道に住む同時代を生きる人々が各地で直面している課題に取り組み、北海道の現在と未来を創りつつある状況を伝えることを目的に、その活動を行っている人に主体的に展示に関わっていただくコーナーを設けています。

2019 年度の実施内容

展 示 内 容	執 筆 ・ 協 力 者	
食とおして人をつなぐ	harapeco 委員会 赤坂若菜・佐々木理恵・みやちゆか（文責）	2019 年 6 月 7 日～ 2020 年 3 月 31 日
絶滅危惧種シマフクロウの繁殖を 市民の目で見守る	北海学園大学工学部 早矢仕有子氏（執筆）	2019 年 8 月 23 日～ 2020 年 3 月 31 日
アイヌ文化の保存と伝承のために	白糠アイヌ文化保存会 磯部恵津子氏、 白糠町教育委員会社会教育係 竹ヶ原浩司氏（執筆）	2019 年 4 月 1 日～ 2020 年 3 月 31 日※

※ 2018 年度から継続。

他機関等との協力・連携

(1) 市民・他団体との連携

2019年度の市民・他団体との連携(15件)

種別	事業名	主催者・団体等	開催日	会場
協力(参加)	三笠ジオパーク推進協議会定期総会	三笠ジオパーク推進協議会	4月22日	三笠市役所
協力	あつべつ区民協議会 第8期	あつべつ区民協議会		
協力(参加)	「北海道はゴールデンカムイを応援しています。」 スタンプラリー2	公益社団法人 北海道観光振興機構	4月27日～3月31日	北海道博物館
共催	「地質の日」記念展「失われた川を尋ねて『水の都』札幌」	「地質の日」記念展実行委員会・北海道大学総合博物館	4月27日～6月16日	北海道大学総合博物館
協力	ハワイ大学主催ワークショップ	ハワイ大学	6月3日～4日	北海道博物館
共催	全国歴史民俗系博物館協議会令和元年度年次集会(第8回)	全国歴史民俗系博物館協議会	7月11日	北海道博物館
共催・協力	北海道博物館特別展開連セミナー『アイヌ語地名と北海道一地名をとおして北海道を見つめなおすー』	北海学園大学 地域連携推進機構	7月22日	北海学園大学豊平キャンパス
協力	エゾシカフェスタ 2019in 札幌	一般社団法人北海道消費者協会	9月29日	北海道大学学術交流会館
協力	平取町立二風谷アイヌ文化博物館第25回特別展	平取町立二風谷アイヌ文化博物館	10月1日～12月1日	平取町立二風谷アイヌ文化博物館
共催	野幌シカセミナー	石狩振興局保健環境部	11月10日、11月30日、12月7日、12月15日	野幌森林公園自然ふれあい交流館
共催	エゾシカスタンプラリー	一般社団法人エゾシカ協会	11月15日～12月15日	北海道博物館及び参加店
協力(参加)	北海道スマホスタンプラリー	NEXCO 東日本北海道支社	12月6日～4月6日	北海道博物館
協力	「北海道のアイヌ語地名」展	苫小牧市中央図書館	12月28日～2月27日	苫小牧市中央図書館
名義後援・協力	第16回企画テーマ展「北海道神宮」PR企画	札幌国際観光株式会社 センチュリーロイヤルホテル	2月1日～2月29日	センチュリーロイヤルホテル
共催	研修会「視覚障がいに対応した博物館づくりにむけて」	北のミュージアム活性化実行委員会	2月13日	北海道博物館

(2) 学会及び研究会との交流

2019年度の学会や研究会との交流(1件)

種別	事業名	団体等	開催日	会場
主催	研修会「ニホンシカの骨学実習」	北海道自然史研究会、北海道博物館協会学会職員部会等	12月7日～8日	北海道博物館

(3) 国・都道府県・市町村等との連携

2019年度の都道府県・市町村との連携(3件)

種別	市町村名	事業名	主催団体等	開催日	会場
共催	幕別町	忠類ナウマンゾウ化石発見 50 周年記念事業	幕別町教育委員会	6月～11月	忠類ナウマン象記念館ほか

協力	江別市	江別市リアル謎解きゲーム事業～え べチュンクエスト	江別市	7月19日～9月24日	—
協力	北海道	北海道の歴史文化発信事業(北海道 先人カードの作成・配付)	総合政策部総務課	11月11日～2月24日	北海道博物館

(4) 外部団体等の研修への協力

2019年度の外部団体への研修協力(2件)

種別	事業名	主催者	対応者	実施日	場所
研修	令和元年度初任段階教員研修・3年次研修	北海道教育委員会(北海道教育庁石狩教育局教育支援課)	社会貢献グループ	2019年7月31日～8月2日	北海道博物館
協力	令和元年度第2回生物多様性さっぽろ活動拠点ネットワークバスツアー	生物多様性さっぽろ活動拠点ネットワーク(札幌市)	水島末記	11月2日	北海道博物館

当館職員が委嘱を受けた各種委員等

(1) 各種委員等

2019年度の各種委員への就任(29件)

所属研究グループ	氏名	委嘱内容等	期間
研究部長	右代啓視	江別市文化財保護委員会 委員	2018年8月1日～2020年7月31日
		開拓の村旧寮舎展示企画委員会 委員	2019年4月1日～2020年3月31日
		標津町文化財保存活用検討委員会 委員	2019年7月24日～2021年3月31日
		人間文化研究センター地域研究推進評議会 委員	2019年4月～7月
		(ほか、1件(審査員))	
自然研究グループ	水島末記	公益財団法人北海道新聞野生生物基金 評議員	2018年6月8日～2022年6月
	園谷昂史	ジオ・フェスティバル in Sapporo 実行委員 委員	2019年10月5日～2020年3月31日
歴史研究グループ	三浦泰之	石狩市文化財保護審議会 委員	2018年5月1日～2020年4月30日
生活文化研究グループ	会田理人	別府町史跡旧奥行白馬通所整備検討委員会 委員	2018年4月26日～2020年3月31日
		開拓の村旧寮舎展示企画委員会委員	2019年4月1日～2020年3月31日
	舟山直治	小樽市文化財審議会 委員	2019年11月5日～2021年10月31日
		文化庁文化財部調査員	2019年7月1日～2020年3月31日
博物館研究グループ	堀 繁久	北海道スーパーサイエンスハイスクール運営指導委員会委員	2017年7月5日～2020年3月31日
		野幌自然環境モニタリング検討会 委員	2019年4月25日～2020年3月31日
		北海道新幹線(新青森・札幌間)環境影響評価 事後調査 アドバイザー	2019年4月17日～2020年3月31日
		北海道希少野生動植物種保護対策検討有識者会議 昆虫専門部会構成員	2019年4月25日～2019年3月31日
アイヌ民族文化研究センター・アイヌ文化研究グループ	小川正人	国立アイヌ民族博物館ネットワーク準備会委員	2018年5月10日～2020年3月31日
		「北海道史編さん委員会」専門委員	2018年6月8日～2020年6月8日
		北海道立北方民族博物館研究協力員	2018年7月24日～2022年3月31日
		国立アイヌ民族博物館 展示監修委員	2019年7月4日～2020年2月29日
		平成31年度危機的な状況にある言語・方言に関する研究協議会 委員	2019年7月4日～2020年3月31日
		国立アイヌ民族博物館 展示検討委員会	2019年8月9日～2020年3月31日

デジタル・北海道アートミュージアム(仮称)構築に関する検討会
議 構成員

ほか1件(審査員)

甲地利恵	北海道立北方民族博物館研究協力員	2018年7月24日～2022年3月31日
大坂 拓	国立アイヌ民族博物館 展示監修委員	2019年7月4日～2020年2月29日
	国立アイヌ民族博物館 展示検討委員会	2019年8月9日～2020年3月31日
	上ノ国町町史編さん 編集委員	2019年12月25日～2023年3月31日
	令和元年度アイヌ工芸品展中長期計画策定委員会委員	

(2) 非常勤講師

2019年度の非常勤講師への就任(9件)

所属研究グループ	委嘱者	大学名	講義内容	期間
研究部長	右代 啓 視	北海道教育大学札幌校	考古学(前期)	2019年4月1日～2019年9月30日
自然研究グループ	添 田 雄 二	北海道教育大学岩見沢校	自然科学入門Ⅰ	2019年4月8日～2019年9月30日
歴史研究グループ	三 浦 泰 之	札幌大学	博物館展示論	2019年4月5日～2019年9月11日
	東 俊 佑	北海学園大学	博物館教育論	2019年9月19日～2020年3月18日
生活文化研究グループ	池 田 貴 夫	札幌市立大学大学院	寒冷地生活支援看護学特論	2019年4月1日～2020年3月31日
		北海学園大学	博物館実習Ⅲ(前期)	2019年4月1日～2020年9月30日
	舟 山 直 治	札幌学院大学	民俗学A	2019年4月1日～2019年9月30日
			民俗学B	2019年9月21日～2020年3月31日
		北海道の文化	北翔大学	2019年9月26日～2020年3月31日

(3) その他、学芸職員への学術的な協力依頼(専門的な知見や情報の提供等)

2019年度の学術的な協力(22件)

氏名	種別	協力内容	事業名	依頼先	期間
右代啓視	同行者	択捉島の標柱周辺等の 簡易な確認調査	令和元年度北方墓参(第2班)	総務部北方領土対策本部	7月17日～7月20日
右代啓視	ナビゲーター	ナビゲーターとして同行	縄文遺跡群ツアー(①小樽・余市の環状列石と岩壁刻画 ②根室の遺跡)	北海道・北東北の縄文遺跡群の世界遺産登録をめざす道民会議	(1)8月3日、(2)9月14日～15日
右代啓視	同行者、共同調査	現地調査同行	北方四島在住歴史文化専門家の北海道招へい	外務省欧州局ロシア課	10月3日～10月8日
右代啓視	協力	現地調査指導	枝幸町歌登パンケナイ遺跡認定調査	枝幸町教育委員会	10月25日～28日

【自然研究グループ(7件)】

氏名	種別	協力内容	事業名	依頼先	期間
添田雄二	指導助言	標本の展示及び発掘調査に伴う指導・助言	忠類ナウマン象化石骨発見50周年記念事業	幕別町教育委員会	5月16日～17日
添田雄二	指導助言	特別展の設営、ナウマン象足跡化石調査等	忠類ナウマンゾウ化石発見50周年記念事業	幕別町教育委員会	9月30日～11月5日
圓谷昂史	指導助言	展示への貸出と展示助言	平成31(2019)年度札幌市環境プラザ 特集コーナー	(公財)さっぽろ青少年女性活動協会	7月9日～8月28日
圓谷昂史	指導助言	化石資料の提供、技術指導及び助言	「北広島市の第四系貝化石を用いた教材化	北海道教育大学札幌校	10月～3月
圓谷昂史	協力	借用資料の調査、図録等の執筆や写真撮影、会議への出席など	「北海道恐竜展(仮称)」	北海道新聞社	10月16日～3月31日

圓谷昂史	指導助言	北海道の漂着物と「海洋ごみ」について指導・助言	北“海”道530プロジェクト大作戦！実行委員会	北“海”道530プロジェクト大作戦！実行委員会	5月8日～12月31日
表 溪太	指導助言	会議への出席及び指導・助言	北海道湿地フォーラム実行委員会	日本湿地学会 北海道 湿地コンソーシアム	11月8日

【歴史研究グループ(4件)】

氏名	種別	協力内容	事業名	依頼先	期間
三浦泰之	指導助言	歴史的資料整理及び資料撮影の指導助言	令和元年度第1回橋本家古文書整理調査	寿都町教育委員会	7月25日～26日
鈴木琢也	ナビゲーター	ナビゲーターとして同行	縄文遺跡群ツアー（①釧路の縄文を学ぶ、②深川・旭川の縄文遺跡を観る）	北海道・北東北の縄文遺跡群の世界遺産登録をめざす道民会議	(1)8月24日～25日、(2)9月21日
鈴木琢也	同行者	同行・助言	北方四島からの歴史文化専門家受入れ	外務省欧州局ロシア課長	10月3日～8日
東 俊佑	同行者	択捉島の標柱周辺等の簡易な確認調査	令和元年度北方墓参（第2班）	総務部北方領土対策本部	7月17日～20日

【博物館研究グループ(3件)】

氏名	種別	協力内容	事業名	依頼先	期間
堀 繁 久	指導助言	協力・助言	経常研究「生物多様性からみた農村地域における自然環境の現状と評価に関する研究」	北海道立総合研究機構 環境・地質研究本部 環境科学研究センター	7月10日～2022年3月31日
堀 繁 久	指導助言	プロジェクトへの協力	「みんなが学校」プロジェクト	みんなが学校 実行委員会	8月4日
鈴木明世 村上孝一	指導助言	社会科副読本編集に係る助言等	北広島市社会科副読本編集	北広島市教育委員会	8月中旬～9月下旬

【アイヌ民族文化研究センター・アイヌ文化研究グループ(4件)】

氏名	種別	協力内容	事業名	依頼先	期間
小川正人	指導助言	社会科副読本編集に係る助言等	北広島市社会科副読本編集	北広島市教育委員会	8月中旬～9月下旬
小川正人	意見交換	検討会議への出席及び意見交換	第1回デジタル・北海道アートミュージアム構築に関する検討会議	環境生活部文化局長	11月22日
小川正人	指導助言	社会科副読本編集に係る助言等	江別市社会科副読本編集	江別市教育委員会	11月29日～12月
小川正人	指導助言	会議への出席及び指導・助言	総合展示第5室・第6室リニューアル委員会「アイヌ」展示に係る会議	大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館	2月2日

8 広報

当館の役割や事業、調査研究の成果や資料情報などを知っていただくため、マスメディアや印刷物、インターネットなどを活用した広報活動を行っています。そうした広報活動には、当館を利用するすべての人が自らの興味や関心によって楽しみながら学べるための支援や、道民や一般企業などによる各種事業への参画や協働を促進し、地域に支えられる博物館づくりの裾野を広げていくという側面もあります。

報道機関等への対応

新聞

新聞への掲載実績は、2019年度は195件でした。

特別展の開催にあたって展示内容を紹介する記事が掲載されたほか、イベントに関する情報が地元情報誌の「まんまる新聞」に定期的に掲載されるなどしました。

雑誌

雑誌への掲載実績は、2019年度は14件でした。

当館の施設紹介記事のほか、特別展および企画テーマ展の開催にあたって展示内容を紹介する記事が掲載されました。

テレビ

テレビでの報道実績は、2019年度は16件でした。

6月から9月にかけて開催した第5回特別展「アイヌ語地名と北海道」の期間中に、報道や番組放送で取り上げられました。

ラジオ

ラジオでの報道実績は、2019年度は6件でした。

特別展および企画テーマ展の内容の紹介として、当館の職員が出演して話をする放送がありました。

その他

その他、2019年度には北海道の観光案内本などの単行本への掲載が9件、webサイトへの掲載が60件、その他デジタルサイネージなどが4件ありました。

学術的な情報や知見の提供

2019年度の学術的な情報や知見の提供(84件)

【研究部長(27件)】

対応者	タイトル／内容	出典／番組名	社名等	種別
右代啓視	北方領土の遺跡 保全訴え「日露両国は協力を」	毎日新聞 2019年4月5日 朝刊	毎日新聞社	協力
右代啓視	時を訪ねて 洞窟絵画の発見 文字が刻画の	北海道新聞 2019年5月5日 朝刊	北海道新聞社	協力
右代啓視	ビザなし第2陣色丹に向け出発・歴史文化専門家は国後へ	根室新聞 2019年5月24日	根室新聞社	協力
右代啓視	国後 堅穴住居跡 100軒	北海道新聞 2019年5月28日 朝刊	北海道新聞社	協力
右代啓視	国後に100軒の堅穴住居跡	毎日新聞 2019年5月28日 朝刊	毎日新聞社	協力
右代啓視	縄文期の遺跡 国後で多数発見	朝日新聞 2019年5月28日 朝刊	朝日新聞社	協力
右代啓視	縄文の堅穴住居跡	読売新聞 2019年5月28日 朝刊	読売新聞社	協力
右代啓視	国後島に堅穴住居群	根室新聞 2019年5月28日 朝刊	根室新聞社	協力
右代啓視	2300年前の堅穴住居址確認	釧路新聞 2019年5月28日 朝刊	釧路新聞社	協力
右代啓視	国後島に堅穴住居跡 100軒 学術交流訪問団が発見	高知新聞 2019年5月28日 朝刊	高知新聞社	協力

右代啓視	国後島 100 軒の堅穴住居跡の調査成果	NHK ニュース 2019 年 6 月 6 日	NHK 札幌放送局	協力
右代啓視	チャン跡五つ 国後島南部に 学術訪問団 5 月に発見	北海道新聞 2019 年 7 月 1 日 朝刊	北海道新聞社	協力
右代啓視	松前藩士らの墓 択捉島に	北海道新聞 2019 年 7 月 20 日 朝刊	北海道新聞社	協力
右代啓視	ロシア側訪問団が帰島 本年度ビザなし渡航終了	北海道新聞 2019 年 10 月 9 日 朝刊	北海道新聞社	協力
右代啓視	北方四島の代表団ビザなし観光期待 今年度の交流事業終了	朝日新聞 2019 年 10 月 9 日 朝刊	朝日新聞社	協力
右代啓視	ロ側訪問団交流終え帰島 専門家ら博物館調査	釧路新聞 2019 年 10 月 9 日 朝刊	釧路新聞社	協力
右代啓視	ロ側専門家 北の縄文・博物館調査	根室新聞 2019 年 10 月 9 日 朝刊	根室新聞社	協力
右代啓視	訪問団が帰港 今年度は終了	毎日新聞 2019 年 10 月 9 日 朝刊	毎日新聞社	協力
右代啓視	露専門家 縄文遺跡を視察 ビザなし交流三内丸山など	読売新聞 2019 年 10 月 11 日 朝刊	読売新聞社	協力
右代啓視	四島専門家交流の成果報告	根室新聞 2019 年 10 月 31 日 朝刊	根室新聞社	協力
右代啓視	ダイヤモンド	根室新聞 2019 年 11 月 7 日 朝刊	根室新聞社	協力
右代啓視	北方四島研究の成果報告	毎日新聞 2019 年 11 月 9 日 朝刊	毎日新聞社	協力
右代啓視	北方四島 根室でシンポ専門家らが指摘 津波の観測体制不十分	読売新聞 2019 年 11 月 10 日 朝刊	読売新聞社	協力
右代啓視	北方四島研究者調査の障壁指摘 専門家交流シンポ	毎日新聞 2019 年 11 月 10 日 朝刊	毎日新聞社	協力
右代啓視	四島専門家交流 シンポジウム成果と課題議論	根室新聞 2019 年 11 月 12 日 朝刊	根室新聞社	協力
右代啓視	植物や津波 四島の現状報告	北海道新聞 2019 年 11 月 12 日 朝刊	北海道新聞社	協力
右代啓視	地域経済に大きな打撃 四島専門家交流に活動拠点を	根室新聞 2019 年 11 月 18 日 朝刊	北海道新聞社	協力

【自然研究グループ(7 件)】

対応者	タイトル／内容	出典／番組名	社名等	種別
添田雄二	12 万年と 50 年 ナウマンゾウ再発掘① 人、地域 化石が変えた	北海道新聞 2019 年 12 月 10 日 朝刊	北海道新聞社	協力
添田雄二	12 万年と 50 年 ナウマンゾウ再発掘② 学術的価値 さらに高	北海道新聞 2019 年 12 月 11 日 朝刊	北海道新聞社	協力
添田雄二	12 万年と 50 年 ナウマンゾウ再発掘③ 記憶と思い、次代に継承	北海道新聞 2019 年 12 月 12 日 朝刊	北海道新聞社	協力
添田雄二	足跡はナウマンゾウ 忠類で昨年発見 12 万年前の成獣	十勝毎日新聞 2020 年 1 月 23 日	十勝毎日新聞社	協力
添田雄二	くぼみはナウマンゾウ足跡 忠類幕野町教委が分析結果発表	北海道新聞 2020 年 1 月 24 日 朝刊	北海道新聞社	協力
表 溪太	北の文化 エゾシカと雪と森 絶滅寸前から回復 今はお過多	朝日新聞 2019 年 11 月 9 日	朝日新聞社	寄稿
表 溪太	コラムリレー 06 第 25 回 鳥の目? カイトフォト	北海道博物館協会学芸職員部会ホームページ	北海道博物館協会学芸職員部会	寄稿

【歴史研究グループ(18 件)】

対応者	タイトル／内容	出典／番組名	社名等	種別
三浦泰之	北海道命名記念に作られた地図	ほっとニュース北海道 2019 年 6 月 6 日	NHK 札幌放送局	出演
三浦泰之	北海道命名記念に作られた地図	北海道 NEWS WEB 2019 年 6 月 6 日	NHK 札幌放送局	出演
三浦泰之	活気あふれる戦前の森町 昭和 10 年代の 8 ミリ映像から	北海道新聞どうしん電子版 2019 年 10 月 8 日	北海道新聞社	出演
三浦泰之	コラムリレー 06 第 19 回 旅お道連れ? 古文書調査のお供に……	北海道博物館協会学芸職員部会ホームページ	北海道博物館協会学芸職員部会	寄稿
山田伸一	エゾシカと開拓使文書	北海道新聞 2019 年 11 月 20 日 夕刊	北海道新聞社	寄稿
鈴木琢也	国後 堅穴住居跡 100 軒	北海道新聞 2019 年 5 月 28 日 朝刊	北海道新聞社	協力
鈴木琢也	国後に 100 軒の堅穴住居跡	毎日新聞 2019 年 5 月 28 日 朝刊	毎日新聞社	協力
鈴木琢也	続縄文期の遺跡 国後で多数発見	朝日新聞 2019 年 5 月 28 日 朝刊	朝日新聞社	協力
鈴木琢也	続縄文の堅穴住居跡	読売新聞 2019 年 5 月 28 日 朝刊	読売新聞社	協力
鈴木琢也	国後島に堅穴住居群	根室新聞 2019 年 5 月 28 日 朝刊	根室新聞社	協力
鈴木琢也	2300 年前の堅穴住居址確認	釧路新聞 2019 年 5 月 28 日 朝刊	釧路新聞社	協力
鈴木琢也	四島専門家交流の成果報告	根室新聞 2019 年 10 月 31 日 朝刊	根室新聞社	協力
鈴木琢也	北方四島研究の成果報告	毎日新聞 2019 年 11 月 9 日 朝刊	毎日新聞社	協力
鈴木琢也	北方四島研究者調査の障壁指摘 専門家交流シンポ	毎日新聞 2019 年 11 月 10 日 朝刊	毎日新聞社	協力
鈴木琢也	植物や津波 四島の現状報告	北海道新聞 2019 年 11 月 12 日 朝刊	北海道新聞社	協力
鈴木琢也	四島専門家交流 シンポジウム成果と課題議論	根室新聞 2019 年 11 月 12 日 朝刊	根室新聞社	協力

鈴木琢也	コラムリレー06 第30回 持ち運びに便利 携帯用ストロボ撮影セット	北海道博物館協会学芸職員部会ホームページ	北海道博物館協会学芸職員部会	寄稿
東俊佑	アイヌ語地名と北海道 ④地名をしるす 秦 穂丸 内陸も歩き詳細に探 録	北海道新聞 2019年8月15日 夕刊	北海道新聞社	寄稿

【生活文化研究グループ(9件)】

対応者	タイトル／内容	出典／番組名	社名等	種別
池田貴夫	「北海道はっけん伝」〜ルークシュポールを探せ！〜	北海道はっけん伝 2019年7月14日放送	AIR-G FM 北海道	出演
池田貴夫	北の文化 地名と私たち	朝日新聞 2019年9月14日 朝刊	朝日新聞社	寄稿
会田理人	あの大桶はどこに？(上・中・下)	北海道新聞 2019年11月17・18・19日 朝刊	北海道新聞社	協力
会田理人	父と共に作った大おけと「再会」	信濃毎日新聞 2019年12月4日 朝刊	信濃毎日新聞社	協力
会田理人	北の事始め55 ニシン漁	北海道新聞 2020年3月26日 朝刊	北海道新聞社	協力
青柳あつら	知恵文小 河川と災害について学ぶ 北海道博物館協力で理科授業	名寄新聞 2019年11月9日	名寄新聞社	協力
青柳あつら	水害の記憶語り合う 智恵文でまちづくり学習会	名寄新聞 2019年11月9日	名寄新聞社	協力
青柳あつら	智恵文の歴史掘り起こす 北海道博物館と老人クラブ 協働で地域学習 会 児童にも歴史、知恵伝承	北都新聞 2019年11月9日	北都新聞社	協力
尾曲香織	イチオシ!! 特命係「北海道の結婚式はなぜ会費制なのか？」	情報生番組 イチオシ! 2019年6月4日放送	北海道テレビ株式会社	出演

【博物館研究グループ(8件)】

対応者	タイトル／内容	出典／番組名	社名等	種別
堀繁久	北の虫から⑩ トノネオオワタムシ(雪虫)	北海道新聞 2019年10月23日 夕刊	北海道新聞社	寄稿
堀繁久	北の虫から⑪ オオムラサキの越冬幼虫	北海道新聞 2019年11月27日 夕刊	北海道新聞社	寄稿
堀繁久	北の虫から⑫ クワカミキリ	北海道新聞 2019年12月25日 夕刊	北海道新聞社	寄稿
堀繁久	北の虫から⑬ ブラタナスグンバイ	北海道新聞 2020年1月22日 夕刊	北海道新聞社	寄稿
堀繁久	北の虫から⑭ カギシロスジアオシヤクの幼虫	北海道新聞 2020年2月26日 夕刊	北海道新聞社	寄稿
堀繁久	北の虫から⑮ インゲンマメゾウムシ	北海道新聞 2020年3月26日 夕刊	北海道新聞社	寄稿
杉山智昭	アイヌ民具 CTで解析 北海道博物館 矢筒や小刀、漆器など30点	北海道新聞 2019年4月19日 朝刊	北海道新聞社	協力
鈴木あすみ	コラムリレー06 第37回 耳かき？ じゃありません	北海道博物館協会学芸職員部会ホームページ	北海道博物館協会学芸職員部会	寄稿

【アイヌ民族文化研究センター・アイヌ文化研究グループ(15件)】

対応者	タイトル／内容	出典／番組名	社名等	種別
小川正人	アイヌ語地名と北海道 ⑤地名をあくる 山田秀三 調査、考察重ね歴史 探る	北海道新聞 2019年8月14日 夕刊	北海道新聞社	寄稿
甲地利恵	聞かせて！プロフェッショナル「大好きな音楽の学びを仕事に活かして」	キャリチル7月号	株式会社アパコム	協力
甲地利恵	「歴史的音源」で聞けるアイヌの芸能について	歴史的音源(国会国会図書館ウェブサイト内) 2020年1月14日掲載	国立国会図書館	寄稿
大坂拓	アンカン ル ピリカ アイヌの美 捕鯨用の鉾先	朝日新聞 2019年9月4日 夕刊	朝日新聞社	寄稿
大坂拓	アンカン ル ピリカ アイヌの美 樹皮衣	朝日新聞 2019年9月11日 夕刊	朝日新聞社	寄稿
大坂拓	アンカン ル ピリカ アイヌの美 葬送儀礼用の紐	朝日新聞 2019年9月18日 夕刊	朝日新聞社	寄稿
大坂拓	アンカン ル ピリカ アイヌの美 儀礼用の冠	朝日新聞 2019年9月25日 夕刊	朝日新聞社	寄稿
大坂拓	アンカン ル ピリカ アイヌの美 木のクジラ	朝日新聞 2019年12月5日 夕刊	朝日新聞社	寄稿
大坂拓	アンカン ル ピリカ アイヌの美 キツネ神の舟	朝日新聞 2019年12月11日 夕刊	朝日新聞社	寄稿
大坂拓	アンカン ル ピリカ アイヌの美 脚絆	朝日新聞 2019年12月18日 夕刊	朝日新聞社	寄稿
大坂拓	アンカン ル ピリカ アイヌの美 死後の世界に携える鞆	朝日新聞 2019年12月25日 夕刊	朝日新聞社	寄稿

大坂拓	アンカン ル ビリカ アイヌの美 サクリ・セトウル	朝日新聞 2020 年 2 月 5 日 夕刊	朝日新聞社	寄稿
大坂拓	アンカン ル ビリカ アイヌの美 樹皮衣	朝日新聞 2020 年 2 月 12 日 夕刊	朝日新聞社	寄稿
大坂拓	アンカン ル ビリカ アイヌの美 前掛け	朝日新聞 2020 年 2 月 19 日 夕刊	朝日新聞社	寄稿
大坂拓	アンカン ル ビリカ アイヌの美 手直しされた着物	朝日新聞 2020 年 2 月 26 日 夕刊	朝日新聞社	寄稿

広報誌の発行(森のちゃれんがニュース)

講演会や講座などの各種普及行事、展示会、館の動きなどの活動全般を定期的に発信することを目的に、年4回『森のちゃれんがニュース』を発行しています。道内外の博物館や教育機関、公共施設、研究機関などに送付しているほか、館内に配置して、来館者が自由に持ち帰ることができるようにしています。

2019年度の森のちゃれんがニュース

巻号	発行日	内 容	執 筆 等
16号	2019年6月25日	 第14回企画テーマ展『北の手仕事2019』を開催(2019年4月27日～6月9日) 収蔵資料紹介「明治から昭和にかけての『布地帳』に収められた銘仙について」 総合展示室の資料紹介／第2テーマ「映像資料『鍋沢キリさんが歌うヤイサマ』」 研究活動紹介「忠類ナウマンゾウ発見地点の再・再発掘調査を行います」 トピックス「はっけん広場 春の活動報告」 トピックス「地名をとらえて北海道を見つめ直すー第5回特別展『アイヌ語地名と北海道』のご案内」 アイヌ民族文化研究センターだより『北の手仕事展』の思い出 活動ダイアリー／人事異動／来館者数	鈴木明世 舟山直治 甲地利恵 添田雄二 田中祐未 展示構成チーム 津田命子氏 ー
17号	2019年9月25日	 第5回特別展『アイヌ語地名と北海道』を開催(2019年7月6日～9月23日) 収蔵資料紹介「アイヌ民族の『耳飾り(ニンカリ)』について」 展示イベント予告「百聞は一見にしかず! 企画テーマ展『エゾシカ』を開催します」 研究活動紹介「高齢者と博物館の協働で地域学習コンテンツを開発します」 はっけん広場「夏の活動報告 初夏のイベント、大作戦の結果は?」 アイヌ民族文化研究センターだより「2019年度の『アイヌ文化巡回展』を白老町と新ひだか町で開催しました」 トピックス「博物館にカバ・ハカが響いた春 ニュージールランドマオリ芸術工芸学校/テプイア主催『Tuku lho 受け継がれるレガシー』が開催されました」 活躍ダイアリー／来館者数	鈴木明世 亀丸由紀子 水島未記 青柳かつら 越田雅子 小川正人 小川正人 ー
18号	2019年12月31日	 第15回企画テーマ展『エゾシカ』を開催(2019年10月12日～12月15日) 収蔵資料紹介「野幌丘陵から新たに発見した貝化石」 総合展示室の資料紹介・第4テーマ「リンリン♪ 黒電話」 研究活動紹介「サハリンに残る『樺太』を探して」 トピックス「つくって鳴らそうシカ笛♪ 開催!」 トピックス「忠類ナウマン象化石骨発見50周年記念事業を終えて」 アイヌ民族文化研究センターだより「特別展『アイヌ語地名と北海道』関連パネル展示『アイヌ語地名研究者・山田秀三とたどる 村の建物ゆかりの地名』を開催しました」 活動ダイアリー／人事異動／来館者数	鈴木明世 園谷昂史 会田理人 鈴木明世 麻生典子 鎌田浩氏 遠藤志保 小川正人 ー
19号	2020年3月26日	 第16回企画テーマ展『北海道神宮』蔵出し展『模型でみる札幌建築物語』を開催 収蔵資料紹介「2点の船絵馬から読み取れる制作方法」 インタビュー「博物館職員として最後に思うこと…」 研究活動紹介「アイヌ音楽の調査・研究」 はっけん広場 冬の活動報告「実りの副産物“わら”が大活躍!」 展示紹介「蔵出し展『模型でみる札幌建築物語』を担当して」 アイヌ民族文化研究センターだより「キーステン・レフシン資料の受け入れについて」 活躍ダイアリー／来館者数	鈴木明世 田中祐未 村上孝一 麻生典子 甲地利恵 辻幸恵 鈴木明世 奥田統己 ー

ホームページ(URL: <http://www.hm.pref.hokkaido.lg.jp>)

利用案内や総合展示の概略の紹介のほか、企画展やイベント情報などを提供しています。その他に、利用者の知的興味に応えるため、収蔵資料検索や「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ」といった学びに関するページも設置しています。



ホームページのトップ画面

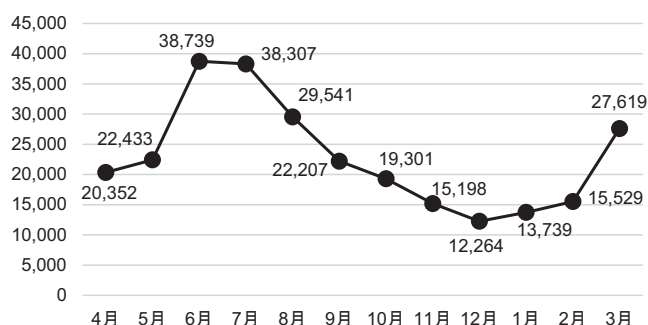


収蔵資料検索システム画面(検索条件:「美術」)

2019 年度のホームページアクセス件数

4 月	20,352	11 月	15,198
5 月	22,433	12 月	12,264
6 月	38,739	1 月	13,739
7 月	38,307	2 月	15,529
8 月	29,541	3 月	27,619
9 月	22,207	合計	275,229
10 月	19,301	月平均	22,936

アクセス数の推移



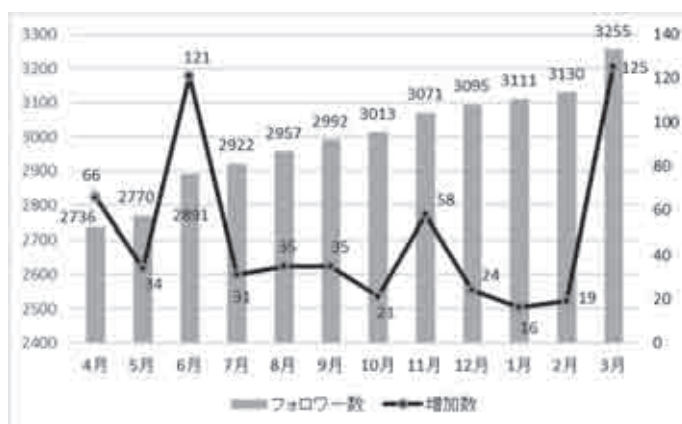
ソーシャルメディア

情報提供の迅速性と拡散性にすぐれたソーシャルメディアとして、ツイッターを使って幅広い情報発信を行っています。

公式ツイッターアカウント: @Hokkaido_Museum

2019 年度のツイッター フォロワー数

4 月	2,736	10 月	3,013
5 月	2,770	11 月	3,071
6 月	2,891	12 月	3,095
7 月	2,922	1 月	3,111
8 月	2,957	2 月	3,130
9 月	2,992	3 月	3,255



出版活動

調査研究をはじめとする博物館活動の成果を伝えるため、また博物館の展示などをわかりやすく伝えるため、さまざまな刊行物を編集・発行しています。これらの出版物は、総合展示場の地下階にある図書室に配置するとともに、国立国会図書館、全国の都道府県立図書館・大学図書館・博物館、北海道内の公共図書館・博物館などに寄贈しています。また、総合展示ガイドブック（『ビジュアル北海道博物館』）や特別展の図録など、出版物の一部は館内のミュージアムショップ（011-898-0466）にて販売しているほか、『北海道博物館研究紀要』と『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』については、北海道庁内の「行政情報センター」（011-204-5222）で購入できます。（品切れのものもございますので、お買い求めの際はお電話にてご確認ください）

2019 年度に出版した刊行物

刊行物名称	発行日	判型	頁数	発行部数
北海道博物館研究紀要 第5号	2020年3月	A4判	288	900
北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要 第5号	2020年3月	A4判	288	900
第5回特別展「アイヌ語地名と北海道」（北海道博物館第5回特別展図録）	2019年7月	A4判	144	1,400
北海道博物館要覧 2018	2019年7月	A4判	144	500
森のちゃれんがニュース 第16～19号		A4判	各8	各3,500
第14回企画テーマ展「現代の作り手によるアイヌ刺繍作品 北の手仕事 2019」（第14回企画テーマ展パンフレット）	2019年4月	A4判	4	3,000
第15回企画テーマ展「エゾシカ」（第15回企画テーマ展パンフレット）	2019年10月	A4判	4	3,000
第16回企画テーマ展「北海道神宮」（第16回企画テーマ展パンフレット）	2020年2月	A4判	4	3,000

2019 年度に作成した広報用印刷物

印刷物名称	発行日	判型等	発行部数
行事あんない（2019年10月～2020年3月）	2019年9月	A4判、4ページ	20,000
行事あんない（2020年4月～9月）	2020年3月	A4判、4ページ	20,000
北海道博物館第5回特別展「アイヌ語地名と北海道」ポスター	2019年5月	B2判	3,000
北海道博物館第5回特別展「アイヌ語地名と北海道」チラシ	2019年5月	A4判	85,000
第15回企画テーマ展「エゾシカ」ポスター	2019年9月	A2判	250
第15回企画テーマ展「エゾシカ」チラシ	2019年9月	A4判	8,000
第16回企画テーマ展「北海道神宮」ポスター	2020年1月	A2判	150
第16回企画テーマ展「北海道神宮」チラシ	2020年1月	A4判	3,000
第17回企画テーマ展「楽器 見る・知る・考える」ポスター	2020年3月	A2判	150
第17回企画テーマ展「楽器 見る・知る・考える」チラシ	2020年3月	A4判	3,000

『ビジュアル北海道博物館』

平成27年度文化庁「文化芸術による地域活性化・国際発信推進事業」により平成28（2016）年3月に刊行した、北海道博物館の総合展示をくわしく紹介した、オールカラーのガイドブック（A4判、全119ページ）です。



9 アイヌ民族文化研究センターの活動

旧北海道立アイヌ民族文化研究センターは、北海道の貴重な財産であるアイヌ文化について、伝承者の高齢化等が進むなか、道の責務として総合的・体系的な研究を行い、その成果の普及等を図りアイヌ民族文化の振興に寄与することを目的に、平成6（1994）年6月に設立されました。開設後は、「調査研究やその成果の普及事業」「情報収集及び提供事業」「研究支援事業」の3つの柱により事業を展開してきました。

北海道博物館においても、内部組織としてアイヌ民族文化研究センターを置き、アイヌ民族の歴史や有形・無形の文化に関するさまざまな事業の中心を担うことを主な業務としています。

アイヌ文化巡回展

旧北海道立アイヌ民族文化研究センターでは、寄贈を受けた貴重な資料である「山田秀三文庫」「久保寺逸彦文庫」の整理作業の成果を踏まえ、道内各地で「企画展」や「資料展」を開催してきました。

北海道博物館の開設初年度であった平成27（2015）年度は実施を見送りましたが、北海道の中核的博物館としてアイヌ文化の理解促進に資する役割を果たすため、平成28（2016）年度から、道内市町村等との協力のもと、地域的なバランスや開催地の要望を踏まえながら、「地名」や「物語」などを主なテーマとした「アイヌ文化巡回展」を再開しました。また、開催にあたっては、開催地の博物館等と連携し、アイヌ文化を紹介する講座等も実施しています。

2019年度のアイヌ文化巡回展

名 称	第6回 アイヌ文化巡回展 アイヌ語地名を歩く ～山田秀三の地名研究から～ 2019 白老		
会 期	2019年9月17日(火)～9月26日(木)		
観 覧 者 数	802人		
場 所	白老町中央公民館・白老コミュニティセンター(白老郡白老町)		
内 容	アイヌ語地名研究の第一人者である、故・山田秀三氏の資料から、白老町を中心とする地域の地名調査の資料と著作などを紹介しました。		
関 連 普 及 行 事	—	共 催	仙台藩白老元陣屋資料館



名 称	第7回 アイヌ文化巡回展 アイヌ語地名を歩く ～山田秀三の地名研究から～ 2019 新ひだか		
会 期	2019年9月22日(日)～9月23日(月・祝)		
観 覧 者 数	250人		
場 所	新ひだか町公民館・コミュニティセンター(日高郡新ひだか町)		
内 容	アイヌ語地名研究の第一人者である、故・山田秀三氏の資料から、新ひだか町を中心とする地域の地名調査の資料と著作などを紹介しました。		
関 連 普 及 行 事	—	共 催	—



名 称	第8回 アイヌ文化巡回展 アイヌ語地名を歩く ～山田秀三の地名研究から～ 2020 白老		
会 期	2020年1月4日(土)～1月19日(日)		
観 覧 者 数	201人		
場 所	仙台藩白老元陣屋資料館(白老郡白老町)		
内 容	アイヌ語地名研究の第一人者である、故・山田秀三氏の資料から、白老町を中心とする地域の地名調査の資料と著作などを紹介しました。		
関 連 普 及 行 事	—	共 催	仙台藩白老元陣屋資料館



資料の公開

アイヌ語、口承文芸、伝統的な生活や歴史的な出来事などについて、伝承者や体験者からの聞き取り等によって記録された資料や写真、録画などは、アイヌ文化の調査研究や継承にとって、たいへん貴重な資料です。一方で、これらの資料には、著作権やプライバシーなどに対する慎重な配慮が必要です。

当館では、このようなアイヌ文化に関する採録資料等については、まずその内容確認を行い、プライバシー情報の有無などを点検し、原則としてその資料の関係者（語り手等）と協議し、承諾を得てから公開することとしています。

公開する資料については、公開用の複製（公開用資料）を作成しています。公開用資料を作成することにより、もとの資料の保存を図るとともに、プライバシー等の事由により非公開とすることとした部分の削除等の処理を行い、関係者の権利が侵害される恐れがないようにしています。

現在のところ、公開用資料は、音声・映像資料についてはCD、DVD等で、文書資料や写真資料については紙焼きまたはデジタル画像データで作成しています。

種別		2019 年度までに 公開準備を終えた点数	累計 (2019 年度末現在)
音声・ 映像資料	当館(アイヌ民族文化研究センター)採録・ 複製資料(職員による採録など)	285 (265)	285 (265)
	山田秀三文庫	91 (64)	91 (64)
	久保寺逸彦文庫	77 (112)	77 (112)
	小計	448 (441)	448 (441)
文書資料	山田秀三文庫	102 (－)	102 (－)
	久保寺逸彦文庫	10 (－)	10 (－)
	小計	112 (－)	112 (－)
写真資料	久保寺逸彦文庫	483 (－)	483 (－)
合計		1043	1043

アイヌ文化紹介小冊子の発行

旧北海道立アイヌ民族文化研究センターでは、国連の定めた「世界の先住民の国際10年」(平成6(1994)年12月～平成16(2004)年12月)の記念事業として、アイヌ文化に関する専門的な内容をわかりやすく親しみやすいかたちで紹介した小冊子(アイヌ文化紹介小冊子『ボン カンピソシ』)を、毎年1冊ずつ発行しました。

北海道博物館においても、アイヌ文化に関する研究成果の普及や道民の学習等に資するために、引き続き『ボン カンピソシ』の活用・配布を行っており、北海道博物館ホームページからも、各巻のPDFファイルをダウンロードできます。

令和元(2019)年度には、特別展「アイヌ語地名と北海道」開催にあわせて、第9巻「地名」の増刷を行いました。



アイヌ文化紹介小冊子『ボン カンピソシ』発行一覧

巻	タイトル(テーマ)	発行年月日	判型等	当初発行部数	増刷
1	はなす(アイヌ語)	1996(平成8)年3月	A5判、32ページ	10,000部	2刷:平成15(2003)年3月 (1,000部)
					3刷:平成19(2007)年3月 (500部)
					4刷:平成22(2010)年3月 (2,000部)
					5刷:平成26(2014)年6月 (2,000部)
					6刷:平成31(2019)年3月 (2,000部)
2	着る(衣服)	1997(平成9)年3月	A5判、32ページ	10,000部	2刷:平成15(2003)年3月 (500部)
					3刷:平成19(2007)年3月 (500部)
					4刷:平成22(2010)年3月 (2,000部)
					5刷:平成26(2014)年6月 (2,000部)
					6刷:平成31(2019)年3月 (2,000部)
3	食べる(食事)	1998(平成10)年3月	A5判、32ページ	10,000部	2刷:平成22(2010)年3月 (2,000部)
					3刷:平成26(2014)年6月 (2,000部)
					4刷:平成31(2019)年3月 (2,000部)
4	住まい	1999(平成11)年3月	A5判、32ページ	10,000部	2刷:平成23(2011)年2月 (2,000部)
					3刷:平成29(2017)年7月 (2,000部)
					4刷:平成31(2019)年3月 (2,000部)
5	祈る(信仰)	1999(平成11)年11月	A5判、32ページ	10,000部	2刷:平成24(2012)年7月 (2,000部)
					3刷:平成31(2019)年3月 (2,000部)
6	口頭文芸	2000(平成12)年10月	A5判、32ページ	10,000部	2刷:平成24(2012)年7月 (2,000部)
					3刷:平成31(2019)年3月 (2,000部)
7	芸能	2001(平成13)年9月	A5判、32ページ	10,000部	2刷:平成24(2012)年7月 (2,000部)
					3刷:平成31(2019)年3月 (2,000部)
8	民具	2002(平成14)年9月	A5判、32ページ	10,000部	2刷:平成31(2019)年3月 (2,000部)
9	地名	2004(平成16)年2月	A5判、32ページ	6,000部	2刷:平成20(2008)年3月 (1,000部)
					3刷:平成23(2011)年2月 (2,000部)
					4刷:平成28(2016)年3月 (2,000部)
					5刷:平成31(2019)年3月 (2,000部)
					6刷:令和元(2019)年9月 (2,000部)
10	総集編	2005(平成17)年3月	CD-ROM	5,000部	
計				91,000部	(49,500部)

ホームページによる情報提供

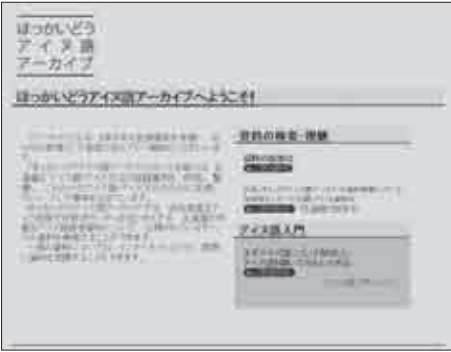
旧北海道立アイヌ民族文化研究センターでは、平成13（2001）年度からインターネット上にホームページを開設し、事業のあらましや研究センターの出版物、公開している資料などを紹介するほか、アイヌ文化に関する連載記事などを通じた情報提供を行ってきました。

北海道博物館の開館後は、館のホームページの中にこれらのページを移行して運用しています。

ほっかいどうアイヌ語アーカイブ

旧北海道立アイヌ民族文化研究センターでは、平成23（2011）～平成24（2012）年度に、国（内閣府）の交付金を受けて「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ事業」を実施し、寄贈を受けた「山田秀三文庫」「久保寺逸彦文庫」の音声資料の公開を進めました。また、インターネットを通してこれらの資料を検索し視聴することができる「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ」を構築しました。

現在は北海道博物館のホームページ内に「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ」を設け、研究センターが公開している音声資料などを検索し、一部は視聴することができるようになっています。また、アイヌ語や口承文芸、芸能などを初心者向けにわかりやすく紹介する「アイヌ語入門」のページも設けています。



学習・伝承活動の支援

市町村などの関係機関やアイヌ文化伝承活動団体などから寄せられる、学習や伝承活動に対する専門的な知見からの助言や支援の依頼に応じています。また、アイヌ文化に関する情報提供や当館資料の照会は、電話により日常的に対応しています。アイヌ文化関連のレファレンス件数は、令和元（2019）年度は150件でした。

2019 年度その他機関、団体への学習・伝承支援件数（講座・講演会の講師等は除く）（1 件）

対応日	依頼先	内容	対応者
7 月 4 日～5 日	公益財団法人アイヌ民族文化財団	伝統的生活空間の再生事業伝承者育成事業における講座「博物館学:民具実見」の講師	大坂 拓

10 北海道開拓の村整備事業

昭和 58（1983）年 4 月に開村した野外博物館・北海道開拓の村の建設は、北海道百年記念事業の一環として計画されました。建設事業は、北海道開拓記念館と、昭和 46（1971）年 4 月に設置された北海道野幌森林公園管理事務所（野幌森林公園事務所、野幌森林公園分室を経て平成 22（2010）年度をもって廃止）とで推進され、特に開拓の村の歴史建造物の復元、および屋内展示の制作は開拓記念館が中心となって進められました。このことから、北海道博物館の開館後も、建造物や屋内展示の保存・管理は当館の重要な業務となっています。

歴史建造物の保存にあたっては、その文化財的価値を損なわないように極力当初からの材料を生かし、修復・修繕は限定的に行うことを原則としており、この方針の基に屋根や外壁などを中心に毎年数棟ずつの修復工事を実施しています。しかし、野外展示であると同時に寒冷多雪地域であるという条件は、復元建造物の保存にとっては必ずしも条件がよいとは言えない環境であることから、加速度的に腐朽や劣化が進んでおり、その対応が大きな課題となっています。

令和元（2019）年度には、以下のような補修・改修を行いました。

2019 年度 北海道開拓の村の主な補修・改修工事

大規模改修工事 (建設部発注)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 旧三ツ河本そば屋(7 月～1 月) ・ 旧武井商店酒造部(7 月～1 月)
展示改修	旧三ツ河本そば屋及び旧武井商店酒造部 展示物撤去・再配置委託業務(6 月～3 月)
平成 30 年台風 21 号・胆振東部地震被災に伴う補修工事	北海道胆振東部地震対応 地震被害改修工事 <ul style="list-style-type: none"> ・ 旧開拓使工業局庁舎屋根(7 月～9 月) ・ 旧土谷家はねだし屋根(8 月～9 月) ・ 旧三ツ河本そば屋レンガ煙突(11 月～12 月) ・ ビジターセンター塔屋手摺(11 月～3 月)
老朽度調査	<ul style="list-style-type: none"> ・ 旧北海中学校(6 月～9 月) ・ 旧山本消防組番屋・火の見櫓(6 月～9 月) ・ 炭焼小屋・窯(6 月～9 月)
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 旧青山家漁家住宅周辺屋外 Wi-Fi 設備構築工事(10 月) ・ 旧広瀬写真館周辺給水管(11 月～12 月)

11 館長、学芸・研究職員の紹介

石 森 秀 三 ISHIMORI Shuzo		職 名	館長
		称 号	国立民族学博物館名誉教授、総合研究大学院大学名誉教授
受 賞	1986 年、大平正芳記念賞	専 門	文化人類学、博物館学、観光文明学
略 歴	<p>【職歴】</p> <p>京都大学人文科学研究所研究員(1971)</p> <p>国立民族学博物館第四研究部助手(1975)</p> <p>国立民族学博物館第四研究部助教授(1985)</p> <p>国立民族学博物館第四研究部教授(1996)</p> <p>国立民族学博物館先端民族学研究部教授(1998)</p> <p>国立民族学博物館民族社会研究部長(2002)</p> <p>国立民族学博物館博物館民族学研究部長(2003)</p> <p>国立民族学博物館文化資源研究センター長(2004)</p> <p>北海道大学観光学高等研究センター長(2006)</p> <p>北海道開拓記念館長(2013)</p> <p>北海道博物館長(2015)</p> <p>【社会活動】</p> <p>観光立国懇談会委員(内閣官房)、アイヌ政策推進会議委員(内閣官房)、文化審議会文化財分科会専門委員(文化庁)、文化審議会企画調査会会長(文化庁)、国土審議会北海道開発分科会専門委員(国土交通省)、地域資源活用促進事業委員会委員長(経済産業省)等</p>		
主 な 研 究 業 績	<p>2017;『観光創造学へのチャレンジ』北海道大学観光学高等研究センター(共編著)</p> <p>2011;『エコツーリズムを学ぶ人のために』世界思想社(共編著)</p> <p>2008;『大交流時代における観光創造』北海道大学(編著)</p> <p>2000;『博物館経営・情報論』放送大学教育振興会(編著)</p> <p>2000;『博物館資料論』放送大学教育振興会(編著)</p> <p>1999;『博物館概論:ミュージアムの多様な世界』放送大学教育振興会</p> <p>1996;『観光の 20 世紀』ドメス出版(編著)</p> <p>1985;『危機のコスモロジー:ミクロネシアの神々と人間』福武書店</p>		

右 代 啓 視 USHIRO Hiroshi		職 名	研究部長
		学 位	博士(歴史学)、2011 年(駒澤大学大学院)
		担 当 分 野	考古
所 属 学 会	日本考古学協会、第四紀学会、北海道考古学会、チャン学会、北方島文化研究会 他		
研 究 課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・千島列島における人類活動史の考古学的総合研究 ・先史文化の環境変化と文化形成の研究 ・北東アジアにおける要害遺跡の形成過程の研究 		
近年の主な業績	<p>2020;「北方四島における考古・歴史学の総合研究(1)」『北海道博物館研究紀要』 第 5 号 (筆頭)</p> <p>2020;「北方四島の歴史・文化を探る」『文化財情報』vol.378 北海道文化財保護協会</p> <p>2020;「2019 年北方四島学術調査—国後島ヤンベツ・小田富の遺跡群—」『季刊考古学』150 号(筆頭)</p> <p>2019;「千島列島における人類活動史の考古学的総合研究(IV) —特に北方四島の先史文化研究を中心に—」『北海道博物館研究紀要』第 4 号 (筆頭)</p> <p>2018;“Remains of Kunashiri Island—from Research on the Materials Collected in the Yuzhno-Kuriliskij Regional Museum—” <i>Research Association of Culture in Northern Islands</i>.No.13. Research Association of Culture in Northern Islands (筆頭)</p> <p>2018;「千島列島における人類活動史の考古学的総合研究(III) —特に北方四島の先史文化研究を中心に—」『北海道博物館研究紀要』第 3 号 (筆頭)</p> <p>2017;「古環境復元と遺跡の立地」『浜頓別町「ブタウス遺跡報告書」浜頓別町教育委員会 (筆頭)</p>		

自然研究グループ

水 島 未 記	MIZUSHIMA Miki	職 名	学芸部社会貢献グループ兼自然研究グループ学芸主幹
		学 位	修士、1993 年(北海道大学大学院農学研究科)
		担 当 分 野	生物(植物)
所 属 学 会	日本生態学会、種生物学会、日本セトロジー研究会		
研 究 課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・草本植物の生活史 ・動植物と人との相互作用 ・北海道における鯨類と人との関わり 		
近年の主な業績	2020;「野幌森林公園地域の種子植物相(2) 過去の植物相調査記録の統合と APG III による再整理」『北海道博物館研究紀要』第 5 号 (筆頭) 2018;「野幌森林公園地域の種子植物相」『北海道博物館研究紀要』第 3 号 (筆頭) 2017;「サハリンの植物相および植生から見たニヴフの植物資源利用」『北海道博物館研究紀要』第 2 号 (筆頭) 2017;「野幌森林公園のため池および水生植物相 ―2000 年～2004 年と 2016 年の調査から―」『北海道博物館研究紀要』第 2 号 (共著) 2016;「生態系を『その他大勢』にどう伝えるか ―北海道博物館における新たな自然史展示の試み―」『日本科学教育学会年会論文集』第 40 号 (筆頭) 2016;「野幌森林公園における国内外来種のツチガエルとノサマガエルの侵入および分布拡大経過について」『北海道博物館研究紀要』第 1 号 (共著) 2016;『ニヴフ語音声資料 13(シュミット方言) ―オリガ・ボリソヴナ・コヴァン―』札幌学院大学 (共著)		

添 田 雄 二	SOEDA Yuji	職 名	学芸部博物館基盤グループ兼自然研究グループ学芸主査
		学 位	博士(理学)、2011 年(鹿児島大学)
		担 当 分 野	地学
所 属 学 会	日本第四紀学会		
研 究 課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道における中～後期更新世以降のゾウ類についての研究 ・17 世紀の寒冷期と巨大噴火津波がアイヌ民族に与えた影響についての研究 ・石狩低地帯北部地域を中心とした新生代の古環境復元 		
近年の主な業績	2019;「小氷期最寒冷期と巨大噴火・津波がアイヌ民族に与えた影響Ⅳ」『北海道博物館研究紀要』第 4 号 (筆頭) 2018;「17 世紀の自然災害とアイヌ社会―伊達市の調査事例から―」『季刊考古学』146 号 雄山閣 (筆頭) 2018;『伊達市カムイタプコブ下遺跡発掘調査報告書 近世アイヌ文化期の集落』北海道博物館 (筆頭編者) 2018;「小氷期最寒冷期と巨大噴火・津波がアイヌ民族に与えた影響 Ⅲ」『北海道博物館研究紀要』第 3 号 (筆頭) 2018;「北海道北広島市西の里で認められた第四系の地質年代」『北海道博物館研究紀要』第 3 号 (共著) 2017;「小氷期最寒冷期と巨大噴火・津波がアイヌ民族に与えた影響 Ⅱ」『北海道博物館研究紀要』第 2 号 (筆頭) 2017;「伊達市カムイタプコブ下遺跡」『遺跡調査報告会資料集』北海道考古学会 (共著)		

表 溪 太 OMOTE Keita

		職 名	学芸部博物館基盤グループ兼自然研究グループ学芸員
		学 位	博士(理学)、2016 年(北海道大学大学院理学院)
		担当分野	生物(動物)
所 属 学 会	日本動物学会、日本鳥学会		
研 究 課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道の動物の系統地理学的研究 ・博物館標本の DNA 分析を用いた生態学的研究 ・鳥類の羽毛、哺乳類毛等の形態による種同定法に関する研究 		
近年の主な業績	2020;「ヒグマを通して自然を学ぶ」『ヒグマ学への招待』北海道大学出版会 2020;「2019 年に野幌森林公園周辺に出没したヒグマについて」『北海道博物館研究紀要』第 5 号(筆頭) 2020;“Do Fruits Bearing the Red Carotenoid Rhodoxanthin Affect Avian Plumage Coloration in Japan?” <i>Ornithological Science</i> 19(1) Ornithological Society of Japan 2018;「河川環境とシマフクロウ」『ビオストーリー』30 号 生き物文化誌学会 2017;“Phylogeography of continental and island populations of Blakiston’s fish-owl (<i>Bubo blakistoni</i>) in Northeastern Asia” <i>Jornal of Raptor Reseach</i> , 52(1) The Raptor Research Foundation (筆頭) 2017;“Duplication and variation in the major histocompatibility complex genes in Blakiston's fish owl, <i>Bubo blakistoni</i> ” <i>Zoological Science</i> , 34(6) Zoological Society of Japan (筆頭) 2015;“Recent fragmentation of the endangered Blakiston’s fish owl (<i>Bubo blakistoni</i>) population on Hokkaido Island, northern Japan, revealed by mitochondrial DNA and microsatellite analyses” <i>Zoological Letters</i> (筆頭)		

圓 谷 昂 史 EN'YA Takafumi

		職 名	学芸部道民サービスグループ兼自然研究グループ研究職員
		学 位	修士、2014 年(北海道教育大学大学院理科教育専修)
		担当分野	地学
所 属 学 会	古生物学会、日本貝類学会、漂着物学会、日本理科教育学会		
研 究 課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道から産出する軟体動物化石からみた古環境復元 ・北海道沿岸の漂着物を用いた博物館における環境教育 		
近年の主な業績	2020;「2015～2019 年における北海道余市湾沿岸へのアオイガイの漂着」『北海道博物館研究紀要』第 5 号 2018;「サハリン島南部地域における海岸漂着物の特徴」『漂着物学会誌』16 卷 (筆頭) 2018;“Clavate Gastrochaenolites produced by the rock-boring clam <i>Penitella kamakurensis</i> from Aonae Beach on Okushiri Island, Hokkaido” 『漂着物学会誌』16 卷 (共著) 2018;「北海道北広島市西の里で認められた第四系の地質年代」『北海道博物館研究紀要』第 3 号 (筆頭) 2016;「北海道北広島市西の里から産出した貝化石(速報)」『北海道博物館研究紀要』第 1 号 (筆頭) 2015;「西南北海道上ノ国町におけるカズラガイ(複足綱・トウカムリ科)の発見」 <i>Molluscan diversity</i> 4(1) (筆頭) 2015;「2010～2014 年において北海道余市湾沿岸に漂着したアオイガイ」『北海道開拓記念館研究紀要』43 卷 (筆頭)		

歴史研究グループ

三 浦 泰 之 MIURA Yasuyuki	職 名	学芸部道民サービスグループ兼歴史研究グループ学芸主幹
	学 位	学士、1996 年(京都大学文学部日本史学科)
	担 当 分 野	歴史(近世・近代)
所 属 学 会	日本史研究会、北海道史研究協議会、松浦武四郎研究会	
研 究 課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道内における「文書資料」「記録資料」の所在把握と活用に関する基礎的研究 ・近世・近代における北海道の文化史に関する基礎的研究 ・北海道記録映画史に関する基礎的研究 ・松浦武四郎の生涯と幕末・明治期の北海道及び日本社会に関する基礎的研究 	
近年の主な業績	<p>2019;『見る』『集める』『伝える』の三つのキーワードでひもとく松浦武四郎の生涯『ユリイカ』2019 年 8 月臨時増刊号(総特集=松浦武四郎) 青土社</p> <p>2019;「松浦武四郎記念館所蔵「蝦夷屏風」に貼り交ぜの領収証類について(7)―安政 5 年(1858)分(3)―『松浦武四郎研究会会誌』第 77 号 松浦武四郎研究会</p> <p>2018;「第 19 講 松浦武四郎―時代を見つめ、集めて、伝えた、希代の旅人」筒井清忠編『明治史講義【人物篇】』ちくま新書</p> <p>2016;「近世編 松前三湊の繁栄」、「資料編 北海道史に関わって活字化されている主な史料および史料集の目次情報」北海道史研究協議会(編)『北海道史事典』北海道出版企画センター</p> <p>2016;『「移住」してきた〈古文書〉は語る』北海道博物館協会学芸職員部会(編)『北の学芸員とおきの《お宝ばなし》 北海道で残したいモノ伝えたいコト』寿郎社</p>	

山 田 伸 一 YAMADA Shin'ichi	職 名	学芸部社会貢献グループ兼歴史研究グループ学芸主査
	学 位	修士、1996 年(北海道大学大学院文学研究科)
	担 当 分 野	歴史(近現代)
所 属 学 会	日本史研究会、函館日ロ交流史研究会	
研 究 課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・近現代の北海道およびその周辺地域における人間と自然環境の関係史 ・近現代のアイヌ政策史・アイヌ史 	
近年の主な業績	<p>2020;「明治期の野幌丘陵におけるヒグマとオオカミの記録」『北海道博物館研究紀要』第 5 号</p> <p>2020;「一九一〇～四〇年代の千島・樺太・北海道の島々へのキツネの移入」『北海道博物館研究紀要』第 5 号</p> <p>2019;「一八八二年四月、襟裳岬近くで座礁した英国船」『北海道博物館研究紀要』第 4 号</p> <p>2018;「札幌県(1882～1886 年)におけるアイヌ民族の飢餓」『新しい歴史学のために』第 292 号 京都民科歴史部会</p> <p>2018;「開拓使とキツネ」『北海道博物館研究紀要』第 3 号</p> <p>2017;「来日はバットとボールを持って ―アルバート・G・ベイツのこころ―」『北海道博物館 第3回特別展「プレイボール！」ガイドブック』</p> <p>2017;「下北半島風間浦村、大石神社の『蝦夷地・場所図』はどこを描いたものか」『北海道博物館研究紀要』第 2 号</p>	

鈴木 琢也 SUZUKI Takuya	職 名	学芸部道民サービスグループ兼歴史研究グループ学芸主査
	学 位	修士、2001 年(福島大学大学院地域政策科学研究科)
	担当分野	考古
所 属 学 会	日本考古学協会、東洋陶磁学会、北海道考古学会、北方島文化研究会	
研 究 課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・日本列島北部地域における古代・中世の文化集団移動に関する研究 ・日本列島北部地域における古代・中世の物流交易に関する研究 ・北方四島における先史文化の考古学的基礎研究 	
近年の主な業績	2020;「北方四島における考古・歴史学の総合研究(1)」『北海道博物館研究紀要』第 5 号 (共著) 2019;「北海道島における本州産須恵器の流通—5 世紀～11 世紀」『東洋陶磁学会第 47 回研究発表資料集』東洋陶磁学会 2018;「〔書評と紹介〕小口雅史編『古代国家と北方世界』」『弘前大学國史研究』第 145 号 弘前大学國史研究会 2017;「平泉関係遺跡集成『北海道』」『科学研究費基盤研究(B)「平泉研究の資料学的再構築」報告書 平泉関係遺跡集成』研究代表者 柳原敏昭 2016;「平泉政権下の北方交易システムと北海道在地社会の変容」『歴史評論』第 795 号 歴史科学協議会・校倉書房 2016;「須恵器からみた古代の北海道と秋田」『北方世界と秋田城 考古学リーダー25』六一書房 2016;「擦文文化の成立過程と秋田城交易」『北海道博物館研究紀要』第 1 号	

東 俊 佑 AZUMA Shunsuke	職 名	総務部企画グループ兼歴史研究グループ学芸主査
	学 位	修士、2002 年(東北学院大学大学院文学研究科)
	担当分野	歴史(中・近世)
所 属 学 会	北海道・東北史研究会、東北史学会、歴史学研究会、北海道史研究協議会、北方島文化研究会	
研 究 課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道博物館所蔵の文書資料(近世文書)に関する研究 ・蝦夷地のアイヌ有力者が入手した外来交易品と勘定システムの成立に関する研究 ・コレクション形成史からみる日露関係史 	
近年の主な業績	2020;「日本における前近代サハリン・樺太史研究の動向:1264・1867」『北方人文研究』第 13 号 北海道大学大学院文学研究院北方研究教育センター 2020;「『土人給料勘定』のしくみ(Ⅲ) —北蝦夷地ウシヨロ場所経営帳簿『北蝦夷地用』の分析—」『北海道博物館研究紀要』第 5 号 2020;「フラーシエム・コレクション目録」『北海道博物館資料目録』第 2 号 2019;「アイヌの交易世界と松前藩」『歴史地理教育』第 901 号 歴史教育者協議会 2019;「『土人給料勘定』のしくみ(Ⅱ) —北蝦夷地ウシヨロ場所経営帳簿『北蝦夷地用』の分析—」『北海道博物館研究紀要』第 4 号 2019;「北蝦夷地ウシヨロ場所における漆器の流入とアイヌの給料勘定」浅倉有子(編)『アイヌの漆器に関する学際的研究』北海道出版企画センター 2018;「『土人給料勘定』のしくみ(Ⅰ) —北蝦夷地ウシヨロ場所経営帳簿『北蝦夷地用』の分析—」『北海道博物館研究紀要』第 3 号	

田 中 祐 未 TANAKA Yumi	職 名	学芸部道民サービスグループ兼歴史研究グループ学芸員
	学 位	学士、2014 年(北海道教育大学)
	担当分野	美術史
所 属 学 会	北海道芸術学会	
研 究 課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道博物館所蔵の絵画資料に関する研究 ・北海道内の社寺奉納絵馬に関する研究 ・吉田初三郎の鳥瞰図に関する研究—北海道関連作品を中心に— 	
近年の主な業績	2020;「寿都町の絵馬」『北海道博物館研究紀要』第 5 号	

生活文化研究グループ

池 田 貴 夫 IKEDA Takao	職 名	総務部企画グループ兼生活文化研究グループ学芸主幹
	学 位	博士(学術)、2007 年(名古屋大学)
	担 当 分 野	民俗
所 属 学 会	北海道・東北史研究会、日本民具学会、日本生活学会、美学芸術学会、日本民俗学会、日本文化人類学会	
研 究 課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会におけるモノの処分と靈魂感—博物館へのモノの寄附という行為の分析から— ・糞突き棒(仮称)の研究 ・北海道の季節行事に関する研究 	
近年の主な業績	2020;「泉山了谷銘の湯川焼花瓶について」『北海道博物館研究紀要』第 5 号 (共著) 2019;「端布からみた後藤家の衣服のあゆみ」『北海道博物館研究紀要』第 4 号 (共著) 2018;「北海道のクマ信仰・クマ儀礼」生き物文化誌学会(編)『BIOSTORY』vol. 30 誠文堂新光社 2018;「北海道 150 年—急速に姿を変えた北の大地—」『土木学会誌』Vol.103 No.8 2017;「道具・衣装」公開状況総論「福島町松前神楽保存会」『国記録選択無形民俗文化財調査報告書 松前神楽』北海道教育委員会 2017;「日本領期の樺太における温泉開発と温泉をめぐる人びとの精神誌」白木沢旭児(編著)『北東アジアにおける帝国と地域社会』北海道大学出版会 2016;「世代間対話の場としての博物館づくり—総合研究プロジェクト『モノをめぐる価値観の変遷とその多様性に関する近現代史』研究報告—」『北海道博物館研究紀要』第 1 号 (筆頭)	

山 際 秀 紀 YAMAGIWA Hideki	職 名	学芸部社会貢献グループ兼生活文化研究グループ学芸主査
	学 位	修士、1994 年(大谷大学大学院文学研究科)
	担 当 分 野	産業史(農業)
所 属 学 会	北海道産業考古学会	
研 究 課 題	・戦前・戦中・戦後における道民生活の変遷に関する聞き書き調査	
近年の主な業績	2019;「北海道における亜麻生産とバイオリン播種器 — 現存する資料の構造分析を中心に—」『北海道博物館研究紀要』第 4 号 2016;「世代間対話の場としての博物館づくり—総合研究プロジェクト『モノをめぐる価値観の変遷とその多様性に関する近現代史』研究報告—」『北海道博物館研究紀要』第 1 号 (共著)	

会 田 理 人 AIDA Masato	職 名	総務部企画グループ兼生活文化研究グループ学芸主査
	学 位	修士、2002 年(北海道大学大学院文学研究科)
	担 当 分 野	産業史(漁業)
所 属 学 会	日本民具学会、北海道大学東洋史談話会、北海道産業考古学会	
研 究 課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・戦前・戦中・戦後における道民生活の変遷に関する聞き書き調査 ・北海道における海女出稼ぎ漁と磯まわり漁業の関係史研究 	
近年の主な業績	2018;「全道樺太実業野球大会」『北海道博物館研究紀要』第 3 号 2016;「『ニシン釜』はどこで作られていた?」北海道博物館協会学芸職員部会(編)『北の学芸員とっておきの《お宝ばなし》 北海道で残したいモノ伝えたいコト』寿郎社 2016;「樺太日日新聞掲載コンブ関係記事 — 目録と紹介(1923-29 年)—」『北海道博物館研究紀要』第 1 号 2016;「世代間対話の場としての博物館づくり—総合研究プロジェクト『モノをめぐる価値観の変遷とその多様性に関する近現代史』研究報告—」『北海道博物館研究紀要』第 1 号 (共著)	

青柳 かつら AOYAGI Katsura	職 名	学芸部博物館基盤グループ兼生活文化研究グループ学芸主査
	学 位	博士(環境学)、2011年(筑波大学大学院生命環境科学研究科)
	担当分野	産業史(林業)
所 属 学 会	日本森林学会、林業経済学会	
研 究 課 題	・少子高齢社会のウェルビーイング創成型地域学習コンテンツの開発 ・戦前・戦中・戦後における道民生活の変遷に関する聞き書き調査 ・寒冷地の自然と適応に関する研究	
近年の主な業績	2020;「少子高齢社会のウェルビーイング創成型地域学習コンテンツの開発(Ⅱ)ー北海道内老人デイサービスセンターにおけるレクリエーションと博物館利用に関するアンケートの解析からー」『北海道博物館研究紀要』第5号 2019;「少子高齢社会のウェルビーイング創成型地域学習コンテンツの開発ー東旭川における高齢者参画型地域資源マップの効果と課題ー」『北海道博物館研究紀要』第4号 2018;『JSPS 科研費 15K01153 報告書 2. 士別市朝日町の歴史と文化: 回想法サロンと異世代交流の記録』 2018;『JSPS 科研費 15K01153 報告書 1. 博物館を拠点とした高齢者と協働する地域学習プログラム集』 2017;『ぐるっと東旭川たんけんマップ』(JSPS 科研費中間報告) 2017;「高齢者と協働するナレッジ活用型地域資源学習プログラムの開発(Ⅱ)ー独居後期高齢者向け回想法サロンの効果と課題ー」『北海道博物館研究紀要』第2号 2016;「高齢者と協働するナレッジ活用型地域資源学習プログラムの開発ー2015年北海道と2003年全国の博物館園対象高齢者プログラムアンケート調査結果の比較からー」『北海道博物館研究紀要』第1号	

尾曲 香織 OMAGARI Kaori	職 名	学芸部博物館基盤グループ兼生活文化研究グループ学芸員
	学 位	修士、2013年(筑波大学大学院人文社会科学研究科)
	担当分野	民俗
所 属 学 会	日本民俗学会、現代民俗学会、日本民具学会、歴史人類学会、女性民俗学研究会	
研 究 課 題	・戦前・戦中・戦後における道民生活の変遷に関する聞き書き調査	
近年の主な業績	2020;「厚沢部町における食儀礼ーかだっこ餅を中心としてー」『北海道博物館研究紀要』第5号(筆頭) 2019;「端布からみた後藤家の衣服のあゆみ」『北海道博物館研究紀要』第4号(共著) 2018;「北海道陸別町における結婚披露と会費制祝賀会ー昭和46年から55年の事例をもとにー」『女性と経験』43号 女性民俗学研究会 2018;「新十津川における女性のくらしー結婚や出産に関わる習俗の変化についての一考察ー」『北海道博物館研究紀要』第3号 2018;「出産・生育」「婚姻」「食と儀礼」ほか『土浦市民俗調査報告書 第2集 藤沢・斗利出の民俗ー桜川左岸の低地・台地の環境と暮らしー』土浦市立博物館 2017;「兵庫県、鳥取県、岡山県境にみる川下、川裾、川濯神の伝承」『北海道博物館研究紀要』第2号(共著) 2016;「新生活運動とある女性の葛藤ー生活の合理化と地域から求められる役割ー」『筑波大学地域研究』第37号	

舟 山 直 治	FUNAYAMA Naoji	職 名	学芸部道民サービスグループ兼生活文化研究グループ学芸員
		学 位	学士、1982 年(酪農学園大学酪農学部農業経済学科)
		担当分野	民俗
所 属 学 会	日本民俗学会、北海道・東北史研究会、北海道地域文化研究会		
研 究 課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道における生活文化の伝承に関する研究(大祓や松前神楽の伝承、曲物製作技術について調査研究) ・博物館活動に関する研究(生活文化関係資料の活用に向けたデータベースの整備と展示会企画について調査研究) ・日本海沿岸における歴史文化遺産に関する研究(江差町、小樽市における歴史文化遺産のあり方についての調査研究) 		
近年の主な業績	2020;「泉山了谷銘の湯川焼花瓶について」『北海道博物館研究紀要』第5号(筆頭) 2020;「厚沢部町における食儀礼 ーかだっこ餅を中心としてー」『北海道博物館研究紀要』第5号(共著) 2019;「端布からみた後藤家の衣服のあゆみ」『北海道博物館研究紀要』第4号(筆頭) 2018;「年中行事具」「信仰用具」「郷土芸能用具」『北海道民具事典Ⅰ』北海道新聞社 2018;「滋賀県、福井県、石川県の川下、川裾、川濯信仰の伝承」『北海道博物館研究紀要』第3号(筆頭) 2018;「北海道における民俗芸能の伝承とその特徴について」『北海道の文化』vol.90 2017;「兵庫県、鳥取県、岡山県境にみる川下、川裾、川濯神の伝承」『北海道博物館研究紀要』第2号(筆頭) 2017;「『松前神楽』の伝承」、「松前神楽函館連合保存会」『国記録選択無形民俗文化財調査報告書 松前神楽』北海道教育委員会 2016;「加古川水系と由良川水系の川下、川裾、川濯信仰の伝承」『北海道博物館研究紀要』第1号(筆頭)		

博物館研究グループ

堀 繁 久 HORI Shigehisa	職 名	学芸部博物館基盤グループ兼博物館研究グループ学芸主幹
	学 位	学士、1985 年(琉球大学理学部生物学科)
	担当分野	博物館学、昆虫
所 属 学 会	日本昆虫学会、日本甲虫学会、日本蛾類学会	
研 究 課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・日本および北海道周辺の昆虫相の解明とその変遷 ・博物館自然史資料の活用に関する調査研究 	
近年の主な業績	<p>2020;「札幌市北ノ沢地区周辺で確認された国内外来種アズマヒキガエルの食性について」『北海道博物館研究紀要』第 5 号 (筆頭)</p> <p>2017;「バリ自然史博物館 ―海外の自然史博物館における収蔵庫と収蔵展示を考える」『自然史レガシー継承・発信実行委員会 2017』(筆頭)</p> <p>2017;増補改訂版『探そう! ほっかいどうの虫』北海道新聞社</p> <p>2017;「北海道におけるシラキトビナナフシとヤスマツトビナナフシの分布について」『北海道博物館研究紀要』第 2 号 (筆頭)</p> <p>2016;「野幌森林公園における国内外来種のツチガエルとノサマガエルの侵入および分布拡大経過について」『北海道博物館研究紀要』第 1 号 (筆頭)</p> <p>2016;“A New Species of the Genus <i>Asessinia</i> (Coleoptera, Oedemeridae) from Central Honshu and Southwestern Hokkaido” <i>Elytra N.S.</i>, 06(1) 日本甲虫学会 (共著)</p>	

杉 山 智 昭 SUGIYAMA Tomoaki	職 名	学芸部博物館基盤グループ兼博物館研究グループ学芸主査
	学 位	博士(文化財)、2018 年(東京藝術大学)
	担当分野	文化財保存科学
所 属 学 会	文化財保存修復学会、日本文化財科学会、The International Biodeterioration Biodegradation Society	
研 究 課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財の劣化に関する研究 ・文化財の保存環境に関する研究 ・文化財の科学分析 	
近年の主な業績	<p>2020;「令和元年度 北海道博物館資料保存修復報告」『北海道博物館研究紀要』第 5 号</p> <p>2020;「博物館における「木材」の保存」『ウッドイエジ 68 号』一般社団法人北海道林産技術普及協会</p> <p>2020;「X 線 CT によるアイヌ民族資料の調査～保存修復から技術伝承まで～」『日本文化財科学会公開講演会シリーズ「文化遺産と科学」文化財継承と 3D 技術 II』(筆頭) 日本文化財科学会</p> <p>2019;「X 線 CT によるアイヌ民族資料「シントコ(行器)」の製作技法および劣化現況に関する調査」『北海道博物館研究紀要』第 4 号 (筆頭)</p> <p>2019;「新規導入展示ケースにおけるアルデヒド類の放散について」『北海道博物館研究紀要』第 4 号 (筆頭)</p> <p>2019;「平成 30 年度 北海道博物館資料保存修復報告」『北海道博物館研究紀要』第 4 号</p> <p>2018;「津波による水損文化財の緊急避難措置としての低酸素濃度処理法の評価(Ⅱ)―紙製文化財に対する好気性糸状菌の活動抑制効果について―」『北海道博物館研究紀要』第 3 号</p>	

櫻 井 万 里 子 SAKURAI Mariko	職 名	学芸部社会貢献グループ兼博物館研究グループ主査
	学 位	学士、1997 年(藤女子大学文学部国文学科)
	担当分野	図書館情報学
所 属 学 会	日本図書館協会、専門図書館協議会	
研 究 課 題	・博物館の研究成果のデータベース化及び情報発信に関する研究	

鈴木 明世 SUZUKI Akiyo	職 名	学芸部道民サービスグループ兼博物館研究グループ研究職員
	学 位	修士、2018年(早稲田大学大学院創造理工学研究科)
	担当分野	建築学
所 属 学 会	日本建築学会、日本生活学会、道具学会	
研 究 課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・野外博物館における歴史建造物の保存・修復に関する研究 ・北海道及び寒冷地の住生活文化に関する研究 ・北海道における建築技術の流入・変質に関する研究 	
近年の主な業績	<p>2019;『『野外博物館 北海道開拓の村』に保存・展示される建造物の図面整理状況についての現状報告』『日本建築学会学術講演梗概集 2019(歴史・意匠)』</p> <p>2018;「千年村研究 地質基盤と社会構造の変遷からみる千年村の持続形態 ―群馬県利根川流域を対象として―」(早稲田大学大学院修士論文)</p> <p>2018;『長谷寺門前町周辺地区景観まちづくりの手引き』奈良県桜井市 (共著)</p> <p>2017;「土地条件の違いによる養蚕民家の変容過程の差異」『日本建築学会学術講演梗概集 2017(建築歴史・意匠)』(筆頭)</p> <p>2016;「アイヌ語地名から見る現北海道沙流川流域における生活空間 その変遷過程の解明 ―千年村研究その8―」『日本建築学会学術講演梗概集 2016(建築歴史・意匠)』(筆頭)</p>	

鈴木 あすみ SUZUKI Asumi	職 名	学芸部博物館基盤グループ兼博物館研究グループ学芸員
	学 位	修士、2018年(帯広畜産大学大学院)
	担当分野	博物館資料学
所 属 学 会	日本哺乳類学会、日本生態学会、デジタルアーカイブ学会	
研 究 課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・小型哺乳類の骨格についての機能形態学的研究 ・博物館資料の情報の利活用に関する研究 	
近年の主な業績	<p>2020;「久保寺逸彦旧蔵のアイヌ民具資料ほか ―2019年度新収蔵資料の紹介―」『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第5号 (共著)</p> <p>2018;「トガリネズミ形目4属における椎骨の半地下適応に関する機能形態学的比較」(帯広畜産大学大学院修士論文)</p> <p>2016;「トガリネズミ属動物2種における掘削適応に関する椎骨の機能形態学的比較」(帯広畜産大学卒業論文)</p>	

渋谷 美月 SHIBUYA Mizuki	職 名	学芸部道民サービスグループ兼博物館研究グループ学芸員
	学 位	学士、2018年(京都工芸繊維大学)
	担当分野	博物館教育学
所 属 学 会	なし	
研 究 課 題	・持続可能な社会における博物館の役割に関する研究	
近年の主な業績	<p>2020年3月より、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響で登校や外出ができない子どもを対象に自宅で楽しく学べるコンテンツをオンラインで配信する「おうちミュージアム」を企画運営。全国多数のミュージアムと連携して取組を行った。</p> <p>2018年4月より2019年3月までの期間、デザイン・クリエイティブセンター神戸の企画スタッフとして勤務し、子どもたちの創造性を育むワークショップ「ちびっこうべ」や、シニアの地域での活躍を目指す教室や場づくり等の企画運営に携わった。</p>	

村 上 孝 一	MURAKAMI Kouichi	職 名	総務部企画グループ兼博物館研究グループ学芸員
		学 位	学士、1978 年(北海道工業大学建築工学科)
		担 当 分 野	建築
所 属 学 会	日本建築学会、日本民俗建築学会		
研 究 課 題	・野外博物館北海道開拓の村復元建造物の保存・修復に関する研究 ・北海道の住生活文化に関する研究		
近年の主な業績	2018;「滋賀県、福井県、石川県の川下、川裾、川濯信仰の伝承」『北海道博物館研究紀要』第 3 号（共著） 2017;「兵庫県、鳥取県、岡山県境にみる川下、川裾、川濯神の伝承」『北海道博物館研究紀要』第 2 号（共著） 2016;「世代間対話の場としての博物館づくり ― 総合研究プロジェクト『モノをめぐる価値観の変遷とその多様性に関する近現代史』研究報告―」『北海道博物館研究紀要』第 1 号（共著） 2016;「加古川水系と由良川水系の川下、川裾、川濯信仰の伝承」『北海道博物館研究紀要』第 1 号（共著）		

アイヌ民族文化研究センター・アイヌ文化研究グループ

小 川 正 人 OGAWA Masahito	職 名	学芸副館長兼アイヌ民族文化研究センター長兼学芸部長
	学 位	博士(教育学)、1995 年(北海道大学)
	担 当 分 野	アイヌ史(教育史)
所 属 学 会	教育史学会、北海道・東北史研究会、日本教育学会	
研 究 課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・近代北海道のアイヌ教育史に関する調査研究 ・近代アイヌ史研究に関する基礎的資料の収集・整理と提供 ・アイヌ史に関する研究情報の集積と提供 	
近年の主な業績	2020;「アイヌ文化展示施設「エカシケンル」関連の新資料 ―2019 年新収蔵資料の紹介―」『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第 5 号 (共著) 2019;「雑誌『ウタリ乃光リ』及びチン青年団団則 ―2018(平成 30)年度新収蔵資料の紹介2―」『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第 4 号 2018;「教科書とアイヌ像 : アイヌ民族と教科書の問題の現在」『世界の教科書にみる昔話』三弥井書店 2018;「釧路市・清野写真館旧蔵写真―2017 年度新収蔵資料の紹介―」『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第 3 号 (筆頭) 2017;「鍋沢元蔵書誌」『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第 2 号 (筆頭) 2016;「アイヌ文献目録 2000～2009(その 2) 〈雑誌・逐次刊行物編〉」『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第 1 号 (筆頭)	

甲 地 利 恵 KÔCHI Rie	職 名	アイヌ文化研究グループ兼学芸部社会貢献グループ研究主幹
	学 位	修士(教育学)、1988 年(東京学芸大学大学院教育学研究科)
	担 当 分 野	アイヌ文化(音楽)
所 属 学 会	東洋音楽学会、日本民俗音楽学会、北海道民族学会	
研 究 課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道内の各地域に伝承されるアイヌ音楽についての調査研究 ・アイヌの歌謡の旋律構造と歌唱形式に関する調査研究 	
近年の主な業績	2018;「アイヌ音楽の音声資料―公開されたアナログレコード盤―」『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第 3 号 2017;「アイヌ音楽における奇数拍節及び『音頭一同』形式との関係について」『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第 2 号	

大 谷 洋 一 OOTANI Yoh'ichi	職 名	学芸部社会貢献グループ兼アイヌ文化研究グループ研究職員
	学 位	
	担 当 分 野	アイヌ文学
所 属 学 会	日本口承文芸学会	
研 究 課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・アイヌ口承文芸「和人の散文説話」資料に関する調査研究 ・アイヌ語原文による口承文芸資料の情報収集と調査研究 	
近年の主な業績	2019;「アイヌ口承文芸『散文説話』―タンネサラの男―」『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第 4 号 2018;「アイヌ口承文芸『散文説話』―人間の女に惚れたフリを殺した男―」『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第 3 号 2017;「アイヌ口承文芸で語られる河童について」『口承文芸研究』第 40 号 日本口承文芸学会 2017;「アイヌ口承文芸『散文説話』―山の神と沖の神の子を身ごもった女の物語―」『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第 2 号 2016;「アイヌ口承文芸『散文説話』―河童に助けられた男の物語―」『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第 1 号	

田 村 雅 史 TAMURA Masashi	職 名	学芸部博物館基盤グループ兼アイヌ文化研究グループ研究主査
	学 位	博士(文学)、2011 年(千葉大学大学院社会文化科学研究科)
	担当分野	アイヌ語
所 属 学 会	日本語学会	
研 究 課 題	・北海道東部地域のアイヌ語資料に関する基礎的調査	
近年の主な業績	2019;「アイヌ語ブロックのその後 ―普及行事での活用―」『北海道博物館研究紀要』第 4 号 2017;「2016 年度博物館実習において実施した来場者調査について」『北海道博物館研究紀要』第 2 号 (共著) 2016;「北海道博物館における言語展示への試み(報告) ―総合展示第 2 テーマに設置した『アイヌ語ブロック』を中心に―」『北海道博物館研究紀要』第 1 号 (筆頭)	

遠 藤 志 保 ENDO Shiho	職 名	総務部企画グループ兼アイヌ文化研究グループ研究職員
	学 位	修士、2007 年(千葉大学大学院文学研究科)
	担当分野	アイヌ文学
所 属 学 会	日本口承文芸学会	
研 究 課 題	・鍋沢元蔵氏筆録資料をテキストとした、アイヌ英雄叙事詩に関する研究	
近年の主な業績	2020;「アイヌ英雄叙事詩における風景描写 ―鍋沢元蔵のテキストから―」『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第 5 号 2018;「アイヌ英雄叙事詩におけるハヨク ペの語られ方」『口承文芸研究』第 41 号 日本口承文芸学会 2017;「北海道」『47 都道府県・妖怪伝承百科』丸善出版 2017;「アイヌ英雄叙事詩における登場人物の感情表現」『ひろがる北方研究の地平線 中川裕先生還暦記念論文集』サッポロ堂書店 2016;『国立民族学博物館調査報告 No.134 国立民族学博物館所蔵 鍋沢元蔵ノートの研究』(共編)	

大 坂 拓 OSAKA Taku	職 名	学芸部博物館基盤グループ兼アイヌ文化研究グループ研究職員
	学 位	修士、2008 年(明治大学)
	担当分野	アイヌ文化(生活技術)
所 属 学 会	日本考古学協会、考古学研究会、北海道考古学会	
研 究 課 題	・アイヌの物質文化に関する基礎的研究 ・物質文化から見た噴火湾アイヌの近現代史 ・北海道博物館所蔵資料に関する基礎情報の集積	
近年の主な業績	2020;「北海道アイヌの葬送用広紐 ―形態の地域差及び日高東部地域における東方系・西方系出自集団との関係について―」『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第 5 号 2020;「渡島半島におけるアイヌ社会と民具資料収集者の視野 ―開拓使函館支庁管轄地域を中心として―」『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第 5 号 2020;「久保寺逸彦旧蔵のアイヌ民具資料ほか ―2019 年度新収蔵資料の紹介―」『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第 5 号 (筆頭) 2020;「アイヌ文化展示施設「エカシケンル」関連の新資料 ―2019 年新収蔵資料の紹介―」『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第 5 号 (筆頭) 2019;「浜益地域のアイヌ民具資料に関する基礎的検討」『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第 4 号 2019;「アイヌ民族の編袋 ―地域差と年代差、及び「土産物」・「伝統工芸品」としての継承―」『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第 4 号 2018;「アイヌ民族の荷縄―地域差と年代差、及び用途による形態差に関する基礎的検討―」『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第 3 号	

亀丸 由紀子 KAMEMARU Yukiko	職 名	学芸部道民サービスグループ兼アイヌ文化研究グループ学芸員
	学 位	修士、2019 年(北海道大学)
	担当分野	アイヌ文化(民具)
所 属 学 会	日本ミュージアム・マネジメント学会	
研 究 課 題	・アイヌの物質文化に関する基礎的研究 ・先住民族と博物館の関わりに関する研究	
近年の主な業績	2020;「アイヌ民族の耳飾りに関する基礎的研究 ―国内博物館等収蔵資料を中心として―」『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第5号 2020;「久保寺逸彦旧蔵のアイヌ民具資料ほか ―2019 年度新収蔵資料の紹介―」『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第5号 (共著) 2020;「アイヌの衣服資料について ―北海道博物館所蔵アイヌ民具資料整理報告 1―」『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第5号 2019;「博物館と先住民の共同に関する研究 ―博物館勧告・ガイドラインを事例として―」(北海道大学大学院修士論文)	